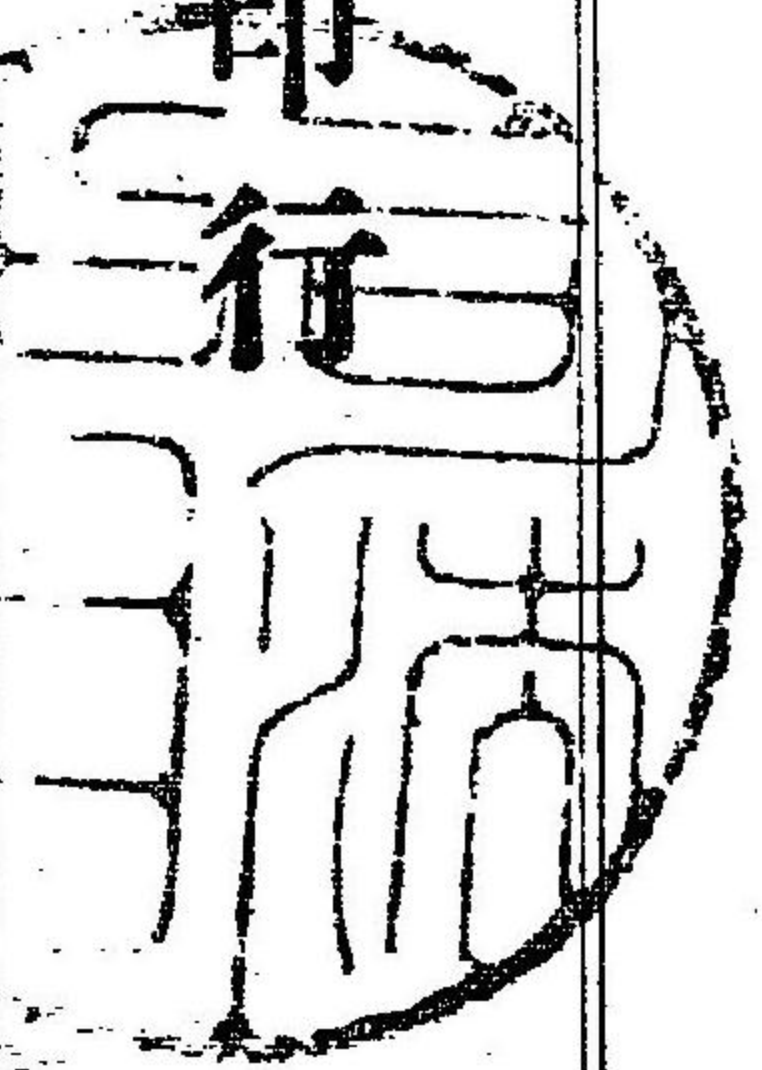


明治十九年四月六日

國權齋藏版

# 大審院民事判決錄

明治十九年二月印行





~~CZ~~  
~~2/14~~  
~~01~~  
~~CZ~~  
~~2/11~~  
~~7~~

CZ  
2811  
10

大審院民事判決錄  
明治十七年  
十一月十二日分

目次

第五百二十九號	辦償金要求一件	一丁
第五百四十號	用水堰分流爭論一件	五丁
第五百四十一號	貸金催促一件	三三丁
第五百四十二號	約定執行一件	三六丁
第五百四十三號	永小作權爭論一件	三九丁
第五百四十四號	公村費立換金請求一件	四五丁
第五百四十五號	貸金催促一件	五二丁
第五百四十六號	貸金催促一件	五五丁
第五百四十七號	貸金催促一件	五九丁
第五百四十八號	質地受戻約定履行一件	六二丁
第五百四十九號	渡船受負解約故障解除一件	六八丁
第五百五十號	貸金催促一件	七一丁
第五百五十一號	波須村舫地地券名義登記差拒一件	七五丁
第五百五十二號	妻引戻及送籍請求一件	八五丁
第五百五十三號	損害要償一件	八九丁
第五百五十四號	貸米代金催促一件	九七丁



第五百五十五號	庄屋地故障一件	一〇二丁
第五百五十六號	貸附蓋玉代金催促一件	一〇九丁
第五百五十七號	川濬差拒一件	一一三丁
第五百五十八號	貸金催促一件	一一六丁
第五百五十九號	家督相續届取消一件	一一八丁
第五百六十號	地所取戻一件	一二三丁
第五百六十一號	越石德米請求一件	一二九丁
第五百六十二號	貸金催促一件	一三八丁
第五百六十三號	貸金催促一件	一四一丁
第五百六十四號	貸金請求一件	一四五丁
第五百六十五號	日用妨害一件	一四九丁
第五百六十六號	地請證書調印請求一件	一五六丁
第五百六十七號	敷金取戻一件	一六三丁
第五百六十八號	地所取戻一件	一六七丁
第五百六十九號	貸金催促裁判執行一件	一七一丁
第五百七十號	貸金催促一件	一七六丁
第五百七十一號	貸金催促一件	一八一丁
第五百七十二號	貸金催促一件	一八六丁

第五百七十三號	名稱所用爭論一件	一九一丁
第五百七十四號	用水路妨害解除一件	一九五丁
第五百七十五號	横奪干鯛代金取戻一件	二〇一丁
第五百七十六號	入會山契約違背者入山差拒處分請求一件	二〇七丁
第五百七十七號	秣苧取願書連印差拒一件	二二六丁
第五百七十八號	證書取戻一件	二三〇丁
第五百七十九號	貸金催促一件	二三四丁
第五百八十號	約定履行一件	二三六丁
第五百八十一號	貸金催促一件	二三九丁
第五百八十二號	後見解除財產引渡請求一件	二四四丁
第五百八十三號	地券書換請求一件	二五二丁
第五百八十四號	山地分割約定履行一件	二六一丁
第五百八十五號	證書抵當貸金催促一件	二六九丁
第五百八十六號	地所抵當貸金催促一件	二七三丁
第五百八十七號	貸金催促一件	二七六丁
第五百八十八號	貸金催促一件	二八一丁
第五百八十九號	專擅相續取除戶籍名面訂正一件	二八五丁
第五百九十號	小作金穀催促一件	二九二丁



第五百九十一號	山林賣買解約一件	二九六丁
第五百九十二號	貸金催促一件	二九八丁
第五百九十三號	約定證ヲ以テ損害要償一件	三〇三丁
第五百九十四號	開墾農産會社所有山取戻一件	三一〇丁

四

大審院民事判決錄 明治十七年十一月十二日分

○第五百三十九號

辨償金要求一件 上告ノ判文 (明治十六年十一月五日 上告) 十一月四日申渡

長野縣信濃國南佐久郡内山村 平民

小林 三郎

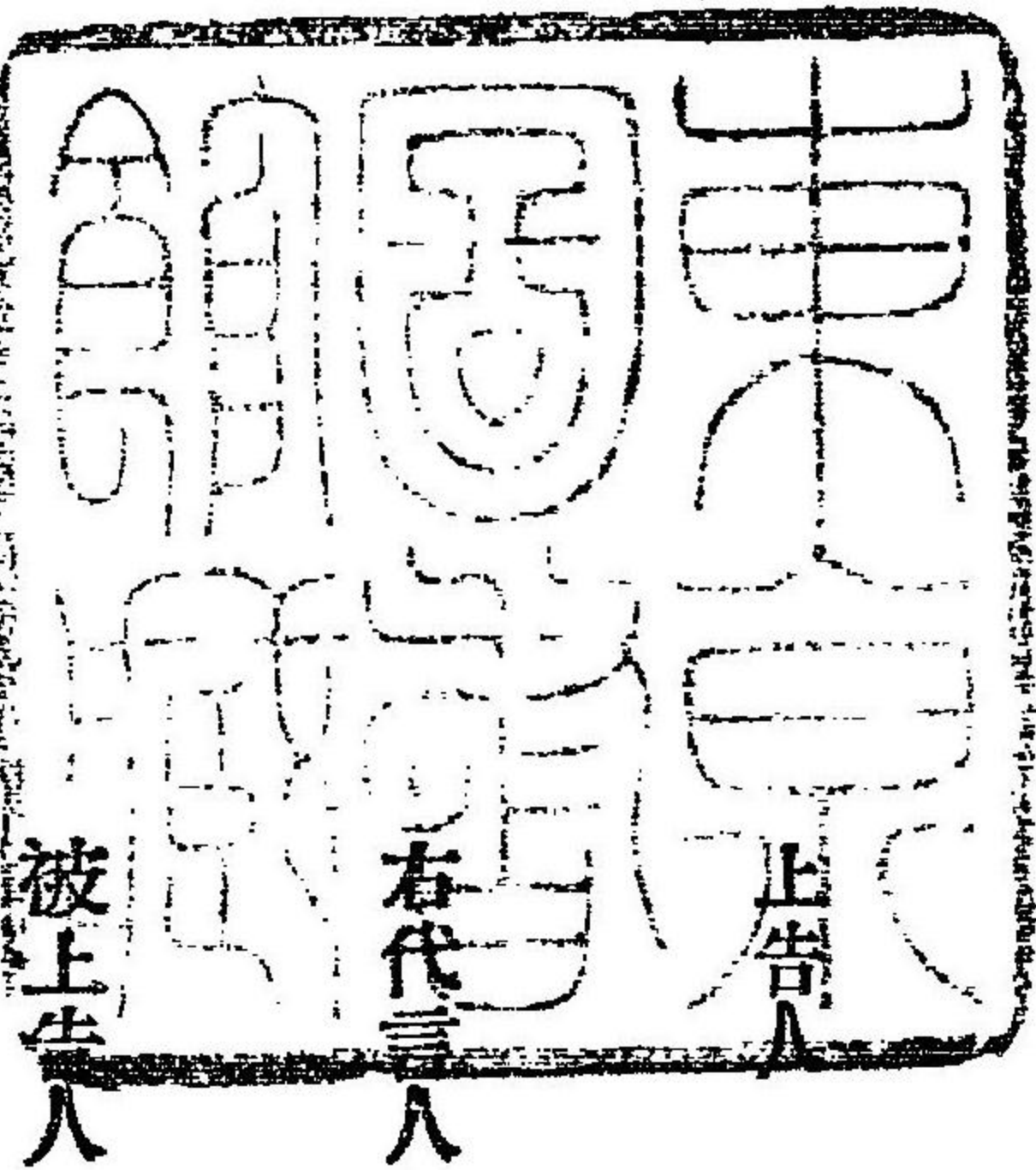
東京府神田區錦町一丁目十番

地寄留岐阜縣平民

渡邊 義雄

長野縣信濃國南佐久郡内山村 平民

松崎 翁助



上告ノ要領

本案ニ對スル長野始審裁判所上田支廳ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要領ハ左ノ如シ  
 本案ノ争ヒハ被上告甲第一號證書ハ連帶ノ義務アル證書ナルヤ將々連印ノ證書ナルモ別  
 ニ分借ノ明證アリテ分借ナリヤ否ヤノ一點ニ止マレリ而シテ長野始審裁判所上田支廳ノ  
 判決ヲ分拆スレハ當サニ左ノ如クナルヘシ

第一 抵當ノ地所ノ下ニ松崎半七分トアルト半七ハ資力微弱ナル故地所ヲ書入云々ノ申



立トヲ以テ其義務ヲ分擔セシムルノ意旨タルヲ推知スヘシトノ事

第二 久米吉ヨリ貳拾圓ニ利子ヲ加ヘ異義ナク返濟ヲ受ケタルハ原告ハ初メヨリ分借ノ意旨タルヲ證スヘシトノ事

第三 若シ連帶義務アルモノトスルキハ久米吉ノ資力十分ナルヲ以テ半七分トシ別ニ抵當ヲ取り置クノ理ナシトノ事

第四 證書ニ連帶義務ノ明文ナケレハ分借證書ト認メサルヲ得ストノ事  
以上四項ノ事柄ヲ以テ上告者ニ辨償ノ義務アリトセラレタルノ不法ナルヲ逐一左ニ辨駁セントス

第一項ノ松崎半七分トアル分ノ字ヲ半七分借ノ分ノ抵當ト誤解セラレタルモノ、如シ然レトナレハ被上告甲第一號證ニ(一金四拾圓也此書入一畑壹反四畝拾五步松崎半七分)トアリ其レ此書入トハ四拾圓ニ對スル書入ト解釋スルノ外ナケレハ則チ金額ノ抵當ニシテ分借ノ抵當ニアラサルヲ判然タルヲ以テナリ  
又半七八資力微弱云々ノ事ニ就テハ債主ト負債主トノ關係及ヒ連帶義務者中ノ關係ト連帶義務者ト保證人ト債主トノ關係等ヲ混同セラレシモノト云ハサルヲ得ス債主ニ對スル上ノミニ就テ論スルキハ連帶義務者中ニ資力アルモノ一人アレハ或ハ十分ナルヘシト雖モ連帶義務者中ニ資力アルモノハ壹人ニテ全額ヲ返濟シ他ノ一人カ費用セシ金圓ヲ取戻シ能ハサルノ恐レアレハ資力微弱ノ人ト連帶ヲナスニ於テハ保證物ヲ出サシム

ルノ必用アルナリ而シテ保證人ハ辨償ノ憂ナキモ若シ返濟遲滞セハ督責ヲ受クルノ恐レアルヲ以テ半七分ハ抵當物ヲ出サシメ若シ淹滞セハ地所ヲ引取り返濟ノ方法相立ツヘシト約シタルナリ分借ニシテ久米吉ハ資力アリ半七八資力ナキ故分借ノ保證物ヲ出サシメタリト云ヒタルニハアラサルナリ之ヲ如何ソ分借ナリト推測スルヲ得ヘケンヤ況ンヤ前述ノ如ク此書入ト金額ノ抵當タルノ明文アルニ於テオヤ  
其第二項ハ固ヨリ貸與セシ金額ナレハ請取ルヘキハ當然ニテ毫モ惟シムニ足ルモノナク原告カ擅ニ久米吉ヨリ貳拾圓ト利子ヲ請取リタリト云フヲ以テ分借ナルヲ證セントスルハ自カラ己レヲ證スルモノニテ自ラ製セシ證書ヲ以テ訴ヲ提起スルト何ソ擇ハン之ヲ以テ被上告者カ甘受シ居レル甲第一號連借證ト比較セハ其効力ノ優劣果シテ如何ソヤ被上告者ノ如キハ久米吉ト通謀シ故ラニ連帶義務ヲ釋放シ以テ上告者ニ辨償ノ義務ヲ負ハシメシトノ奸策ナリト評スルノ外ナキナリ  
其第三項ハ甚ダ會得シ易キ事ニシテ假令一人ハ資力アルモ猶他ノ一人ヨリ抵當ヲ取り自己ノ權理ヲ十分ニ保護セント計畫スルハ債主タルモノ、常情ニシテ自己ノ權理ヲ薄弱ナラシメント命スルモノハ未タ曾テ見聞セサル所ナレハ久米吉カ資力アル上猶半七分ノ地所ヲ以テ抵當トナシタリ逆焉ソ分借ナリト論スヘキノ道理アラシヤ況ンヤ半七分トシ別ニ抵當ヲ取り置クトハ判官一己ノ想像ニテ被上告甲第一號證ヲ一覽セハ荷モ字ヲ讀ムトヲ解スル已上ハ此書入トハ即チ全額四拾圓ノ書入タルヲ知ルヘキハ第一項ニ就テ論セシカ如クニシテ分借ノ別抵當ニアラサルヲ瞭々火ヲ見ルヨリモ明カナルニ於テオヤ



其第四項ハ別ニ喋々ヲ要スルニ及ハス明治八年第六十三號公布ニ（借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ云々）トアリ此法文ト全ク反對シ法律ニ違ヒタルヲ明白々毫モ容疑ノ地ヲ餘サハルナリ

如斯論スルモハ原裁判ノ不法ナルコトハ已ニ明瞭ナリト信スレモ尙ホ被上告甲第一號證及ヒ連借ニ關スル法律ニ付キ一言セントス抑甲第一號證ハ金四拾圓トアリテ分借ノ員數ヲ記載セサルノミナラス此書入トアリテ地所ハ半七所有ノ分ナルモ全額四拾圓ノ抵當ナリ其未文ニハ連印借用ノ文詞アリテ帶借ノ借用金ナルコト明カナリ而シテ明治八年第六十三號公布ニ連印ニテ分借ノ員數記載ナケレハ連帶シテ償却セシムルノ明文アリ又十三年司法省丁第三號達アリ必ス訴答文例第廿五條ニヨリ連帶ノ義務者一同ヲ被告スヘク一二ノ義務者ノミヲ擇ムヲ得サルノ主意ナリトス尤モ六十三號布告ニ別ニ分借ノ明證アルハ此限ニアラストノ取除アレモ本訴ノ如キ決シテ別ニ分借ノ明證ナキニ第一項ヨリ第四項ニ至ル法理ヲ誤リタル推測想像若クハ被上告者カ自ラ己レヲ證スルノ行爲又ハ成法ニ反シタル認定ヲ以テ甲第一號證ヲ連借證ニアラストナシ分身同體ナル連帶ノ一人久米吉カ未タ義務ヲ盡サハレハ上告者ハ未タ義務ヲ生セサルニ辨償ノ義務アリトセラレタルハ極メテ不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス

被上告者ハ明治十七年三月十一日附ヲ以テ召喚狀ヲ發シタルニ其期限經過スルモ何等ノ申立モナク出頭セス依テ明治十七年八月廿二日附ヲ以テ至急出頭可致相達シタル處代言人ヲ以テ出頭答辨書可差出旨申立タリ然ルニ其儀無之ニ付尙又明治十七年十月十日附ヲ以テ十

一月一日迄ニ出頭スヘキ旨ノ召喚狀ヲ發セシニ其居村戸長竹花康五郎ヨリ被上告者不在ニテ送達スル能ハサル旨ヲ以テ該召喚狀還納セリ

依テ大審院ハ被上告者ハ答辨ノ權ヲ拋棄シタルモノト見做シ關席ノ儘判決スル左ノ如シ被上告甲第一號證ヲ按スルニ金四拾圓也トアルノミニシテ分借ノ員數ヲ記シアルニアラス而シテ「畑壹反四畝拾五步」トアル下ニ「松崎半七分」トアル其「分」ノ字ハ其地所カ半七所有ノ分ト云フ義ニ認メ得ヘクモ之ヲ半七カ借用分ニ對スル抵當ノ意義ナリトハ爲シ難シ如何トナレハ該借用證ニ「金四拾圓也此書入」畑壹反四畝拾五步」ト記載アリテ「此書入」トハ即チ金四拾圓ノ金額ニ對スル書入ト解釋セサルヲ得サレハナリ又依田久米吉カ前ニ金貳拾圓ニ利子ヲ加ヘ返辨シタルヲ被上告者ニ於テ之ヲ領收シタルハ以テ分借ノ證憑ト爲スヘカラサルナリ如何トナレハ自己ノ隨意ニ爲シ得ヘキ行爲ハ他人ニ對シテ己ノ利益ト爲ルヘキ證據ト爲サシムヘカラサルハ固ヨリ當然ノ道理ナレハナリ由是觀之ハ被上告甲第一號證ニハ別ニ分借ノ員數ヲ記セサルハ勿論他ニ分借ト視認ムヘキ證憑アルニモアラサレハ分借ノ證書ナリトハ認ムヘカラサルモノトス然ルニ原裁判官カ「證書ニ連帶義務ノ明文アルニ非サレハ分借證書ト認メサルヲ得サルモノトス」ト裁判シタルハ不法ノ裁判ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ長野始審裁判所上田支廳ニ於テ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受ケシメンカ爲メ長野始審裁判所松本支廳ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百四十號



用水堰分流爭論一件上告ノ判文(明治十六年十一月五日上告)

全十七年十一月四日申渡

六

長野縣信濃國北佐久郡布施村

總代同村平民

原告

春原雄治郎

土屋忠右衛門

東京府京橋區南鍋町一丁目一

番地寄留佐賀縣士族

右代言人

秀島虎二郎

長野縣信濃國北佐久郡五郎兵衛

衛新田總代同村平民

被告

松川繁一郎

外三名

東京府京橋區三十間堀三丁目

五番地平民

右代言人

星

亨

本件ハ用水堰分流爭論一件ノ詞訟ニ係ル今マ其顛末ヲ審査スルニ左ノ如シ

本訴ハ元ト五郎兵衛新田原告トナリ布施村ニ對シ舊松本裁判所上田支廳へ起訴シ該裁判  
廳ニ於テ與ヘタル裁判ヲ不服ナリトシ五郎兵衛新田ヨリ舊東京上等裁判所へ控訴シ同裁

判所ニ於テ言渡シタル裁判モ亦不當ナリトシ猶ホ五郎兵衛新田原告トナリ本院へ上告シ  
本院ハ該裁判ヲ破毀シ之ヲ舊宮城上等裁判所へ移シ宮城控訴裁判所ハ五郎兵衛新田ヲ曲  
者ナリト判決シタルヲ以テ五郎兵衛新田ヨリ本院へ再上告ヲナシ本院ハ該裁判ヲ破毀シ  
更ニ本院ニ於テ判決スヘキ旨申渡シタルヲ以テ布施村原告トナリ訴狀ヲ呈スルニヨリ本  
院ニ於テ審判スルヲ至リタル者ナリ

原告布施村カ審判願ヲ爲ス要旨ハ左ノ如シ

原告村布施川ハ其源ヲ字濠篠ニ資リ稍々降テ字鬘水ヲ合セ其延長凡ソ三里強其幅論所ノ  
上部ハ三尺以内論所ノ下部ハ三尺内外ナリ而シテ該堰ノ開始ハ即チ原告村ノ開始ト其時  
ヲ同フセリ否ナ寧ロ原告村ハ該堰水ニ賴テ開發シタリト謂ツテ可ナリ故ニ飲用ニ耕耘ニ  
原告村カ該水ヲ必要トスルハ寔ニ空氣日光ト一般ナリトス彼ノ被告村カ數線ノ川流ヲ有  
セル類ニアラサルナリ蓋シ這ハ一葉ノ實地繪圖ヲ披ケハ忽チ了知シ得ラル、一ナレハ今  
更原告カ言ヲナスニ及ハサル可シ且該堰ハ往昔原告村カ特ニ人工ヲ用テ築設ナシタル者  
ニシテ偶然享用セル流水ノ比ニアラサルナリ但原告人カ人工ヲ用テ該堰ヲ築キ且斷ヘス  
原告カ該水ヲ専用シアルコトハ古來衆人ノ知ル所ニシテ被告モ亦承認スル所ナリ何者被告  
ハ原告ニ係リ現ニ該人工ノ堰ヨリ其分流ヲ受ケンコトヲ求メタレハナリ又被告第二號證ニ  
據ルモ布施川堰カ人工上ノ成立ナルト且其堰カ經久ノモノナルトヲ證シ得テ允ニ明ラカ  
ナレハナリ故ニ原告ニ於テ該事實ヲ證明スルハ敢テ緊要ニアラスト雖モ念ノタメ之ヲ證  
セハ乃チ原告第一號乃至第二十號證及番外證ハ乃チ其適證ナリトス且夫レ該堰ハ山腹平

七



夷ノ間ヲ迂回シテ引キタルモノナレハ苟モ人工ヲ用ヒスシテ自ラ成ル者ニ非ラサルナハ尋常ノ考ヘヲ以テスルモ亦タ知り得ヘキナリ夫レ如斯該堰ハ一ニ原告村ノ勞働ニ由テ成立チ且ツ二百數十年來原告村ノ專用スル所ナルニ明治十年六月中被告ハ頓カニ字釣邊澤ノ上部ニ方ル原告ノ堰縁ヲ數々破壊シ而シテ天然ノ澤溪ニ接續セシメテ以テ引水セント謀リタリ因テ原告ハ其事情ヲ行政廳ヘ具狀シタリシニ被告ハ其機ヲ察シ却テ該全流ハ己レカ專用スル所ナルニ原告ニ於テ其水ヲ奪ヒタリト上申シタリ於是乎行政廳ハ雙方ノ事情ヲ取調ヘラレタレトモ到底事調和ニ至ラスシテ却下サレタリ然ルニ被告ハ其翌即チ明治十一年四月ニ至リ更ニ松本裁判所管内上田區裁判所ニ向テ該全流ハ己レノ用水ナルニ原告ニ於テ新タニ堰ヲ穿テ該水ヲ奪ヒタリトノ勸解願ヲナシタレトモ竟ニ不調ニ歸シタリ而シテ本訴ニ至リ全流ニ對スル請求ハ自カラ其非理ナルヲ悟リタル歟頓カニ訴旨ヲ變更シテ分流ヲ得ンコトヲ要求セリ夫レ如斯僅少ノ時間ニアリテ前後ノ訴旨ニ大變異ヲ生スル所以ハ抑モ被告ノ求メノ非理ナルヲ認知スルニ足レリ何者苟モ該要求カ正當ナル根據アルモノナラハ如此戲レニ類スル所爲アル可ラサルヲ以テナリ以上ハ本件必要ノ事實ナリトス而シテ今マ被告カ該分流ヲ得ルノ證據トシテ其第一號乃至第二十六號證ヲ呈スルモ其呈スル所ノ書類ハ皆ナ原告ニ對シテ布施川堰ヨリ分流ヲ得ヘキ適證トナスニ足ラス何者原告村ノ許シヲ得テ特ニ人工ノ堰ヨリ分水ナシタリト視ルヘキモノ一モ之レアラサレハナリ又實ニ實際上人工ノ堰ヨリ天然ノ溪澤ヘ分水スルカ如キ事實ノアルヘキ理由アラサルナリ又事實上ヨリ論スルキハ原告布施川ハ山腹平夷ノ場所ニアリテ横ハリ被告自稱

ノ上堰口ハ山岐崎嶇ノ場所ニアリテ溪澤ニ向ヒ傾下セリ尙ホ言ヲ縮メテ之ヲ云ヘハ原告布施川ハ平ニシテ被告自稱ノ堰路ハ峻ナリ而シテ「チ」號ヨリ「カ」號<sup>原告</sup>堰路マテノ高低ト「チ」號ヨリ「リ」號<sup>被告</sup>堰路マテノ高低ヲ比較スレハ二間ノ間ニ被告自稱ノ堰路ハ其下リ壹尺八寸七分ニシテ原告堰路ノ下リハ僅カニ五寸九分ニ過キス尙ホ被告カ自カラ舊水底ナリト明認スル「ハ」號ヨリ「リ」號マテト「チ」號ヨリ「カ」號迄トヲ對比スレハ乃チ二間ノ間ニ被告自稱ノ堰路ハ二尺九寸七分ノ大ナル下リヲ生シ原告堰路ハ僅ニ五寸九分ノ下リニ過キス殊ニ被告自稱ノ分流口<sup>上</sup>ハ上流ノ衝突スル箇所ニ當レハ若シ被告ノ請求ニ任セ原告ノ堰路ヲ埋立テ以テ水底ヲ同平ナラシメ又堰幅ヲ全幅ナラシメハ布施川ノ全水ハ悉ク鼻ニ就テ走り候チ原告堰路ニハ一滴ノ餘水ヲモ見サルニ至ルハ寔ニ實地上動カス可ラサル事由ニシテ且水理上亦タ允ニ然リトス況ヤ原告布施川ハ其幅總カニ三尺許寔ニ兩腕ヲ伸ヘタル廣サニ至ラス而シテ其川ノ位置ヲ見レハ山腹平夷ノ所ニ在リテ延長數里ニ連レリ故ニ被告カ言ノ如ク同幅同平ノ分流口ハ愚ロカ四寸或ハ五寸程ノ鎖小ナル口ヲ開クモ亦タ全流ヲ吸取シテ以テ布施川ヲ涸渴セシムルニ足ルニ於テヤ又被告自稱ノ下堰口「ワ」號ノ位置ハ其南向ヒナル「ソ」號ノ堰縁ヨリ一寸五分高キカ故ニ設シ該「ワ」號ヨリ流下スヘキ水アリトセハ「ソ」號ノ堰縁ニ添フタル平地ハ常ニ深サ一寸五分許リノ水量ヲ被ムラサルヲ得ス然ルニ其平地ニハ芝草繁茂シテ毫モ水ヲ被ムリタルノ痕跡ナキニ依レハ被告カ「ワ」號ヨリ分水ヲ得タリトノ論ハ虛妄ノ甚タシキモノナリ況ヤ「ワ」號ノ口ト原告堰路ト全平ナラシメタランニハ「ワ」號ハ其上下ノ馬踏ト高低ナキニ由リ流水ハ常ニ馬踏ヲ



踏ヘテ溢流シ爲メニ原告堰路ニハ一滴ノ水ナキニ至ランコト事實上然ラサルヲ得サルニ於  
 テヲヤ以上ノ事實ニシテ乃チ事實ヨリ推スルハ原告布施川ト被告自稱ノ堰路トニ恰好ニ  
 能ク流水セントノ説ハ坐上論シ得可キモ實地行フ能ハサル事柄ニシテ到底採ルニ足ラサ  
 ルノ空論ナリトス是レ原告カ原告布施川ト被告自稱ノ堰路トハ實際兩立スルモノニ非ラ  
 スト斷言シタル所以ナリ而シテ該事實ニ就テハ原告ハ實地檢分ノ必要ナルコトヲ確知セリ  
 何者山勢水量ノ如何ト論所自然ノ高低如何ト水流衝突ノ景狀如何ノ如キハ一繪圖面ノ能  
 ク盡シ得ヘキニ非サレハナリ況ヤ尙ホ他ニ實地檢分ヲ必要トスル廉之レアルニ於テオヤ  
 然ルニ被告ニ於テハ痛ク實地檢分ノ必要ナラサルコトヲ論シテ大ニ忌避スル所アルカ如シ  
 是レ他ナシ設シ實地檢分相成ルニ於テハ原告カ言ノ如ク雙方恰好ニ該水ヲ引用センコトハ  
 實際行フ可ラサル事情ノ忽チ顯然センコトヲ怖レテナリ事實上如斯ナレハ被告ニ幾分カ端  
 緒ノ證據アリト假定スルモ是レ實ニ事實ニ適セサル證據タルニ過キサル而已況ンヤ原告  
 人工ノ堰ヨリ分流ヲ受ケタル端緒ノ證スラ一モ之レ無キニ於テヲヤ又被告自稱ノ堰路ハ  
 天然ノ小澤ニシテ決シテ堰ト名稱ス可キ者ニアラサルコトハ被告カ自カラ明言スル所ナリ  
 然ルニ人工ノ堰ヨリ天然ノ澤ヘ分流ヲ受クルカ如キハ原告ハ未タ曾テ其例ヲ見サルナリ  
 否ナ天下如斯事例ノアル可キ筈アラサルナリ何トナレハ特ニ人工ヲ用テ堰ヲ築設スルモ  
 ノカ故ラニ天然ノ澤ヘ落チ込ムヘキ漏水口ヲ穿チ置クヘキ理由アラサルヲ以テナリ乍去  
 設シ堰ヲ築ク者ニシテ天然ノ漏水口ヲ故ラニ置ク者アリトセン乎是レ徒ニ堰ヲ築クノ勞  
 ヲ執リテ其堰ノ利益ヲ欲セサル者ナリト評下セサル可ラス如此ハ狂者ニ非サレハ痴呆者

ノ爲ス所ニシテ尋常ノ知覺ヲ有スル者ノ爲ス所ニアラサル可キナリ又凡ソ世間ニ分流ト  
 稱ヘ分水ト稱ユルモノハ多クハ契約上ヨリ成立ツモノニシテ未タ嘗テ一方ハ人工ノ堰ニ  
 シテ他一方ノ天然ノ流下ナルカ如キノ事例アルヲ見ス又實ニ本等ノ川ノ如キハ細密ナル  
 方法即チ例セハ時間ヲ割リテ交ル々々引水スルカ或ハ柵ヲ設ケテ水量ヲ分引スルカニ非  
 サレハ到底雙方ニ引用スル能ハサルハ實ニ該川ノ水量ト自然ノ山勢トノ然ラシムル所ナ  
 レハ被告カ原告ニ對シ契約ナクシテ自然ニ引水シ來レリトノ説ハ事實ニ迂ナルノ極ニシ  
 テ信ヲ置クヘキモノニ非サルナリ且被告カ自家ノ水田ニ灌溉スヘキ水ハ西ニ滌々タル湯  
 澤ノ河アリ東ニ滌々タル細小路ノ川アリ而シテ該兩川ニ注入スヘキ水源ハ咸チ立科嶽ノ  
 山腹ニアリテ其狀ヲ圖スレハ恰モ木葉ノ形チノ如シ故ニ被告村ニアリテハ甚シキ旱魃ノ  
 年ト雖モ曾テ用水ノ缺乏ヲ感シタルコト莫シ之レニ反シテ原告村ノ用水ハ布施川ヲ除テ他  
 ニ一滴ノ水ナシトス故ニ原告カ布施川ヲ必要トスルハ空氣日光モ管ナラス蓋シ一日布施  
 川無キキハ則原告村無キナリ實ニ原告村三百數十戸ノ民命ノ繫ル所ト謂ハサル可ラス且  
 夫被告ハ明治十年中原告カ布施川堰路ヲ堀下ケタルカタメ被告自稱ノ堰路ニ水ナキニ至  
 リタリト論スレモ是レ只タ被告カ口實ニ過キスシテ固ヨリ無證據ノ論ナレハ駁スルニ足  
 ラストス尤モ被告ハ該論證トシテ其第廿五及ヒ第二十三號證ヲ舉クレモ該二證ハ被告カ  
 堰路ヲ堀下ケタリトノ證據ト爲スニ足ラス又良シヤ原告ニ於テ自家ノ堰路ヲ堀下ケタル  
 事實アリト假定スルモ固ヨリ人工ノ布施川堰ニ對シ秋毫モ關係ヲ有セサル被告ニ於テ彼  
 此嘴ヲ容ル、ノ理由アラサルナリ以上ノ次第ナルヲ以テ實地檢査ヲモ被爲遂至當ノ裁判



アラントヲ謹テ請願ス

被告五郎兵衛新田カ右ノ審判願ニ對シ答辨ナス要旨ハ左ノ如シ

### 第一條

本訴ノ要旨ヲ大別スレハ則チ左ノ二點ニ分チ得ヘシ

第一被告ハ論水ヲ古來引續キ引用シタルヤ如何

第二原告ハ論水ノ線路ヲ堀下ケタルヤ如何

被告カ論水ヲ引用シ來リタル事實ハ被告提出ノ諸證書ニ徴シテ明白ナレハ前掲ノ第一要點ハ之ヲ本件眞個ノ要點トハ云フヲ得サルナリ然リ而シテ被告カ論水ヲ引用シ來リタル一斯ク明白ナル以上ハ其論水ハ今尙ホ流下スヘキ筈ナルニ現ニ被告ノ堰路ニハ一滴タモ流下セサルナリ已ニ論水カ斯ク被告堰路ニ流下セサル如キ變狀ヲ呈スルニハ必スヤ其原因ナカルヘカラス由テ其原因如何ヲ討究スルコソ本件眞個ノ要點トハナリタルモノト云フヘシ故ニ本件ノ要點ハ前掲ノ如ク之ヲ二個ニ區別センヨリハ寧ロ一點ニ局スルノ穩當ナルヲ覺フ而シテ其一點トハ何ソヤ即チ原告カ其堰路ヲ堀下ケタルヲ以テ原告堰路ハ低ク被告堰路ハ高ク爲メニ被告カ古來引用シタル論水ノ被告堰路ニ流下セサルカ將タ然ラサルカノ一事是ナリ故ヲ以テ被告ハ次下主トシテ原告カ論水ノ線路ヲ堀下ケタルヤ如何ヲ論述シ加フルニ被告カ論水ヲ古來引用シタル事實ヲモ附記スヘシ

### 第二條

本條ニ於テハ原告カ其堰路ヲ堀下ケタル事實ヲ論述スヘシ

第一 原告カ本件ニ係リ長野縣廳ヘ差出シタル書面中即チ被告第二十五號證ニ(右堰天災變換ノ都度々々御普請奉願人足扶持米代金御下阜損年ハ御引方亦ハ拜借金願上已ニ御維新以來去ル六年御救助トシテ拜借金願上ケ年賦返上納濟實ニ困窮ノ村合併ニ就而者前顯歲患無之様全村協力堰線難場修繕可致義ニ決シ本年五月三十日毎戶壹人宛ヲ以テ浚繕仕候)トアリ而シテ原告全村ノ家數ハ三百二十三戸ナレハ(毎戶壹人宛)ノ人夫ハ實ニ二百十三人ナリトス然レハ原告ハ明治十年五月三十日ニ二百十有餘人ノ多人夫ヲ繰出シ以テ原告ノ堰路ヲ修繕浚鑿シタルヤ明白ナリ且夫レ該時ノ浚繕タル定式ノ修繕ニアラスシテ非常ノ工事タリシコト該第廿五號證ノ所記ニ照シテ又明白ナリ今試ニ該證ノ實況ヲ叙スルニ往時ハ前山々新田沓澤新田ノ兩村ニテ浚繕シ來リ何分困窮ノ村柄ニシテ資力乏シク爲メニ永遠ノ工事モ行届カス焦眉ノ急ニノミ應シ來リシカ幸ニ明治九年他五ヶ村合併シ布施村トナリテヨリ以來ハ大ニ面目ヲ一變シ爲メニ資力モ頗ル増加ナシタレハ此際全村<sup>即チ舊村</sup>協力シテ大土工ヲ加ヘ以テ舊來ノ患害ヲ一掃シ因テ生スル利益ヲ永遠ニ保有セント決定シテ原告堰路ヲ浚鑿シタルヤ歴々徴スルニ足レリ然ラハ該時ノ浚鑿ハ實ニ非常ノ工事ナルコト證シ得テ明白ナリ之ニ反シ該時以前ニ在テ原告カ其堰路ヲ浚繕シタル有様ヲ追考スルニ單ニ前山々新田及沓澤新田ノ兩村ノミニテ之ヲ負擔シ其人夫ノ如キモ原告ノ人足割付帳ヲ見ルニ纔カニ四十人ニ過キサルナリ而シテ此人夫ト夫ノ十年五月三十日ノ浚鑿ニ要シタル人夫トヲ對比スレハ五月三十日ニハ幾ント八倍ノ人夫ヲ使用シタルモノナレハ其浚鑿タル實ニ非常ノ工事タルコト益以テ明白



ナリトス

一四

第二 被告第廿三號證ニ(原告被告)用水路ト稱呼スル所ノ水線ハ塞キ有之被告(原告)用水堰ト稱呼スル所ノ水路ヘ全水ヲ通シ候處分線ノ場所ヨリ字矢倉横手迄水行僅ニ三四丁ニテ漏水シ其餘更ニ通水不仕候依之原被雙方共論中修繕致間敷旨)トアリ而シテ論水ヲ該堰路ヘ斯ク通下ナシタルハ長野縣廳ノ官吏臨檢ノ節ニシテ實ニ明治十年九月十七日ナリ其後明治十一年五月一日舊上田支廳ノ審理中原被立會再ヒ通水ヲ試ミタルアリ而シテ其景況ハ即チ(字矢倉横手ヨリホウロク平迄ニ凡ソ三分一程漏水致セシナリ)上申書即チ被告第廿八號證)夫レ斯ノ如ク原告カ明治十年五月三十日其堰路ニ對シ非常ノ工事ヲ施行シテヨリ以來百有餘日ノ久シキヲ經ルモ猶ホ全水滲漏ノ變狀ヲ呈シ其後一ケ年ヲ經過シ工事ノ土壤カ已ニ牢固ニナリタルニモ拘ラス其漏水ハ漸ク減スルモ猶ホ全水ノ三分一ハ滲漏シテ流下セサリシナリ是レ爭フヘカラサル事實ナリ夫レ然リ故ニ原告ノ堰路ヘ斯ク浚繕ヲ加ヘス古來引用シ來リタル舊形ノ儘依然存續シ來リタランニハ流水滲漏ノ變狀ヲ呈セサリシヤ必セリ然ラハ流水ノ滲漏セシハ職トシテ原告カ其堰路ヲ大ニ浚鑿シタルニ由ルモノト云ハサルヘカラス又以テ原告カ其堰路ヲ大ニ浚鑿シタル事實ヲ證シ得テ明白ナリトス

第三 被告ノ上堰口ナル舊水底ハ「號」ヨリ原告ノ堰路「ロ」號マテ其距離二間五尺一寸ノ間ニ於テ「ハ」號ハ「ロ」號ヨリモ四分許低シ又其「ハ」號ト原告堰路ノ現水底トノ間ニ一尺一寸ノ高低アリ故ニ「ハ」號ノ近傍ニ於ケル原告堰路ノ現水底ハ「ロ」號ヨリ一尺一寸

四分許低シトス然リ而シテ原告堰路中「イ」號ヨリ「ロ」號マテノ距離ハ二間六寸ニシテ其高低ハ纔カニ九寸ナリ又「チ」號ヨリ「カ」號マテノ距離ハ二間ニシテ其高低ハ纔ニ五寸九分ナリトス抑流水ノ運用ニ供スル通常ノ堰路ナリセハ彼此幾ント同一ノ距離ニシテ其高低ニ於テ斯ク差違ノアルヘキ筈ナキナリ然ルニ現ニ該堰路ニ斯ル高低ノ差アルモノハ他ナシ即チ原告カ其堰路ヲ浚鑿シタルノ致ス所ナリト云ハサルヘカラス又以テ原告カ其堰路ヲ大ニ浚鑿シタルノ證據ナルヤ明白ナリトス

第四 次下第三條ニ開載セシ如ク原被相互ニ被告堰路ヲ開塞浚鑿シタルモノナレハ其都度原告ノ堰路ニモ亦多少ノ影響ヲ及ボシ爲メニ舊形ヲ失シタルモノト云ハサルヲ得サルナリ試ニ看ヨ被告第廿五號證ニ(六月三日何者歟大ニ堰縁ヲ切崩シ大石數多ヲ埋メ流水ヲ絶チ候云々翌四日人足差出シ該所繕致)トアリ又原告ノ明治十一年五月廿一日付始審上陳書ニ(字坂下ヲ初度堰縁切落シ云々迅速取塞キ候處其後又初度ノ切口字坂下ヲ數回切落シ候ニ付其都度修繕ヲ加ヘ云々)トアリ由是觀之原告堰路ノ堰縁ハ數回破壊セラレ又ハ築造セラレタルヤ知ラルハナリ然ラハ原告堰路ハ被告ノ堰路ヲ開塞浚鑿スル爲メ大ニ其舊形ヲ失シタルモノト云ハサルヘカラス又以テ原告カ其堰路ヲ浚鑿シタルハ到底掩フヘカラサルモノト云フヘシ

上來論述スル如クナレハ原告カ其堰路ヲ堀下ケタルヤ明白復タ疑ノ容ルヘキナシト固信ス

第三條

一五



本條ニ於テハ原告カ因テ以テ其堰路ヲ掘下ケタルニアラスト主張セシ事項ヲ擧ケテ之ヲ

駁論シ以テ被告ノ主論ヲ益々確實ナラシムヘシ

第一 原告ハ云フ被告ノ上堰口ナル「ハ」號ノ位地ハ其幅員七尺五寸ニシテ上流ノ衝突スル所ニアリ又原告堰路ノ幅員ハ三尺三寸ニシテ且其堰路中「チ」號ヨリ「カ」號マテノ高低ト「チ」號ヨリ被告堰路中「リ」號マテノ高低トヲ對比スレハ原告堰路ハ被告堰路「リ」號ヨリモ甚々高シ故ニ被告云フ如ク原告堰路ヲ埋立テ以テ被告ノ上堰口ナル「ハ」號ト同平ナラシメタランニハ原告堰路ニハ一滴ノ流水タモ通下セサルニモ拘ハラス原告ハ古來論水ヲ引用シタルヲ以テスレハ元來原告堰路ハ低フシテ通下シ被告堰路ハ高フシテ通下セサルニテ原告カ其堰路ヲ掘下ケタルカ爲メニ通下セサルニアラスト主張スレト此論タル採ルニ足ラサルナリ抑原告被ノ堰路ハ兩造互ニ相浚鑿シタルヲ以テ大ニ其舊形ヲ變シタルヤ今更論ナキナリ然リ而シテ原告カ其堰路ヲ浚鑿シタル「ハ」前第二條ニ已ニ開載シアルヲ以テ茲ニ詳論セス而シテ今單ニ原被告相互ニ被告堰路ヲ開塞浚鑿シタル事實ヲ擧ケンニ原告ノ始審答書ニ(字鈞邊ニ落シ入ル、云々同年六月三日何者ノ所爲ニ出ルヤ右堰縁ヲ破壞セシニ付)又原告ノ始審上陳書ニ(字鈞邊ノ最上繪圖面黑點ノ場所ハ原告カ過ル明治十年之ヲ破壞シテ舊堰形様ニ作り云々)又原告ノ始審口供ニ(原告告ニ於テ字鈞邊澤へ新堰ヲ掘リ云々尙修繕ヲ加へ原告ノ新堰ナル流水ヲハ塞キシニ其後再三破壞シ云々)トアリ斯ノ如クナレハ原告被ノ堰路ハ共ニ浚鑿セラレ從テ其舊形ヲ失シタルヤ知ルヘキナリ然レハ今ヤ其變換後ノ現形ニ就キ彼此論争スルモ當ニ其益ナ

キノミナラス却テ本件ノ精神ヲ失フモノト云フヘシ夫レ然リ故ニ始審中測量シタル所ノ堰路ノ高低及堰口ノ廣狹ハ以テ舊時ノ高低且廣狹ナリト云フヲ得サルヤ勿論ナリトス然リ而シテ被告ノ上堰口ナル幅員ハ舊形ニ依レハ凡ソ五尺ニテアリシカ故ニ被告ハ該上堰口即チ始審測量圖上ノ「ヌ」號ヨリ「ル」號マテノ現形七尺五寸ノ幅員ヲ更ニ狭ハメテ五尺ニ復舊スル「ニ」對シ毫モ異議ナキナリ然ラハ原告ノ堰口即チ「ケ」號ヨリ「ユ」號マテノ幅員ハ現形三尺三寸ナリシモ復舊ノ爲メ被告ノ堰口即チ「ル」號ノ方一尺五寸「ヌ」號ノ方一尺ヲ狭ムルキハ隨テ原告ノ堰口ハ「ケ」號ヨリ一尺五寸上部へ延長シ「ホ」號ノ位地ニ至ルヘシ而シテ其堰口トナルヘキ「ホ」號ヨリ其直向ナル「ニ」號マテノ幅員ハ四尺八寸トアルヲ以テスレハ原告ノ堰口モ此ニ至レハ全ク四尺八寸許ノ幅員トナルヘク隨テ原告被堰路ノ幅員ハ大概同一ニシテ大差ナキモノト云フヘシ又「チ」號ト「カ」號トノ高低及「チ」號ト「リ」號トノ高低ノ如キモ原告被堰路ノ浚鑿以後ニ係ル高低ナレハ之ヲ將テ舊形如何ヲ斷定スルヲ得サルヘシ且夫レ被告ノ上堰口ハ上流ノ衝突スル所ニアリト原告ハ申立レト實際ハ必スシモ然ラサルナリ開ハ姑ラク措キ被告ハ古來論水ヲ引用シタルモノナルヲ以テ之ヲ相當ニ即チ舊時ノ如ク引用スレハ満足スルナリ強チ過量ノ論水ヲ引用セントスルニハアラサルナリ故ニ被告カ論水ヲ相當ニ引用シ得ル「ト」ナラハ原告被ノ堰路ヲ同様ナル高低ニ復舊スル「ニ」對シ被告ハ異議ナキナリ以上論述スル如クナレハ復舊ノ爲メ原告ノ堰路ヲ埋立テ以テ被告ノ堰路ト同平ナラシムルモ原告被ノ堰路ヲ流下スル水量ニ於テ大差ナク原告被共ニ論水ヲ引用シ得ラルヘキナ



リ夫レ斯ノ如クナレハ原被ノ堰路ヲ同平ナラシムルモハ原告ノ堰路ニ一滴ノ流水ナキニ至ルヲ以テ原告ノ堰路ハ之ヲ掘下ケタルニアラストノ原告ノ申分ハ不當ニシテ採ルニ足ラストス

第二 又原告ハ被告ノ下堰口ナル「ワ」號ノ位地ハ其南向ナル「ソ」號ノ堰縁ヨリ一寸五分高シ故ニ該下堰口ヨリ被告堰路ヘ流下スヘキ水量ナレハ其向ヒナル「ソ」號ノ堰縁ニ添フタル平地ハ常ニ深サ一寸五分ノ水ヲ被ムルヘキ筈ナルニ其平地ニハ常ニ芝草ヲ生シ經年水ヲ被リタル痕跡ナキヲ以テ見レハ下堰口ヨリハ被告堰路ヘ流下シタルモノニアラスト主張スレモ此論タル亦採ルニ足ラサルナリ試ニ始審測量圖ヲ點檢スルニ被告ノ下堰口ナル「ワ」號ノ舊水底ト其南向ナル堰縁「ソ」號ト其高低ヲ對照スレハ南縁ハ「ワ」號ナル北縁ヨリ一寸五分許低シト雖モ是レ亦原被相互ニ破壊築造シタル以後ノ現形ニ依リタルモノニシテ舊形果シテ南縁ハ低ク北縁ハ高カリシヤ否ヲ知ルニ由ナカルヘシ抑前第二條第一項第四項及本條第一項ニ已ニ開載セシ如ク被告ノ下堰口ナル南北縁且其之ニ接續スル左右ノ堰縁ハ原被相互ニ破壊築造セラレタリ個ハ被告第廿五號證ニ(大ニ堰縁リ切崩シ)又原告ノ始審答書ニ(右堰縁ヲ破壊セシニ付)又原告ノ始審口供ニ(其後再三破壊シ)又原告ノ始審上陳書ニ(初度堰縁切落シ云々數回切落シ)(當村堰土手切落シ)トアルニ徴シテ明白ナリトス且夫レ該下堰口ノ現形ニ就キ論シ北縁「ワ」號ト南縁「ソ」號トハ一寸五分ノ高低アリトスルモ其南縁「ソ」號ノ下部凡ソ二尺許隔リタル「井」號ノ位地ニ推歩シテ其高低ヲ較フレハ南縁ハ北縁「ワ」號ヨリ一寸高シ故ニ此一

事ヲ以テ推スモ強カチ南縁ハ低ク北縁ハ高シトハ云フヲ得サルナリ然ラハ被告堰路ニ流過スヘキ水量アルニ際シ「ソ」號ノ位置ヲ除クノ外流水ノ南縁ヲ埋没スルコトナカルヘシ加辨被告カ論水ヲ古來引用シタルニ相違ナキ限リハ原被相互ニ破壊築造セサル以前ハ南縁ハ被告下堰口ヨリ一層ニ高クシテ管テ流水ノ南縁ヲ越ヘ該平地ニ侵入セザリシカ故ニ芝草ニハ經年水底ニアリシ痕跡ナキモノト推定スルヲ至當ナリトス夫レ斯ノ如クナレハ原告カ本項ニ對スル申分モ亦不當ニシテ採ルニ足ラストス

第三 又原告ハ原告堰路ノ水底ト被告下堰口ノ水底ト同平ナラシメタランニハ下堰口ハ其左右ノ馬踏ト高低ナカルヘケレハ流水ハ常ニ馬踏ヲ越ヘテ溢出シ原告堰路ニハ流水ナキニ至ルヘシ斯ル事由ナルカ故ニ論水ノ被告堰路ニ流下セサルハ原告カ其堰路ヲ掘下ケタルニ起因スルニアラスト主張スレモ是レ亦採ルニ足ラサルナリ抑原告ハ(「ワ」號則チ原告被告今回ノ舊水底ナリト云フ處ハ上下ノ馬踏ヨリ少シク低下ニアリト雖)ニ年七月十六日付追伸書ト申立タルニアラスト然ラハ被告ノ下堰口「ワ」號ノ位地ハ其左右ノ馬踏ヨリモ低キト原告ノ自認スル所ナリ故ニ原告堰路ノ水底ヲ該下堰口ノ水底ト同平ナラシムルモ流水ハ左右ノ馬踏ヲ越ヘテ溢出スル筈ナキナリ且夫レ假ニ該下堰口ハ其左右ノ馬踏トハ現形ニ就テ見レハ同高低ナリトスルモ被告カ論水ヲ古來引用シタルニ相違ナキ限リハ原被相互ニ破壊築造シテ舊形ヲ失ハサル以前ニ在テハ左右ノ馬踏ハ該堰口ヨリモ尙ホ一層高カリシモノト推定スルヲ至當ナリトス斯ノ如クナレハ原告カ本項ニ對スル申分モ亦不當ニシテ採ルニ足ラストス



上來論述スル如クナレハ原告堰路ヲ復舊シテ被告ノ上堰口ト同平ニ埋立ルモ夫レカ爲メ原告云フ如キ不都合ナキハ勿論其他何等ノ障碍モナク論水ハ潺々トシテ原被兩堰へ流下スルヤ疑ナシ又下堰口ニ於テモ其南縁ノ低下ナル部及其下堰口ナル左右ノ馬踏ノ低下ナル部ヲ復舊シテ之ヲ高クナスハ是レ亦一ノ不都合ナク論水ハ原被兩堰へ流下スルヤ又疑ナキナリ若シ夫レ假リニ被告ノ下堰口ナル南縁及其堰口左右ノ馬踏ハ從前現形ヨリモ高カリシトノ證ナケレハ該堰口ヨリ論水ノ流下セシモノニ非ストスルモ爲メニ被告カ論水ヲ古來上堰口ヨリ引用シタル實跡ニ對シテハ何等ノ影響ヲモ及ホスヘキニアラストス開ハ兎モ角モ被告カ論水ヲ古來引用シタルハ次ノ第四條ニ於テ開載スル如ク甚々明白ナレハ被告ニ於テ論水引用ノ權利ヲ有スルヤ今更論ナキナリ已ニ然レハ被告ハ其論水ヲ相當ニ引用スルヲ以テ満足シ其引用ノ方法等ニ對シ敢テ異議ヲ抱クモノニハアラサルナリ故ニ論水ヲ引用スルニ方リ被告ノ上堰路中「リ」號ハ原告云フ如ク果シテ低下ニシテ多量ニ流下スルトナラハ之ヲ高クナスヘク又下堰口ノ左右ノ馬踏モ亦原告云フ如ク果シテ低下ニシテ流水溢出スルトナラハ之ヲ高クナスカ若シクハ被告ノ堰口ヲ低クナスヘキナリ被告ハ此等ノ細故ヲ以テ論水ヲ古來引用シタル權利ヲ漫然褫奪セラルヘキ道理ハ萬々ナカルヘシト固信ス

#### 第四條

本條ニ於テハ被告カ古來論水ヲ引用シタル事實ヲ揭記スヘシ

第一 本件上告ニ際シ本院ニ於テ公正ナル帳簿ト判示セラレタル被告第六號乃至十八號

證ノ内特ニ第十一、二、三號及第十五、六、七號證ニ(用水凌人足立科水元見廻人足云々)トアリ又第十四號證ニ(くこり篠元水見廻り代參人足云々)又第十八號證ニハ(當村用水堰之義者飯森山々こり篠々出候水を用ひ)トアリ此等ハ皆悉ク被告カ古來論水ノ源泉ナル潜篠及鬢水ヲ引用シ且其水路ヲ修繕シ來リタルヲ證シ得テ明白ナリト云フヘシ

第二 被告第廿四號證ナル元祿度裁許繪圖ニ被告ノ水路カ書キアリ且之ニ水色ヲ施シ以テ水ノ流下シ居ル様ヲ寫シアリ且夫レ原告ハ舊東京上等裁判所ニ於テ該繪圖中(細コフジノ南ノ方第壹ノ水路形ノモノハ則釣邊澤被告ノ堰路云々)ト明言シタリ此等ハ又以テ被告堰路ノ古來存在シタル事或ハ論水ヲ引用シタル事或ハ被告カ引用シ來リタル水ノ源泉ハ潜篠及鬢水ナル事ヲ證明スルニ足レリ

第三 本件上告ノ際本院ニ於テ官廳ノ命令書ナリト確認セラレタル被告第廿六號證ニ(くこり水の水むん水)トアリテ被告カ古來引用シタル水ノ源泉ハ潜篠鬢水ナルヲ證シ得ルノミナラス該證ノ文意ヲ熟考スルニ被告カ該兩源泉ナル潜篠鬢水ヨリ湧出スル水ニ對シ盛大ナル權力ヲ有スルヲ證明スルニ足レリ

第四 原告ハ先キニ舊東京上等裁判所及本院ニ於テ堰路堀下有無ヲ論究スルヲ以テ本件ノ主眼ナリト明言シタリ而シテ此申供タル被告カ論水ヲ古來引用シタルヲ承認シタル以上ノ言詞ニシテ其未タ之ヲ承認セサル所ノ論水引用權ノ有無ニ對シナスヘキ言詞ニアラサルヤ多辨ヲ俟テ後チ知ラサルナリ若シ夫レ原告ニ於テ被告カ論水ヲ古來引用



シタルニアラサルヲ以テ本件ノ事實ナリトセハ須ラク論水ノ引用權ナキヲ論證スヘキナリ焉ソ論水ヲ引用シタル以上ノ事項即チ堰路堀下ケ有無ヲ以テ本件ノ主眼トナスヘキ謂レアラシヤ然ルニ原告ハ彼カ如ク論水引用權ノ被告ニアルコトヲ確認シタル以後ノ事項ヲ以テ本件ノ主眼トナシタルヲ以テ見レハ被告カ論水ヲ引用シタル事實ヲ承認シタルコト愈以テ明白ナリトス

上來掲記スル事項ト經久ノ書面ナリト認取セラレタル夫ノ被告第一號乃至五號證ノ所記トヲ參照セハ被告カ論水ヲ古來引續キ引用シタル事實ヲ證シ得テ明白復々疑ノ容ルヘキ餘隙ナカルヘシト固信セリ依テ至當ノ裁判アラシコトヲ謹テ請願ス  
右ノ爭訟ニ對シ辨明及判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

原告村ハ實地臨見ノ上本案ノ裁判ヲ受度旨請願スレモ大審院ハ本件ノ裁判ヲ爲スニ付實地臨見ヲ要セサルモノト議定スルニ付右請願ハ採用セサルモノトス

但實地臨見ヲ要セサル理由ハ本裁判ノ說明中自ラ明了ナルヲ以テ別ニ說示セサルモノトス

第二條

本件ハ被告村ニ論水ノ分流權アルヤ否ヤヲ判定スルヲ以テ緊要ナリトス如何トナレハ本訴ノ爭點ハ分流權有無ノ外堰路堀下ノ有無ヲモ爭フモノナレモ被告村ニ分流權ナシト決スル

レハ原告カ其堰路ヲ堀下ケタリトテ被告ニ於テ之ニ隊ヲ容ル、ノ道理ナク又分流權アリト決スルモ原告村カ堰路堀下ノ有無ニ拘ハラヌ元ノ如ク流水セシメサルヲ得サルノ道理ナレハナリ

第三條

被告第廿四號證ハ元祿二年信州佐久郡岩尾村外六ヶ村ト前山村外十ヶ村此内ニ原告村アリトカ野山爭論ノ際舊政府評定所ヨリ下附セラレタル裁許繪圖ニシテ原告村カ本訴爭論起發ノ際論水引用ノ證トシテ長野縣廳ニ出シタルモノナリ該圖中布施川原告村ノ用水路上流ニ當リ分流ノ形狀判明ニ描畫シアルニヨレハ當時如此水線ノ不斷流通シアルニヨリ斯ク記シタルモノト見サルヲ得ス如何トナレハ實際此ノ如キ流水ナカリセハ當時ノ筆者カ故ラニ之ヲ描畫シテ後世ニ遺スヘキ道理ナキヲ以テナリ而シテ此分流ノ釣邊澤被告村用上流ナルコトハ原告村カ舊東京上等裁判所審理中明認スル所ナレハ該圖ヲ以テ被告村カ論水ノ分流權アル證據ニ爲サントスルハ不當ノ立證ニアラヌトス

第四條

被告第十四號證ハ安政五年度被告村入用夫錢帳ニシテ當時所轄役所ノ檢印アルモノナリ此中ニ(ク、リ篠元水見回り代參人足云々)ト記載シアルニヨレハ當時被告村カ字ク、リ篠ヨリ生スル水ヲ利用スルニヨリ人足ヲ雇テ見廻ラシメタリト見サルヲ得ス如何トナレハ自村ニ要用ナキ水ナリセハ故ラニ人夫ヲ雇テ之ヲ見回ラシムルノ道理ナケレハナリ而シテ論水ノ字ク、リ篠ヨリ生出スル事ハ原被告申供ノ符合スル所ナレハ被告村カ該證ヲ以テ論水ノ分



流權アルヲ證セントスルハ亦以テ不當ノ立證ニアラストス

第五條

被告第廿六號證ハ戊五月トアルノミニテ年代詳カナラサルモ万治寛文ノ頃被告外一ヶ村久保新田ナリヲ支配セシ双方ノ官吏金森與左衛門松村助之進カ記名調印ノ上下付シタル古文書ニシテ矢田久保村ハ矢田ニ田地開ラケ候ヘハ五郎兵衛新田ノ足ニ可成水道ニ付無異義出來ニ成候上ハ異論アルヘカラス云々(記載シアリテ被告村之ヲ所持スルニヨレハ該證文言ノ解釋如何ニ付テハ原被見込ヲ異ニスルニヨリ姑ラク之カ判斷ヲ爲サ、ルモ之カ爲メ被告村引用スル所ノ岩下川ノ中ニク、リ篠ピン水ノ水ノ加入シアルヲ識ルニ十分ナルモノトス如何トナレハ矢田久保新田カ引用スル水路ハ實測圖字四ツ字トアル箇所ノ如ク岩下川ヲ堰上ケ流末被告村用水路ト合併シアルノミナラス被告村カ之ニ關係セサリシナレハ當時ノ管廳カ如此書面ヲ下附スヘキ道理ナケレハナリ由是看之該證ハ被告村カ論水ニ關係アルヲヨミルニ足ルヘキモノナルヲ以テ被告村カ之ニ依リ分流權アルヲ證セントスルハ亦以テ不當ノ立證ニアラストス

第六條

右ノ數證ヲ集覽スレハ被告村カ論水ヲ引用シタリシ事述判然ナルニヨリ原告駁論ノ以テ之ヲ撲滅スルニ足ルモノアラサル限リハ被告村ニ分流權アルモノト見サルヲ得ス如何トナレハ右數證ハ原告村カ直接授受又ハ之ヲ認メタルモノニ非スト雖モ官廳ノ關係ヲ有シ

私ニ成立タルニ非サレハ故ナク無効ニ歸スヘキ道理ナキヲ以テナリ

第七條

原告村カ右數證ニ對スル駁論ヲ審按スルニ左ノ如シ

- 一 被告第廿四號證裁許繪圖ハ秣場爭論ノ爲メ成タルモノニテ水論ノ爲メ成タルニアラサレハ其性質ニアラサル水事ノ證據ニナスヘカラスト然レトモ其圖面中論水ノ形狀ヲ載示シアリテ當時ノ有様ヲ見ルニ足ルヘキハ假令如何ナル爭論ノ爲メ成タルモノナリトモ水事ノ證據ニナラスト云ノ道理ナキニヨリ右駁論ハ未タ以テ被告第廿四號證ヲ無効トスルニ足ラサルモノトス
- 二 該圖中水源ノ景狀一モ描畫シコレナク且流末被告村ノ水路ニ接續セサル如キ水事上緊要ノ點ヲ欠キアレハ本訴ノ證據ト爲シ得ヘカラスト然レモ下流ハ細小路澤ニ流下スヘキノ自然ノ山勢ニテ明了シ又水源ハ本訴ノ實測繪圖ニ書ケル所ト同一ノ邊ヨリ流出シアリテ本訴原告被告ノ用水路ヲ描畫シタルヲ疑フヘクモアラサルノミナラス右水形ノ一ハ布施川ニシテ一ハ釣邊澤ナルヲ原告村カ該圖ヲ以テ長野縣廳ヘ論水引用證トシテ呈供シタル事迹及舊東京上等裁判所ニ申立タル事柄トニテ明了ナレハ亦以テ被告第廿四號證ヲ無効トスルヲ得サルモノトス
- 三 但舊東京上等裁判所ニテノ申供ハ誤認ナル旨ヲ申立レモ其證據ナキヲ以テ採用セス被告第十四號證ハ原告村ノ視認ヲ經タルモノニアラサレハ被告カ登時ノ官廳ニ出ス際何等ノ自分勝手ヲ書シタルヤ知ルヘカラス若シ官廳ノ捺印アルノミニテ特ニ人工ヨリ



成タル用水ノ分水ヲ得ル確證トナルトセハ甲村ノ專有水ヲ乙村ヨリ窺審シ豫シメ自村ノ或帳ニ其源水ヲ見回リタリト記シ官廳ノ檢印ヲ受置タラハ後年乙村カ分水ヲ求メントスルモ何時モ確證トナルニ至ラン豈危險ナラスヤ斯云ハ、事實ニ適セサルモノニハ官ニ於テ檢印スル筈ナシト云ヘケレト當時ノ官廳ハ職制完備ナラスシテ往々疎漏アリシノミナラス該帳ハ人足費用即當今ノ地方稅協議費取立帳ノ如キニ過キサレハ細カニ點檢セサルハ左モアルヘキ事柄ナルヲ以テ事實ニ適セサルモノニハ檢印セスト云ヲ得ヘカラスト然レト獨リ此一證アルノミナラス被告第廿四號證アリテ能ク之ニ照應シ別ニ原告申立ノ如キ不實ヨリ成タルヘシト疑フヘキ廉モコレナキナレハ此等ノ想像論ヲ以テ前記推定ノ料ヲ消滅セシムルヲ得サルモノトス

四 被告村カ他ノ夫錢帳ニハ立科嶽水元見廻リトアリ立科嶽ノ内ニハ被告村ノ水源數ヶ所之アルニ付之ヲ見廻リタルナルヘシ然ルニ獨リ被告第十四號證ニミ潜リ篠元水見廻リトアルモ貳百餘年ノ久キ安政五年ノ一度ノ見廻リタリトハ實際怪ムヘキ事ナリト然レト他ノ夫錢帳「即被告第十一、十二、十五、十六、十七號證等」ニ立科嶽水元トアルハ被告第十四號證ノ記ス處ニヨリ立科嶽中ノク、リ篠水ナルヲ推知スルヲ得ヘケレハ以テ安政五年ノ一度ノ見廻リタリト爲スヘカラスト如何トナレハ立科嶽トハ論水ノ生出スル山ノ總稱ナリトハ原告ノ異議ナキ所ニシテ右數證ニ記スル所ト被告第十四號證ニ記スル所ト同一ノ項目ナレハ所謂立科嶽元水トハ立科嶽中ノク、リ篠元水ナルヲ推知スルニ足ルヘケレハナリ

五 被告村ヨリハ古來潛篠ヲ見回ルヘキ通路ナク實地ニ背戻スル事柄ナルニヨリ被告第十四號證ノ記スル所實說ナラハ細小路川ノ水源ハ潛篠ノ下部ニアルヲ以テ之ヲ見回リタルナラント然レ被告村カ潛篠ヲ見回ルニハ必原告村ト別路ニセサルヘカラストノ道理ナケレハ別ニ被告村ヨリ通行スヘキ道路ナキトテ之カ爲メ實地ニ背戻シタル事柄ナリト定メカタク隨テ潛篠ト明記アルヲ強テ細小路川トスルニハ及ハサル筈合ナリトス但原告村ハ被告村ヨリ通路ナキヲニ付實地臨見ヲ乞フ一理由トスレトモ本文辨明ノ如クナルニヨリ之ヲ要セサルモノトス

六 被告第十一號乃至第十七號證等ハ正實ニ記シタルモノト見ルヲ得ス假ニ正實ナリトスルモ被告自村限成タルモノニテ一モ布施川ノ創造者タル原告ノ視認ヲ經タルモノニ非サレハ論水分流ヲ得タル證據トナルヘカラスト然レト正サシク官廳ノ檢印アルモノニシテ別ニ不實ヲ記シタリト見ルヘキ廉コレナク而シテ其所記ニヨリ被告村カ論水ヲ使用シタリシ形迹ノ見ルヘキモノ之アルモ必シモ原告村ノ視認ヲ經タル證據ナクトモ爲之其形迹ノ消滅スヘキ道理ナキニヨリ右論辨ヲ以テ被告第十一號乃至第十七號證ヲ無効トスルヲ得サルモノトス

七 原告第廿三號證ニヨレハ矢田久保新田ノ開發ハ寛文八年ニ始リシモノナルニ其十一年以前ナル万治元年被告ニ於テ其第廿六號證ニ戊五月ニ在テ被告第廿六號證ノ如キモノノ成立ツヘキ道理ナシ仍テ該證ハ信シカタク然レト開發事業ノ如キ數多ノ手續アリテ一朝一夕ニ着手シ得ラルモノニアラサレハ寛文八年ヨリ十一年以前ナル万治元年ニ



成タリトテ敢テ不都合ト云ヘキモノニアラス

八 被告第廿六號證金森與左衛門名下ノ印影ハ被告第廿七號證同人名下ノ印影ト相違シ又松村助之進名下ノ印影ハ原告第廿二號證同人名下ノ印影ト相違スルヲ以テ真正ニアラスト然レモ被告第廿六號同第廿七號證金森與左衛門ノ印影ヲ對照スルニ別ニ相違ノ點アルコトナシ又被告第廿六號證松村助之進印影ハ原告第廿二號證同人ノ印影ト全ク別印ナルモ松村助之進カ原告第廿二號證ニアル印影ノ外他印ヲ用ヒサリシトノ證據ヲ擧ケサル限りハ亦以テ真正ト見サルヲ得ス如何トナレハ該文書ノ偽造ニ係レハ原告第廿二號證ニアル印影ヲコソ摸造スヘキニ然ラスシテ全ク別印捺捺シアル事實ト金森與左衛門ノ實印アル事跡トニ商量スレハ助之進カ他印ヲ用井サル證據ノ擧ラサル限りハ真正ト論セサルヲ得サル道理ナルヲ以テナリ

九 被告第廿六號證ノ記スル所ニヨレハ被告村ノ足シニ相成ルトノ義ナレモ被告申立ノ如ク古來被告村ノ引用セシ水ヲシテ新タニ矢田久保ニ使用ナサシメハ却テ欠乏スル理ナリ故ニモシ該證ヲシテ真正ナラシメハ矢田久保カ論水ヲ引タル爲メ被告村ハ始メテ其餘水ヲ得テ足シニナリタリト解スヘクシテ却テ被告村カ古來論水ヲ引用セサル證據トナルヘシト然レモ被告村カク、リ篠ピン水ニ關係アルコト前第五條ニ説示セシ如クナレハ右等解釋如何ニ仍テ該證ヲ無効トスルヲ得サルモノトス

十 原告第廿三號證ニ（矢田新田用水堰ノ義ハ細小路和名ケ澤水元トシテ之ヨリ下岩下ノ堰上久保ノ水引渡シ候ニ相違ナク水帳ノ奥ニモ之ヲ記シ置候）トアル如ク矢田久保水

元ハ論水ニアラサレハ被告第廿六號證ノ文言ハ事實ニ適セスト抑原告第廿三號證ハ古文書ノ寫ナルヲ以テ事實ヲ記シタルモノナルヘケレモ他ニ照合スヘキモノモ之レナキナレハ之ヲ以テ前記金森與左衛門等カ實印アル書面ヲ無効トスルヲ得サルモノトス

### 第八條

右ノ外原告村カ被告村ノ要求ヲ抗拒スル全体ノ論旨ヲ審案スルニ左ノ如シ

一 布施川ハ原告村カ特ニ人工ヲ用テ築造シ之ニ賴リ開發シタルモノニテ偶然享受シタルモノニアラス故ニ飲用ニ耕耘ニ之ヲ必要トスルハ空氣日光モ畜ナラサルモノニテ一日之ナケレハ他ニ一滴水ナキニヨリ原告村ナキニ至リ被告村カ數線ノ川流即西ニ湯澤川東ニ細小路川ノ如キ水源深遠ニシテ且許多ナルコト恰モ木ノ葉ノ筋ノ如キモノヲ有シ如何ナル旱魃ト雖モ用水缺乏ヲ感シタルコトナキ類ニ非ラスト然レモ右論辨ハ自家ノ必要ナル事ト他ノ餘地アルコトヲ比較シテ苦情ヲ唱フルニ過サレハ以テ一旦成立タル分水ノ事跡ヲ消滅セシムヘカラス如何トナレハ前記ノ證據ハ當時適應ノ分水ヲ爲タルニヨリ成立スルニ至リタルヘク而シテ人工ニテ築造シ又自家ニ必用ナルモノハ必ス他ニ分水スヘカラスト云ノ道理ナケレハナリ

二 原告カ古來布施川水ヲ専用スルコトハ被告モ承認スル所ナリ其議ハ現ニ原告ニ係リ人工ノ堰ヨリ分流ヲ求ムルニテ知ルヘシト然レモ被告ハ布施川ヨリ分流スルノ權アリト求ムルモノニテ該水ハ原告村ノ専用ナリト云ヒシニアラサレハ右辨論ハ採ルニ足ラサルモノトス



三 被告ハ争論ノ起頭行政廳及勸解廳等ニ論水全流カ己レノ用水ナルニ原告新タニ堰ヲ穿チ之ヲ引タリト申立ナカラ本訴ニ至リ其非理ナルヲ悟リタルヤ論旨ヲ變シテ分流ヲ求タリ斯ク少時間ニ訴旨ヲ變シ戯レニ類スル如キコアルハ畢竟正當ナル根據ナキ故ノ事ニテ非理ノ求メナル證據ナリト然レモ初メ分外ノ求ヲ爲テ辨論ノ末至當ノ場合ニ縮少スル如キハ訴訟上往々有之事柄ナレハ之カ爲メ其縮少シタル部分マテカ非理ナリト云ヲ得サルモノトス

四 布施川ハ山腹平夷ノ所ニ横タハリテ云ハ、平ナリ被告自稱ノ上ノ堰口ハ山坡崎嶇ノ所ニアリテ溪澤ニ向ヒ傾下シ險ナリ而シテ實測圖「チ」號ヨリ「カ」號<sup>原告</sup>マテノ高低ト「チ」號ヨリ「リ」號<sup>被告</sup>自マテノ高低ヲ比スレハ二間ノ間ニ被告ノ方ハ其下リ壹尺八寸七分ニシテ原告ノ下リハ僅カニ五寸九分ニ過キス尙被告カ蓄水底ナリト明認スル「ハ」號ヨリ「リ」號マテト「チ」號ヨリ「カ」號マテトヲ對比スレハ二間ノ間ニ被告ノ方ハ二尺九寸七分ノ大ナル下リヲ生シ原告ハ僅カニ五寸九分ノ下リニ過キス殊ニ該所ハ上流ノ衝突スル所ナレハモシ被告請求ノ如ク原告堰路ヲ埋立以テ水底ヲ同平ナラシメ又堰巾ヲ全巾ナラシメハ布施川全水ハ鼻ニ走り原告堰路ニハ一滴水ナキニ至ルハ實地上動カスヘカラサル事由ニシテ水理上亦然リトス況シテ布施川ハ巾三尺許ニテ山腹平夷ノ所延長數里ニ連ナレハ全巾全平ハ愚カ四五寸ノ口ヲ開クモ全流ヲ吸取シテ布施川ヲ涸渴セシムヘシ依之看之原告布施川ト被告自稱ノ堰路トニ恰好ニ流水セントスル說ハ座上論シ得ヘキモ實地上行フヘカラサル事ナリ故ニ假リニ被告ニ幾分ノ端緒ノ證據アリト

スルモ事實ニ適セサルヲ以テ採ルニ足ラサルモノナリト然レモ山間溪谷等ノ形狀ハ多數ノ歲月ヲ經過スル間ニハ如何ニ變シタルヤ料リカタキノミナラス現ニ争論以來兩造互ニ改造ナシタリトノ事柄ナレハ現今ノ形狀ニ於テ如何ニ分水ニ不都合ノ場合アリトスルモ之カ爲メ一旦成立タル形迹即前記分流シタリシ證據ヲ湮滅ニ付シ去ルノ道理アルヘカラス仍テ右申分ハ相立カタキモノトス

但右形狀ノ事實ナルヲ示サン爲メ實地臨見ヲ請度旨申立レモ本文説明ノ如クナル以上ハ本訴ニ必要ナラサル事柄ニ付採用セス

五 人工ノ堰ヨリ天然ノ澤ヘ分流スルカ如キハ原告未タ曾テ開サルノミナラス天下ニ例ナキコナリ設シ之アリトセハ徒ニ堰ヲ築クノ勞ヲ取テ其利ヲ欲セサルモノナリ如此ハ狂者痴呆者ノ爲ス所ニシテ尋常知覺アルモノ、爲ス所ニアラスト然レモ人工ノ堰ヨリ天然ノ澤ヘ分水スヘキモノニ非ラスト限リタル一定ノ道理モコレナキナレハ亦以テ前證ヲ無効トスルヲ得サルモノトス

六 世間分流ト稱スルモノ多クハ契約上ヨリ成立モノナリ本川ノ如キ例ヘハ時間ヲ割テ交々引水スル歟或ハ柵ヲ設ケテ水量ヲ分引スル歟ノ如キ細密ナル方法アルニアラサレハ雙方ニ引水スル能ハサルモノナリ然ルニ契約モナクシテ自然ニ引水シ來レリト云フ被告ノ主論ハ事實ニ迂ナルモノニテ信スルニ足ラスト然レモ右論辨ハ既往ノ忽畧ナルヲ述ルマテニテ別ニ契約書ナクテハ分水スヘカラスト云ノ法理モナケレハ亦以テ前證ヲ動カシカタキモノトス



第九條

右兩條ノ如ク原告辨論中一モ前記被告ノ證據ヲ撲滅スルニ足ルモノコレナキニ付被告村ハ多少論水ノ分流權ヲ有シタルニ相違ナシト認定ス  
現今被告村ノ水路ニ一滴水ナキニ至リタル所以ハ被告申立ノ如ク原告カ其水路ヲ掘下タルニ依ル歟將タ他ニ原由アリテ然ル歟之ヲ確知スル能ハスト雖モ原告村ノ水路カ舊形ヲ變シタルニヨリ此ニ至リタルヲハ知ヲ得ヘキモノトス如何トナレハ古來流通セシ水線カ故ナク涸渴ニ屬スヘキ道理コレナク而シテ被告ノ水路ヲ舊形ヨリ高カラシメタリトハ原被告ノ曾テ言ハサル所ナルヲ以テナリ

第十條

被告ニ於テ被告ハ實測圖上下ノ堰口ヨリ引水シ來レル旨申立レ下ノ堰ヨリモ流水セシモノトスレハ初審裁判官カ實地見分ノ上申渡タル如ク該所南ノ平地一面水ヲ被ラサルヲ得サル道理ナルニ生草繁茂シアリシ如キ不都合ノ實迹アルニ付右申分ハ相立タサルモノトス

第十一條

被告ニ於テ實測圖上ノ堰口ニ於テ布施川ト同巾同平ナラシメ以テ分水ヲ受クヘキモノ、如ク申立ルモノモ之ヲ證明スヘキモノ之ナキニヨリ右申分ハ採用セサルモノトス

判決

前條々ノ如クナルニヨリ原告村ハ被告言フ上ノ堰口ヨリ流水スヘキ程ニ布施川ノ水底ヲ埋立流水セシムヘキハ勿論ナリトス然リ而シテ原告村ニハ布施川ノ外他ニ引用スヘキ水コレ

ナキ事ト被告村ハ論水ノ外數個ノ水流ヲ合シタル未之ヲ受用スル村柄ナル事トニヨリ之ヲ見レハ被告村ノ受クヘキ水量ハ極メテ少量ナルニ相違ナカルヘシト推料スルモ今其程度ヲ定ムヘキ標準之レナキニ付地方官ニ申出適宜ノ處分ヲ受クヘキモノナリ

但訴訟入費ハ原被告各自辨タルヘシ

○第五百四十一號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十七年八月廿一日上告  
全) 年十一月六日申渡)

三重縣伊賀國名張郡名張新町

平民

上告人

細川 治郎

東京府麴町區有樂町三丁目二

番地寄留大坂府平民

宇陀 太郎

三重縣伊賀國名張郡長屋村平

民

右代言人

被上告人

江南彦左衛門

本件起訴者ハ上告人ナリ其訴旨タル上告第一號證貸金ノ元利ヲ請求スルモノナリ  
被上告人ノ答辨ハ上告第一號證ニ付テハ被上告第一二號證ノ如ク已ニ内金ヲ返済シタルモノナレハ之ヲ差引キ返辨セント云フニ在リ



上告人ハ始審ニ於テハ直者トナリシモ終審ニ於テハ曲者トナリタリ  
名古屋控訴裁判所審判ノ要趣左ノ如シ

一 甲第七九號證ノ成立ハ乙第一二號證以前ニアリテ其甲號證ヲ以原告<sup>被上</sup>カ後日乙號證  
ノ如キ調金ヲナシ得ラレサルトノ證據ニハ相立タストノ事

一 甲第十四號證ハ原告ト上田儀八トノ貸借金ニ係ル證ナレハ之レヲ以テ原被告<sup>上</sup>告間直接  
ノ乙第一二號證ヲ無効ニ爲スノ効力ヲ有スルモノニアラストノ事

一 其餘豫審ノ鑑定口供等ハ其調査ノ結果私印私書偽造ノ證據充分ナラサルトノ宣告ニ至  
リタルモノヲ被告ハ更ニ採用シテ乙第一二號證ヲ不正ナリト云フモ果シテ不正ナリト  
看認ムヘキ證據ナケレハ其申分ハ相立タストノ事

因之被告ハ本訴請求金高ノ内ヨリ乙第一二號證ノ金員ヲ扣除シ殘金ヲ原告ヨリ受取ルヘ  
キモノナリト申渡シタリ

右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル主點左ノ如シ

被上告人カ上告人ニ返辨セシト稱スル金圓ノ出處ハ上田儀八ヨリ借入タリト自認セリ其  
借入タル年月ハ甲第二十號ノ通り明治十六年四月四日ナリ然レハ甲第七九號ノ通り儀  
八ヨリ金圓ヲ被上告人ニ貸渡スヘキ道理ナシ尤被上告人ノ語ニ依レハ儀八カ貸渡サ、リ  
シモノナレハ上告人ニ返辨スルノ道ナカルヘシ右返辨セシナケレハ乙第一二號ノ受取  
證ヲ上告人ヨリ被上告人ニ差入ヘキニ非ス然ルニ原判官ハ被上告人カ儀八ヨリ實際金ヲ  
借受シハ六日ナリ<sup>證書ニハ四</sup>トノ無證ノ陳述ニ偏依シ甲七九號兩證ト乙一二號證トノ時

日前後ヲ比較シ乙一二號證ヲ真正ナリトサレシハ不當ナリトノ事

明治十七年十月廿二日上申書ヲ以テ甲第廿號證ノ事ニ付細密ナル申立ヲナシタリ

大審院ニ於テ辨明並ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

右主點ト上告狀并ニ上申書ヲ參照シ之ヲ按スルニ上告人ハ甲第廿號豫審ノ調書ヲ援引シテ  
被上告人カ上告人ニ返入セシト稱スル金圓ヲ上田儀八ヨリ借受ケタルハ明治十六年四月四  
日ナリ然レハ上告人ニ對シテハ已ニ當時ニ在テ返金スヘキ筈ナルニ甲第七九號<sup>被上告人ヨリ</sup>  
狀<sup>ル</sup>被上告人親族中ニハ金件ニ關係スヘキモノ無之旨記載アルニ牴觸シ又右四月四日ニ借  
金スルヲ得シナラハ甲第九號證ノ如ク明治十六年五月廿八日迄延期ヲ乞フノ道理ナケレハ  
旁以被上告人カ其親族儀八ヨリ借金ノ上上告人ニ返金シタリトノ申分ハ信用スヘカラサル  
ヲ以テ乙第一二號證ノ受取書<sup>上告人ヨリ被上告</sup>ハ真正ノ成立ニアラサル旨論難スレハ原判  
文ニモ有之通り右七號ハ明治十六年三月廿五日付ナリ九號證ハ明治十六年五月十八日付ニ  
シテ被上告人カ乙一二號證ノ如ク返金セシ日ヨリ以前ノ日ニ在テ其金調ノ難キヲ以テ猶豫  
日延ヲ乞タル迄ノモノナレハ其前日ニ在テ完全ノ調達ナラサリシモ親族ノ關係ナキモ後日  
ニ至リ上告被上告相互ノ間ニ在テ金圓ノ授受整タル證據ハ乙第一二號證ノ如ニシテ上告人  
ハ其乙一二號證ノ不真正ナル適證ヲ舉ル能ハスシテ其以前被上告人カ他ヨリ借金セシ手續  
等ヲ舉テ論スル處ハ畢竟原判官ト意見ヲ異ニスト云フニ過サレハ以テ上告ノ原由トナスヲ  
得サルモノトス依テ本上告ハ受理セサルモノナリ

但シ上告狀等論辨數岐ニ涉ルモ結局右主點ノ外ニ出サルヲ以テ逐一辨明ヲ與ヘス



○第五百四十二號

約定執行一件上告ノ判文(明治十七年四月廿九日上告) 全(年十一月七日申渡)

二六

新瀨縣越後國西蒲原郡吉田村

平民神本日正外廿二名代言人

東京府日本橋區濱町二丁目十

番地土族

高橋 一勝

日本橋區西河岸町十七番地土

族

岡山 兼吉

新瀨縣越後國西蒲原郡吉田村

平民

石倉 猶七

外二十名

本件ハ上告者神本日正外廿二名ヨリ被上告者石倉猶七外二十名ヘ係リ起訴セシモノニシテ其要旨ハ上告第一號證即論地ノ所有權ヲ讓リ受ケントノ約定執行ヲ請求スルモノナリ被上告者等ハ右約定書ハ毫モ承認セサルノミナラス該地ハ曩キニ他ヨリ買得以來完全ナル所有權ヲ有スルモノナレハ右要求ニ應スヘキ義務ナシト拒絶シタリ

上告者ハ始審ニ勝終審ニ敗レタリ新瀨始審裁判所終審裁判ノ要點ハ左ノ如シ

一原告<sup>被上</sup>告 番外第二三號證原告第一號證數通ノ證書同第二號證等ニ依レハ被告<sup>上</sup>告第一號

證ハ無原因ノ契約ニシテ効力ナシトノ事

一被告第二號證ハ論所ノ貢租ヲモ被告等カ納メタルノ證左トナスニ足ラスシテ原告番外

第八號證ニ依レハ却テ原告等ヨリ納メタルノ事實愈明カナリトノ事

以上ノ理由ニ依リ被告ノ請求相立スト言渡シタリ

右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要旨左ノ如シ

第一條

原裁判所カ上告第一號證ヲ信用シ難キモノトシテ斥ケラレタル其理由ヲ閱スルニ先ツ被上告第一號證ヲ地盤ノ賣買證ト見做シ乃チ明治七年ニ至リ更ニ上告第一號證ニ被上告人等カ甘諾押印シタルモノト信認シ難シト判定セリト雖モ被上告第一號證ハ良シ假リニ地盤ノ賣買トスルモ個ハ間接ノ證據ナルニ付其原被告間直接ナル證據即チ上告第一號證ヲ擯斥スルノ材料トスルニ足ラス況ンヤ被上告第一號證ハ小作株ノ賣買ニ止マルニ於テオ

ヤ 又上告第二號證ハ荷モ戸長代理筆生某ニ於テ取調ヲ爲シタルモノナレハ決シテ作爲ニ出タル故造證ナルノ嫌ヒアルヘキ筋ナシ然ルニ原裁判所ハ該證ハ單ニ起訴後ニ係ルト云フヲ以テ貢租ヲ納メタル證左ト爲スニ足ラスト判斷セシハ不當ナリト云フヘシ

被上告番外第八號證ハ當時今井太平ニ於テ印稅犯則ノ罪ヲ免レントスル一念ニ出タルモ

三七



ノナルヘク且太平ハ現時論地ニ關係ナキ者ナルニ付其書面ニ何等ノ記載アルモ本訴ノ證ト爲スヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所ハ容易ク之ヲ採リ上告第一號證ヲ斥クルノ一具トシタルハ亦不當ト論セサルヲ得ス

第二條

原裁判所ハ被上告第一二號證ヲ誤解シ所有權ノ賣買證トシ判決ノ理由トナシタルモ抑モ舊長岡藩領ニ於テハ眞ニ所有權ヲ賣買スルノ法ハ土地更ニ申付ノ式ヲ行フヲ以テ通例トシ又ハ質流地ノ法ニ依ルモノナルヲ以テ果シテ被上告人カ所有權ヲ得タリトセハ上告人ヘ小作米ヲ納ムヘキ筈ナキニ其第二號證ノ如ク小作米ヲ納メ來リシ事實アリ而シテ原裁判所ハ其第二號證地子米トアルヲ租稅ト認メ該證ハ租稅ノ受領證ナリトスレモ右ニ付テハ上告第二號證ノ存スルアリ且其米額又ハ代金員ハ大ニ租稅ノ額ニ超過ス由是觀之ルモ其租稅ニアラスシテ小作米ナルヲハ法律ノ推測上免カレ難キモノナリ若シ夫レ被上告人等カ該小作米ハ貢納ナリト信シ來リタル乎是法律ヲ錯誤シタリト自稱スルモノニシテ其錯誤ハ證據トシテ採用スヘカラサル又多辨ヲ要セス何トナレハ租稅ノ額ハ法律ノ定ムル所ニシテ納稅者之レヲ知ラサル可ラサルノ義務アレハナリ是故ニ被上告人等カ其占有スル土地ノ租額ヲ知ラストノ自認ハ却テ被上告人等ニ該土地ノ所有權ヲ有セサル確證ト云テ可ナリ之ヲ要スルニ原裁判所ハ擬律ヲ錯誤セシモノト思考ス  
本院ニ於テ辨明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

上告要旨第一條第一ヲ案スルニ被上告第一號證ハ間接ノ證據ニシテ上告第一號證ヲ排斥スルノ材料トスルニ足ラスト云フニアレモ原裁判所審理中申立サル事柄ヲ以テ其主權ナル事實認定ヲ非難スルモノナレハ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス  
全第一條第二ヲ案スルニ上告第二號證ハ戶長代理ノ調タルモノニテ故造等ノ嫌アルモノニアラサルニ一ニ起訴後ニ係ルト云フヲ以テ排斥セラレタルハ不法ト云フニアレモ是亦原裁判所ト意見ヲ異ニスト云ニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス況ンヤ該證ハ戶長代理カ何ニヨリテ取調タルヤ其原因モ詳ラカナラサルモノニ於テヲヤ  
全第一條第三前節ヲ案スルニ被上告第八號證ハ今井太平カ印稅犯則ヲ免レントスルニ出タリト云フニアレモ原裁判所審理中申立サル事柄ナルヲ以テ本院ノ監査スヘキ限ニアラス又後節ハ太平ハ本訴ニ關係ナキト云フニアリテ原裁判所カ此駁論ニ對スル仕拂ヲ付セザリシハ聊カ不備ナルカ如クナルモ該證ハ今井太平カ吉田村用係勤務中成立タル上告第一號證書ノ事ニ付檢事補須藤楓ノ審問ヲ受ケ之ニ答タル書面ニシテ稍々信ヲ措グニ足ルヘキヲ以テ原裁判所カ種々ノ理由ヲ付シタル末之ヲ參考ニ供シタルマテノモノナレハ右等不備ノ廉アリトテ之ヲ以テ本案破毀ノ材料トナスニ足ラサルモノトス

全第二條ヲ案スルニ被上告第二號證地子米トアルヲ租稅ト認メ云々種々論難スレモ到底原裁判官ト意見ヲ異ニスト云フニ歸スヘキナレハ亦以テ上告ノ理由トナスヲ得サルモノトス  
右ノ理由ナルニ依リ本上告ヲ受理セサルモノナリ

○第五百四十三號



永小作權爭論一件上告ノ判文(明治十七年七月四日上告  
全 年十一月十二日申渡)

四〇

熊本縣肥後國飽田郡花園村七  
百廿八番地土族溝口貞幹代言  
人

東京府麴町區飯田町四丁目十  
八番地平民

上告人

白 石 剛

熊本縣肥後國上益城郡下名連  
石村千二百三十七番地平民

被上告人

荒 木 勝 熊

外八十五名

本件ハ被上告者ノ起訴ニシテ上告者ハ始審終審トモ敗訴シ該裁判ヲ不法トシテ上告スルモ  
ノナリ其訴答ノ要略ハ被上告居村ニ於テ上告者ノ所有セル反別十九町四反九畝十七歩ノ地  
所ハ舊熊本藩ニ於テ赦免開ト稱スル地所ニシテ往年舊藩門地家タル坂崎清右衛門ノ名義ヲ  
以テ其藩主ニ請願シ被上告等ノ祖先ニ於テ荒蕪地ヲ開墾シ爾來被上告等ノ祖先ハ永久該地  
ヲ小作スルノ權ヲ有シ坂崎家ヘハ德米若干ヲ収メ來レリ其後坂崎家ヨリ上告者ノ先代ヘ該  
地ヲ讓與シ爾來ハ上告者ノ赦免開トナリタルモ被上告者カ往年祖先ノ勞力ニ因テ得タル永  
小作權ハ依然動クコナク上告者ハ止タ德米ヲ領取スル權ノミヲ有スル者ナルヲ上告者ハ該

地ノ全有權<sup>即獲收</sup>ヲ他ニ賣却セントスルニ因リ被上告者ハ自ラ安スル能ハス永小作地タル  
コヲ論争スルトノ主旨ニシテ上告者ハ之レニ對シ被上告者ハ永小作人ニアラス通常ノ小作  
人ナリト抗論スルモノナリ

長崎控訴裁判所カ與ヘタル裁判ノ要旨ハ左ノ如シ

論地ハ舊熊本藩ニ於テ赦免開ト稱スル地所ニシテ寶曆年度舊藩士坂崎清右衛門ノ名義ヲ  
以テ其藩主ニ請願シ被控訴人等祖先ニ於テ荒蕪地即チ本訴ノ地所ヲ開墾シ當時ノ慣例ニ  
依リ赦免開ト唱ヘ單ニ坂崎家ヘ德米ヲ収メタリ其後坂崎家ヨリ控訴人ノ先代ヘ讓與シタ  
ル地所ナリトノ事

乙第二三四號讓リ地上ケ地實地證ノ如キハ即下作人ニ於テ該下作權ヲ讓與シ又ハ實地ニ  
爲シタルノ證蹟ニシテ其當時庄屋又ハ五人組ニ於テ其讓與等ヲ認ムルニ止マリ地主即控  
訴人<sup>即上</sup>ニ於テハ之ニ關與セサリシニ因テモ被控訴人等<sup>即被上</sup>カ永小作權ヲ占有セルノ  
事實ヲ認視スルニ足ルトノ事

甲第二號證ニ通常小作ノ文字アルモ該證ハ畢竟被控訴人ニ於テ認メタルニ非ス控訴人方  
ヨリ之ヲ示シテ其捺印ヲ要シタルモノナリ而シテ其通常小作云々ノ文字ノ如キハ被控訴人  
等ハ何等ノ意味ナルヲ解了セスシテ捺印シタルモノナリト認定ス何トナレハ熊本地方ニ  
於テハ元來永小作或ハ通常小作等ノ名稱ナカリシニ因リ下民ニ在テハ其通常小作ノ何タ  
ルヲ識ルニ由ナキヲ以テナリトノ事

右ノ理由ナルヲ以テ控訴人ハ該地所ヲ賣却シ得ルモ被控訴人カ固有セル其永小作權ヲ侵



害スルヲ得サルモノト判定ストノ事

四二

上告者カ右ノ裁判ニ對シ破毀ヲ求ムル要旨ハ左ノ如シ

第一條

原判文第一項ニ（寶曆年度舊藩土坂崎清右衛門ノ名義ヲ以テ其藩主ニ請願シ被控訴人等祖先ニ於テ荒蕪地即本訴ノ地所ヲ開墾シ當時ノ慣例ニ依リ赦免開墾ト唱ヘ單ニ坂崎家ヘ德米若干ヲ収メタリ）トアリ又其第二項ニ（本訴地所ニ被控訴人等ノ祖先共ニ於テ勞力シテ開墾セシ地所ナルヲ以テ云々）トアルハ共ニ據ルヘキ證據ナキヲ以テ臆測想像ノ認定ト云ハサルヲ得ス夫レ熊本縣下ノ赦免開墾タルヤ舊藩門地家カ或ル原野ノ開墾ヲ請願シ藩主ノ認許ヲ得テ開墾シタル地所ナルモ其之レヲ開墾スルヤ必ス地元村人民ノ自費開墾ト極リシモノニアラス多クハ赦免ヲ得タル門地家自費ヲ以テ開墾シ之ヲ地元村人民ニ小作サセ來リシモノナリ然ルニ本訴論地ノ如キ毫モ被上告人等ノ祖先カ自費開墾シタリトノ證據ナキヲ原裁判所カ漫然論地ハ被上告人祖先ノ自費開墾ニ係ルモノト判定セラレタルハ全ク臆測想像ニ出タル不法ノ裁判ナリトノ事

第二條

原判文第二項ニ（乙第二三四號讓地上ケ地質地ノ如キハ即下作人ニ於テ該下作權ヲ讓與シ又ハ質地ニ爲シタルノ證據ニシテ其當時庄屋又ハ五人組ニ於テ其讓與等ヲ認ムルニ止マリ地主即控訴人於テハ之レニ關與セサリシニ因テモ被控訴人等カ永下作權ヲ占有セシルノ事實ヲ認視スルニ足ル）トアリ然レ被上告第二三四號證ハ真正ニ成立チタルモノニ非

ス該證ハ上告人カ關與シタルモノニ非サルヲ以テ被上告人ノ間ニ於テ幾許葉ト雖モ容易ニ調成シ得ルモノナレハ上告人ニ對シテハ敢テ證據ナキモノナリ蓋シ赦免開墾トスルモノ小作人ニシテ其小作權ヲ讓與質入等ヲ爲ス場合ニ於テハ必ス地主即上告人ノ承諾ヲ經サルヲ得サルハ勿論ナリ決シテ小作人等相互ニ小作權ヲ讓與質入等ヲ爲シ得ヘキモノニアラス是レ上告人カ被上告第二三四號證ハ真正ノ成立ニアラス且上告人ニ對シ證據ナシト云フ所以ナリ夫レ斯ノ如キ被上告第二三四號證ナレハ永小作權ヲ證明スルノ材料ト爲ヲ得サルヤ太々明ナリ然ルヲ原裁判所ハ其之レヲ採ルノミナラス剩ヘ上告人カ該證ニ關與セサリシ廉ヲ以テ却テ被上告人ニ永小作權アリシヲ認視スルニ足ルト判定セラレタルハ所謂採證ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトノ事

第三條

原判文第三項ニ（上告第二號證ハ畢竟被控訴人ニ於テ認メタルモノニ非ス控訴人方ヨリ之レヲ示シテ其捺印ヲ要シタルモノナリ而シテ其通常小作云々ノ文字ノ如キハ被控訴人ハ何等ノ意味ナルヲ了解セスシテ捺印シタルモノト認定ス）トアルモ抑モ上告第二號證タルヤ曩ニ上告第三號證ノ如ク小作ノ條約ヲ爲シ其後ニ至リ上告第二號證ノ如ク改テ契約シタルモノニシテ被上告人等モ能ク協議ヲ盡シ能ク約旨ノ在ル所ヲ了知シタル上ニアラサレハ承諾ノ捺印ヲ爲スヘキニアラス又被上告人等ハ通常小作ト永小作トノ別ヲ知ラサル者ニモ非サルナリ良シヤ通常小作ノ意味ハ知ラサリシ者トスルモ該證中（若万一期限ニ至リ不納ノ義有之候節ハ御引上ケニ相成候テモ毛頭申分申上間敷候）トアル一段ニ至

四三



テハ此レヲ了知セシテ捺印シタルモノト云フヲ得サルヘシ既ニ此一段ノ意味ヲ了解シテ捺印シタル上ハ假令通常小作ノ意味ヲ了解セサリシモノトスルモ小作米不納ノ場合ニ於テ地所ノ引上ケヲ承諾シ居ルカラニハ永小作ニアラサル普通小作ノ契約ヲ爲シタルヤ實ニ明瞭ナリト云ヘシ加之上告第二號證ハ百有餘名ノ連署ニシテ其連印者ニハ老農識者モ多クアレハ通常小作ノ意味ヲ了解セス捺印ヲ爲スヘキ理由万アルヘカラス矧ヤ我カ頭上ニ利害ノ係ル契約證ナルニ於テヲヤ故ニ被上告人カ通常小作ノ意味ヲ了解セシテ捺印シタリト云フハ遁辭ニ過キサルナリ然ルヲ原裁判所ハ通常小作ノ意味ヲ了解セシテ捺印シタリト斷定シ剩サヘ通常小作ノ字句ヲ排斥スルカ爲メ後段即被上告人異議ナキ約文ヲモ尙暗々中ニ排斥シ終ニ上告第二號證ノ全体ヲ無効視シ彼ノ被上告第二三四號證ノ如キモノハ採テ以テ本案裁判ノ要證ニ供シ結局上告人ハ論地ヲ賣却シ得ルモ被上告人等カ固有スル永小作權ヲ侵害スルヲ得スト判定セラレタルハ全ク證據ノ取捨ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトノ事

本院ニ於テ辨明判決ヲ與フル左ノ如シ

上告第一條ヲ案スルニ上告者ノ祖先ニ於テ自費開墾セシ證憑ナク而シテ被上告者ハ古來論地ノ下作人ニシテ則チ力作者ナルヲハ上告者ノ異議ナキ所ナルヲ以テ原裁判所カ其祖先ノ勞力ニヨリ開墾セシ地所ナリト認定セシハ臆測想像ニ出テタル不法ノ裁判ト論難スルヲ得ス畢竟原判官ノ主權ナル事實ノ認定ヲ非難スルニ過サルヲ以テ上告ノ因由ト爲スヲ得サルモノトス

上告第二條ヲ案スルニ赦免開キノ小作權ヲ讓與質入等ヲ爲ス場合ニ於テ必スシモ地主ノ承諾ヲ經ル習慣ナリトハ只上告者ノ口陳ニ止マリ何等ノ證憑ナク而シテ被上告第二三四號證ハ當時ノ庄屋五人組等ノ連署セル證書ニシテ他ニ之レヲ不正トスヘキ憑據ナキヲ以テ原裁判所ハ該二三四號證ヲ真正ノ證具ト認メ之ヲ採用セシモノナルヲ以テ是亦採證ヲ誤リタル不法ノ裁判ト爲スヲ得ス

上告第三條ヲ案スルニ原裁判所ハ前二項ノ理由ニヨリ被上告者ハ本來永小作權アルモノト認定シ又熊本縣下ニ古來永小作或ハ通常小作等ノ名稱ナカリシ事實トニヨリ上告第二號證ノ(通常小作)ノ文字ハ被上告者カ其意味ヲ了解セサリシモノト認定セシモノニシテ該認定タル原判官ノ主權ナルヲ以テ之レヲ動カスヲ得ス然ラハ則チ該證中(若方一期限ニ至リ不納ノ義有之候節ハ御引上云々)ノ如キハ通常小作ノ文字ニ附從セシ契約文ナルヲ以テ之レヲ暗々中ニ排斥シタリトテ不法ト爲スヘキ理由ナシ何トナレハ主タル通常小作ノ文字ハ被上告者カ意味不了解ニ起因セシモノト認定セシ上ハ從テ生スル契約文ノ無効ニ歸スルハ當然ナレハナリ

右ノ理由ナルヲ以テ本上告受理セサルモノナリ

○第五百四十四號

公村費立換金請求一件上告ノ判文

(明治十六年十月三十日上告  
全 十七年十一月十四日申渡)

長野縣信濃國南佐久郡平賀村

平民飯島美須受人



同縣同國北佐久郡岩村田町寄  
留平民

上告人

小松力太郎

東京府京橋區西紺屋町九番地  
士族

右代言人

平塚有

長野縣信濃國南佐久郡平賀村  
平民

被上告人

內藤治作

東京府京橋區三十間堀三丁目  
五番地出張平民

右代言人

西村楨造

上告ノ要領

第一條

第一項 本案初審起訴者ハ上告人ニシテ其起訴ノ要領タル上告人カ村用係勤務中明治八年ヨリ同十一年ニ至ル四ヶ年ノ間被上告人ノ納ムヘキ公費村費等ヲ上告人カ自資ヲ以テ立換納メ置キタルニ付之カ返還ヲ請求セシナリ而シテ立換タル所ノ金員ハ甲第八號證明記ノ如クニシテ此ノ甲第八號證ハ上告人カ村用係勤務中ニ係ル課賦金未納ニ付立

換上納シタル金高及下ケ戻スヘキ金高ヲ登録シタル帳簿ニシテ上告人カ退職ノ際後任者ト立會精算ノ上其全ク相違ナキヲ以テ上告人ハ直チニ被上告人其他ノ者共ヨリ取立ツヘキ事ニ協議決定シ役場ノ公印ヲ押捺シテ上告人ヘ下與セラレタルモノナリ之ヲ證スル該證末尾ニ(前顯不納貸金并渡金共飯島美須受内藤丈助兩名ニテ立換序拂負擔ノ事平賀村事務所印)トアリテ上告人外一名ニテ被上告人其他ノモノ等ノ納ムヘキ公費村費等ヲ立換タルヲ明ナリ況ンヤ現ニ目今ノ役場ニ備ヘアル公村費賦課未納明細書即甲第一號證ニ照ラシテ觀ルモ恰モ符節ヲ合ハスルカ如キナルヲ故ヲ以テ上告人ハ原裁判所ヘ差出シタル參考書ノ如ク舊同役員ナル内藤丈助ト與ニ之ヲ請求シ已ニ返還ヲ受ケタルモノ若クハ當時示談中ニ係ルモノ實ニ一二人ニ止マラサルナリ

第二項 從來原被地方ニ於テハ村民ヘ賦課スヘキ費金アルニ際シテハ都テ村吏舊時ハニ於テ立換置キ年一季若クハ二季ヲ以テ銘々ヨリ取立ルノ習慣ナリ即チ甲第六號七號證ニ金何圓何々柄何ノ誰立換ト記載アルカ如キ是レナリ是レ必竟村民ノ便利ヲ計リタルニ出タルモノナリ然リ而シテ地租改正ノ事業タルヤ一朝一夕ノ事ニアラサレハ從テ費用モ又自ラ多額ヲ要セサルヲ得ス獨リ多額ナルノミナラス其幾何ナルヤ豫算シ得ヘキ事ナラサリシ故ヲ以テ今般捧呈スル所ノ參考書第一號證外ニ數外ニ數ノ如ク上告人ハ同役員ヲ受人トシ上告人一己ノ資格ヲ以テ金圓ヲ他借シ參考第二號證外ニ數外ニ數ノ如ク從來ノ習慣ニ依リ一村人民ノ爲メ其納ムヘキモノヲ立換上納シタルニ付被上告人其他ノ者共ハ役場ニ對スル不納ナキニ至リタルモノナリ而シテ其役場ニ對シテ不納ナキハ上告人



カ立換上納シタルニ依ルトノ理由ヲ證セン爲メ本村事務所ヨリ甲第一號證ト同一ナル  
甲第八號證ヲ上告人ニ下與セラレタリ

第三項 前第二項ニ概陳スル事實ナルヲ以テ本訴ノ起頭ニ在テ甲第九號證ノ如ク上告人  
カ勸解廷へ差出シタル調書ニ對シ同證付箋ノ如ク被上告人ハ上告人へ直チニ返濟シタ  
リシト抗辨シタルニ付當時上告人ハ不在ニシテ受取得ヘキ筋ナキヲ證セン爲メ甲第十  
號證ノ二三ヲ捧呈シタルニ被上告人ハ其詐言ノ掩フヘカラサルヲ曉リ甲第四五號證ノ  
如キ口供ヲ爲シナカラ更ニ其反證ヲモ擧ケ得スシテ不當ニモ曖昧ノ間ニ於テ上告人カ  
正當ノ請求ヲ排斥セント企圖スルモノナリ

## 第二條

第一項 原裁判所判文ニ曰ク(前)其取立ト立換ヲ公私混淆シ之レカ區分ヲナサス若シ原告  
ニ不納アツテ其不納ヲ促シ取立ルハ用係職務上ノ業ナレハ被告カ退職セシ以上之レニ  
關係スル理ナシトハ錯誤ニ出タル不法ノ裁判ナリトス夫レ用係ハ人民ヨリ其不納金  
ヲ取立ルハ固ヨリ職務上ノ業ナリト雖ヒ而レハ本案立換上納シタルハ所謂ル從來ノ習  
慣ニ倣ヒ而モ役場吏員及代議人ト協議ヲ遂ケ事務ヲシテ澁滞ナカラシメンカ爲メ當時  
ノ用係即チ上告人外一名ニテ立換上納シタルモノニシテ而シテ此ノ立換タル金圓ハ上  
告人カ私資ヲ以テ立換タルモノナレハ上告人カ退職ノ際後任者及代議人トモ協議ノ上  
上告人カ直チニ被上告人其他ノ者ヨリ受取ルヘキ事ニ決定シタレハコソ甲第八號證未  
項明文ノ如ク事務所ノ公認ヲ受ケタルモノニシテ上告人カ專斷ニ成リタルモノト同視

スヘキモノニアラス即チ被上告人其他ノ者共ノ承諾アルモノト同一ナレハ當時全ク上  
告人カ一己ノ立換ニ歸シタルモノナリ果シテ然ラハ上告人カ之ヲ被上告人ニ請求スル  
ハ決シテ公私混淆セシモノニアラスシテ當然行フヘキノ權利ヲ行ヒタルモノナリト  
ス然ルヲ原裁判所ハ(前)被告カ退職セシ以上之レニ關係スル理ナシトノ判語ヲ下サレ  
タルハ本訴金圓ヲ立替タル習慣ト事由ノ審理ヲ盡サレサル不法ノ裁判ナリト思考ス  
第二項 原裁判所判文ニ曰ク(若シ原告不納ニシテ官庫或ハ村庫ニ完納スルニ其期ヲ失シ  
不都合等ノ事アツテ被告カ自己ノ金ヲ以テ立換代納セシナラハ原被ノ間ニ其契約アツ  
テ原告カ承諾シタル證ヲ取置カサル可カラズ云々)トハ採證法ニ違背セル不法ノ裁判  
ナリトス何トナレハ甲第八號證未項ノ明文ハ被上告人其他ノ者ノ代議人若クハ用係等  
ノ爲シタル公認ニシテ直接ニ被上告人其他ノ者共カ其立換代納シタルヲ承諾シタルモ  
ノニアラスト假定スルモ甲第四五號證ノ如ク被上告人ハ業已ニ初審岩村田治安裁判所  
ニ向テ所争ノ金圓ハ上告人ノ立換タル事實ヲ認メタル自供ノアルアリ甲第四號證ニ曰  
ク(原告請求スル立換金ノ儀ハ都テ返濟致シタル儀ニハ候得共云々)トアリテ此ノ語氣  
タル上告人ニ立換賞ヒタル金員ハ都テ上告人へ返濟ヲ遂ケタルモノトノ旨趣ナリト解  
釋セサルヲ得ス果シテ然ラハ被上告人モ又上告人ニ立換賞ヒタリトノ事實ハ疾クニ自  
認スル所ナリトス然ラハ則被上告人カ自認スル所ノ立換金ノ既濟ニシテ其義務ノ消盡  
シタルモノナリトノ舉證ノ實メハ被上告人ニアラスシテ將タ何人ニカアル然ルニ被上  
告人カ一ノ反證ヲモ擧ケ得サルニモ係ハラス原裁判所ハ(原被ノ間ニ其契約アツテ原



告カ承諾シタルノ證ヲ取置カサル可カラス)トハ竟畢甲第四五號證ヲ無効視シタル結果ニシテ採證法ニ違背セル不法ノ裁判ナリト思考ス

第三項 原裁判所判文ニ曰ク(前諸證中一ツモ被告カ自己ノ金ヲ以テ原告カ負擔シ上納スヘキ金ヲ被告立換タリトノ證憑アルヲ見ス)トハ審理不盡ナル不當ノ裁判ナリトス何トナレハ被告上告人其他ノモノ、今日役場ニ向テ不納ナキハ該村戸長カ原裁判所ニ證明スル所ニシテ而シテ此ノ不納ナキハ上告人カ立換上納シタルニ由ル其證ハ甲第十四號證戸長ノ回答ニ明記スルノミナラス甲第八號證未項ニ前顯不納貸金并渡金共飯島美須受内藤丈助兩名ニテ立換序拂負擔ノ事平賀村事務所印)トアリテ此ノ「不納貸金」トハ役場ヨリ被告上告人其他ヘノ貸金ニシテ公租諸費ヲ不納分ヲ稱シタルモノニシテ「渡金」トハ被告上告人其他ノ雇入賃或ハ過納金等ヲ役場ヨリ被告上告人其他ヘ下ケ戻スヘキ分ヲ呼ヒタルモノナリ而シテ「立換序拂負擔ノ事」トハ上告人及外一名ニテ被告上告人其他ノモノ、上納スヘキ金ヲ立換役場ヘ上納シ及ヒ被告上告人其他ヘ下ケ渡スヘキ金ヲ負擔シ序拂タリトノ事ニシテ而モ該村事務所即チ一村ノ代議人并用係等カ明認シテ役場印ヲモ押捺シタルモノナレハ上告人カ被告上告人ノ爲メ代納シタル十分ノ證憑ニシテ之ヲ措テ他ニ立換代納シタルトノ證憑ヲ要セサルナリ然ルヲ原裁判所ハ(被告立換タルトノ證憑アルヲ見ス)トハ其證憑ナキニアラサルモ獨リ原裁判所ノ審理不盡ナルヨリ終ニ此ノ十分ナル證憑ヲ見出シ兼子タルモノニシテ不當ノ裁判ナリト思考ス

第四項 前三項ニ陳供シタル如キ理由ナルニ依リ之レカ結果タル(被告カ立換金請求ノ

訴願ハ不相立事)トノ判決ハ從テ不法不當ノ判決ナリト思考ス

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案ハ甲第一號甲第四號甲第五號甲第八號甲第十四號證ハ上告人カ村費ヲ立替タル證ト爲スヲ得可クシテ原裁判所カ之ヲ採ラサリシハ不當ナリヤ否ヲ審究ス可キニ在リ仍テ之ヲ案スルニ甲第四號甲第五號證ハ被告上告人カ口供ニシテ立換金ハ返濟シタリ然レ共若シ返濟シタルトテ證明スル能ハサレハ請求通り返濟ス可シト云フノ旨趣ニテ畢竟スルニ被告上告人ハ直接ニ立換ヲ受タル證據ハナシト雖モ習慣及ヒ間接ノ證憑アリテ必ス義務ヲ盡了シタル證據ヲ立ルニ非サレハ其義務ヲ免ルヘヲ得サルトテ自認シタルモノ、如シ然レハ其義務ノ消散シタル證據ノ有無ハ自ラ權利ノ消長ニ關スルトナルニ原裁判所カ其證據ノ有無ヲ審問セサル而已ナラス右兩號ノ證ヲ採ラサルニ何等ノ理由ヲモ付セサルハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトス甲第一號證ハ上告人カ戸長役場ニ備ヘアル帳簿ヲ寫シタルモノト稱スルモノニテ明治八、九、十、十一年ノ村費賦課ノ高及ヒ其年月日并不納又ハ渡ス可キ分ヲ明細記載アリ甲第八號證ハ不納貸金及ヒ可渡分ヲ明細記載シタル帳簿ニテ末尾ニ前顯不納貸金并渡金共飯島美須受内藤丈助兩名ニテ立換序拂負擔ノ事平賀村事務所ト記シ用係ノ役印押捺シアリ甲第十四號證ハ戸長吉澤兩左衛門カ上告人代理人ノ伺書ニ對シ辨明シタルモノニテ其文中(明治七年同十一年度諸帳簿ニ據テ見ルモ總テ舊慣ニ由リ事務取扱タルモノニシテ課賦金ノ不納者ノ如キハ舊用係リト小前ノ者トノ間ニアル不納則立替貸金ナルモノニシテ云々)トアリ左スレハ甲第一號證ハ舊用係内藤丈助カ明治十五年十二月十五日ノ筆記ニ係リ戸長



ノ奥書アルモ前書賦課年月相違無之トアル迄ニシテ果シテ役場帳簿ノ寫ナリヤ判然ナラサルニ因リ直ニ之ヲ以テ立換ノ證トハ爲シ難ク又甲第十四號證モ直ニ立換ノ證トハ爲シ難シト雖モ證據ノ端緒トスルノ効力ハ充分ナリトス又甲第八號證ハ事務所ヨリ付與シタルモノナレハ證據ノ効力ヲ有スルハ當然ナルニ因リ原裁判所ハ尙ホ甲第六號七號證等ヲ参照シ且甲第一號證ノ本帳役場ニ備ヘアルヤ否ヲ取調ヘ當時實際ノ習慣事實ヲ審究シテ裁判ヲ爲ス可キ筋ナルニ右等ノ證憑アルニ拘ラス公私混同ナリトシ又立換タル證憑ナシト裁判シ又自己ノ金ヲ以テ立換代納セシナラハ其承諾ノ證ヲ取置カサル可ラスト裁判セシハ審理ヲ盡サス且條理ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ長野始審裁判所上田支廳ニ於テ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ相當ノ處分ヲ爲サシムルタメ長野始審裁判所へ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百四十五號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十六年七月廿五日上告  
全 十七年十一月十四日申渡)

茨城縣常陸國新治郡下大堤村

平民

上告人

堀越 寛

東京府京橋區木挽町七丁目壹

番地平民

右代言人

大久保 端造

茨城縣常陸國鹿島郡青塚村十

九番地平民岩崎平太郎入獄中

管財人

被上告人

岩崎利右衛門

東京府日本橋區上槇町四番地

寄留茨城縣平民

右代言人

岡野 寛

上告ノ要領

原裁判所ノ判文ニ「該指令アリタル起訴ノ日即明治十二年十二月九日ヨリ更ニ出訴期限ヲ起算スヘキモノニシテ略中因テ被告者上告ハ原告被上請求ノ金額速ニ返還スヘキモノト心得ヘキ事」トアリ抑本訴貸金ハ明治七年十二月十日返濟期限ナレハ同日ヨリ起算スルハ本訴ヲナシタル日即明治十五年十月二日マテハ七年十月ナリトスサレハ既ニ出訴期限ヲ經過シ受理セラルヘキモノニアラサルナリ然ルニ原裁判所ハ被上告者カ明治十二年十二月九日舊水戸裁判所へ出訴シタル日ヲ以テ起算セラレ上文ノ如ク判決セラレタレトモ被上告者カ該訴ヲ爲シタルハ訴訟ノ手續ヲ盡サヘルヲ以テ直ニ却下セラレ該訴ハ無効ニ屬シタル上ハ此訴ヲナシタルヲ以テ出訴期限ヲ中斷スルノ効力ナキヤ論ヲ竣タサルナリ然リ而シテ被上告者カ該訴ヲナシタルハ出訴期限ヲ中斷スル効力ノ有無ニ付原被告互



ニ論争スル所ナルニ原裁判所ハ該論點ニ對シ何等ノ辨明モナク上文ノ如ク判決セラレタルハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトノ事  
 又本件ニ付テハ上告者ニ於テ專ラ出訴期限ヲ論争シ出訴期限ノ經過セシモノナルヤ否ニ對シ特ニ豫審ノ裁判アラントテ請願シ故ニ答書ニハ紅色罫紙ヲ以テシ本案金額ニ相當スル訴訟用罫紙ヲ用ヒス尤本案貸借金ノ濟否ニ對シテハ論辨セサリシ依テ上告者ハ被上告者ガ請求スル金額ノ内へ既ニ入金シアル甲第一號乃至第五號證ノ金額ヲ相殺スヘキヲ等ハ措テ論セサリシニ原裁判所ハ本案ニ對スル答辨ヲ要セス（被告<sup>上告</sup>ハ原告<sup>被上</sup>ノ請求スル金額ハ速ニ返還スヘキモノト心得ヘシ云々）ト判決ヲ與ヘラレタルハ聽斷ノ定規ニ背キタル不法ノ裁判ナリトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ  
 上告第一項ヲ審案スルニ原告ヨリ出シタル訴狀ニ對シ裁判所ニ於テ被告ノ答辨ヲ要セス直ニ却下スルモノハ不適法ノ訴訟ト看認レハナリ畢竟不適法ノ訴訟ハ訴訟ノ効ヲ有ス可ラサルハ無論ノコナルニ因リ不適法ノ訴訟ヲ爲シタリ述出訴期限ノ經過ヲ除棄スル効アル可ラサルハ復論ヲ裁サルナリ然ルニ甲第二號證ハ被上告者カ上告者ニ對シ訴訟ヲ爲シ明治九年司法省甲第十七號達ニ基キ一應勸解ヲ經由シ出訴致ス可キ旨ヲ以テ却下セラレタルモノナルヲ原裁判所カ該訴訟ヲ以テ出訴期限ノ經過ヲ除棄スルノ効力アルモノト爲シタルハ條理ニ背キタル不法ノ裁判ナリトス  
 上告第二項ヲ審案スルニ上告者ハ本訴ニ於テ專ラ出訴期限ヲ爭論シテ本案貸借金ノ濟否ニ

對シ論辨セシコトナキハ原書類ニ徴シテ明白ナリ然レハ原裁判所ハ先以テ出訴期限ノ經過セシヤ否ニ對シ豫審ノ裁判ヲ與ヘ而シテ出訴期限未タ經過セサルモノト爲サハ上告者<sup>被告</sup>ニ其本案ノ答辨ヲ爲ス可キヲ命シ尙對審ノ上本案ノ裁判ヲ爲ス可キ筋ナルニ此手續ヲ爲サスシテ直ニ本案ノ裁判ヲ與ヘタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ破毀シ相當ノ處分ヲナサシムル爲メ大坂控訴裁判所ヘ移スモノナリ  
 但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百四十六號

貸金催促一件上告ノ判文

（明治十七年一月廿八日上告  
同 年十一月十四日申渡）

茨城縣常陸國鹿島郡青塚村十

九番地平民岩崎平太郎入檻中

管財人

上告人

岩崎利右衛門

東京府日本橋區上槇町四番地

寄留茨城縣平民

右代言人

岡野寬

茨城縣常陸國新治郡下大堤村

廿番地平民



被告上告人

堀越寛

五六

東京府京橋區木挽町七丁目一  
番地平民

右代言人

大久保端造

上告ノ要領

第一項

凡ソ確定裁判ハ法律上動カスヘカラサル者ニシテ其裁判執行ハ取りモ直サス法律ヲ執行セシムルト一般ニシテ對手者ノ毫モ抗拒スヘキ者ニアラサルナリ夫レ然リ本案ノ如キ既ニ確定裁判ヲ蒙リ上告者請求ノ如ク被上告ハ償却スヘシトノ命令ニ従ハサルヲ得サルモノナルニ被上告ハ該裁判執行願ニ對シ甲第一號乃至第五號證ヲ擧ケテ執行裁判ニ對シ之ヲ抗拒シ是カ相殺ノ權アリト事實ヲ彌縫スルモ之ヲシテ本按執行ヲ抗拒スルノ材料ト爲スヲ得サル者ナルヲハ再ヒ辯ヲ費サスシテ明カナリトス何トナレハ裁判執行ハ法律ヲ執行スヘキ者ナレハ事實ノ爭點ト混同スヘキ者ニアラサレハナリ又十六年五月廿八日確定裁判<sup>甲第十號證</sup>「被告ハ原告請求ノ金額速ニ返済スヘキ者ト心得ヘキ事」トアリ今原裁判所ハ不當ニモ之ヲ指テ出訴期限ヲ經過シタリト理由ヲ以テ返辨ヲ拒障スル能ハストノ主意ナリトハ抑モ亦何ノ理由ナルソ之ヲ稱シテ不法ノ裁判ト謂ハサルヲ得サルナリ何トナレハ確定裁判ニテ元利ノ返金ヲ命シ其執行ヲ遂クルニ當テ被上告ノ事實ニ對シテノ彌縫ヲ容レ法律執行ヲ妨害スルノ結果ニ歸スルヲ以テ

ナリ故ニ上告者カ當初請求ノ元利金七百七拾圓ノ裁判執行ヲ遂ケシメサルハ頗ル不法ノ裁判ナリトノ事

第二項

前説論スルカ如ク裁判執行ハ事實ト混同スヘカラサル權利ヲ有スルモノニアリ姑ク假リニ事實ニ闖入シテ論スルモ甲第一號乃至五號證中其二號證ハ本訴請求ノ當時内金五拾圓ヲ扣除シタルノ證ナリト雖モ其他ノ證據ハ決シテ上告者ノ認メサルモノナリ若シ甲一號二號三號四號五號證カ事實裁判ノ當時被上告有スル者ト假定セハ何ソ之ヲ呈セスシテ出訴期限云々ト狡猾ノ爭訟ヲ爲シタルヤ蓋シ甲號數證ヲ以テセハ疾ク既ニ義務盡了ノ如シト雖モ之ヲ呈セサルハ當時有セサル者ト云フヘキナリ況ンヤ甲三號證ノ如キ四百四拾圓ノ巨額ニシテ上告者ノ名義ニアラス之レニ加ヘテ押印ナク又甲四五號兩證ノ如キモ上告者ノ名義ニアラス且ツ傍ヲ摺印ニ係ル者ナルヲヤ單ニ之ヲ有効視スヘカラサルヤ論ヲ待タサルナリ良シ之ヲ有効トラシメンニハ甲一號證ハ筆跡及ヒ印判鑑定ヲ要シ又甲三四五號證ハ其代理者タルノ効アルヤ否ヤノ審究ヲ遂ケ果シテ正當ノ代理權アル者ト認知スルニアラサルヨリハ上告者ニ對スル確證ト爲シ難キハ又論ヲ待タサルナリ然ルニ原裁判所ハ甲三四五號證附屬證上告者カ認メサル一片紙ヲ採テ以テ本訴ノ證據ト爲シ判定セラレタルハ頗ル不法ノ裁判ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ裁判官ハ古筆家ニアラス又印判師ニアラサレハナリ抑々筆跡及ヒ印判鑑定ヲ爲スニ當リ宜シク其職工ニ命シ公平無私ノ鑑査ヲ經スンハ明瞭スル能ハサルヲハ童子ト雖モ知り得ヘシ豈ニ判官ト雖モ其職工ニ若ク

五七



モノナランヤ然ラハ則チ裁判官カ判文ニ掲ケテ「筆跡印影同一ナルコト一目瞭然タリ」トノ  
裁判ハ誠ニ審理不盡ニシテ則チ不法ノ裁判ナリトノ事  
大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

第一條

上告要旨前第一項ヲ審按スルニ凡法律上義務相殺ト稱スルモノハ雙方互ニ負有スル所ノ別  
項ノ權義ヲ相殺スルモノトス故ニ縱令確定裁判執行ノ場合ト雖モ我レ彼ニ對シ他ノ權利  
ヲ有スルアラハ固ヨリ之レヲ以テ義務ノ相殺ヲ求ムルコトヲ得ヘシ如何トナレハ我ノ權利ヲ  
彼レニ引渡スハ金額ヲ引渡スモ同様ニシテ即チ確定裁判ノ義務ヲ執行スルノ筋合ナレハナ  
リ然ルニ被上告者カ本訴ニ於テ相殺ヲ求ムル其第一三四號證ノ金額ハ被上告者カ控訴狀ニ  
(該金額上告者カ前訴ニ於テ請ニ對シテハ是迄數回返入セシ金員アレハ云々)ト申立ル如ク  
上告者カ前訴ニ請求シタル貸金額ノ内へ返入シタルモノナレハ該數證ハ被上告者ニ於テ上  
告者カ請求金額中幾部ノ義務ヲ已ニ盡了シタルト云フノ證ニシテ被上告者カ上告者ニ對シ  
別ニ一个ノ權利ヲ有スルノ證書ニ非ス而シテ前訴終審裁判ハ結局被上告者ニ上告者請求ノ  
金額被上告者第二號證ノ金額ヲ扣除  
ヲ速ニ返還スヘキコトヲ命シタルモノナレハ其裁判ノ當否  
如何ハ姑ラク之ヲ措キ該裁判ヲ執行スヘキノ今日ニ於テ其第一三四五號證ヲ提出シテ被上  
告者請求ノ金額幾部ハ既ニ返入即チ返還シタリト申立ルハ恰モ確定裁判ニ對シ反證ヲ舉ル  
モ同様ノ道理ナルヲ以テ斯ル事柄ハ法理上決シテ認可スヘカラサルモノトス然ルニ原裁判  
所ニ於テ甲號證ハ之レニ記載スル金員償却ノ義務ヲ終ヘタルノ證ナレハ云々甲第一三四五

號證ノ金額ヲモ扣除シ原告ヨリ被告ヘ其殘金ヲ償却シ以テ該執行ヲ遂ケヘキ筋合ナリ云々  
ト判定ヲ下シタルハ不法ノ判決ナリトス

第二條

同要旨前第二項ヲ審按スルニ已ニ前條辨明ノ如クナルヲ以テ本項ノ申立ニ對シテハ辨明ヲ  
與フルヲ必要ナリトセス

右ノ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ破毀スルモノナリ  
但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百四十七號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十六年十一月廿日上告  
全 十七年十一月十四日申渡)

上告人

山梨縣甲斐國東山梨郡初鹿野  
村百四十七番地平民  
佐藤 太郎兵衛

右代人

東京府神田區鍛冶町十番地寄  
留山梨縣平民  
矢崎 勝 正  
山梨縣甲斐國北都留郡大原村  
平民

被上告人

奈良善右衛門



東京府日本橋區西河岸町十七  
番地土族

右代言人

岡山 兼吉

上告ノ要領

原裁判所カ上告第一號證ハ借用ノ文字ナケレハ貸借ノ證トハ看認メ難シ又貳拾四圓ノ金額ヘ僅カ六錢ノ端錢ヲ付スヘキ筋ナシト認定セラレタルハ不當ノ認定ナリ何トナレハ人民ノ契約スルニ幾錢厘毛ノ端錢ヲ加フルモ負債者ノ要メニ應シ貸與スルモノナレハ端錢ヲ付スヘキ筋ナシト云フヲ得サレハナリ又第一號證中借用ノ文字ナキモ該證ニハ此證引カヘニ相渡ストアレハ被上告者ニ於テ若シ其義務ヲ盡シタリトセハ之カ反證ナカルヘカラサルニ更ニ其反證ナキ而已ナラス上告第一號證ハ依然上告者ノ手ニアル限リハ該證ニ對シ被上告者ノ義務アルヲ炳焉タリ然ルニ原裁判所ハ茲ニ出テスシテ上告第一號證ハ遺殘ノ證ト見認メラレタルハ不法ノ裁判ナリ

原裁判所カ被上告第一號證帳簿ノ體裁古色ヲ帶ヒ標紙等モ手垢ニ染ミ年月日ヲ追ヒ順次附込ミタルモノナレハ本訴ノ義務ヲ免カレン爲メ原告ニ於テ驟カニ調製セシモノトハ看認メ難シト判定セラレタルハ誤認ト言ハサルヲ得ス何トナレハ該證ハ被上告者カ所持シ以テ自由ニ筆記シタルモノナレハ上告者カ認メサル限リハ法律上決シテ信用ス可カラサルモノナレハナリ加之被上告者ハ上告第一號證ヲ消滅セシメントノ故意ヲ以テ該帳簿ニ記載スレハ年月日ヲ順次ニ具備シ體裁モ疑ヒヲ容ル、所ナキニ至ルハ自然ノ理ナリ然ル

ニ原裁判所ハ上告者カ認メサル被上告者ノ帳簿ヲ採用セラレタルハ不法ノ裁判ナリ  
上告趣旨書ノ要領

被上告者帳簿ノ成立ハ明治十二年三月ニ始リ同年八月二十七日ニ終ルモノニシテ乙第一號證ハ明治十三年五月廿八日ニ成立タルモノナレハ素ヨリ別途ニシテ該帳簿ト關係セサルヲ明瞭ナルニ原裁判所ハ誤認ニモ乙第一號證ヲ以テ強テ該帳簿ニ記載シアル金員ト皮想シテ被上告者ニ於テ乙第一號證ハ十二年ニ交付シタルモノナルヲ上告者カ二ノ字ニ一ヲ加ヘ十三年ト爲シタリト申供セシヲ原裁判所ハ乙第一號證ノ成立如何ヲ審理セシテ被上告者ノ口頭無證ノ陳述ヲ取り無効ナル別途ノ帳簿ニ因テ皆濟ニ爲リシモノトセラレタルハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

上告者ニ於テ原裁判官カ被上告者ノ帳簿ハ本訴ノ義務ヲ免レン爲メ調製セシモノトハ認メ難シトセラレタルハ誤認ナリト云モ是レ事實裁判官ノ權内ニ任スヘキモノニシテ本院ノ鑑査スヘキ限ニ非サレハ以テ上告ノ理由トナシ難シ

上告者ニ於テ原裁判官カ乙第一號證ニ借用ノ文字ナケレハ貸借ノ證トハ認メ難シ又僅ニ六錢ノ端數ヲ付スヘキ筋ナシトセラレタルハ不當ナリト云モ該證ニ金貳拾四圓六錢右金員之義ハ六月十七日限リ此證引カヘニ相渡シ可申候也トアリ別ニ借用等ノ文詞モナク又普通ノ貸借ニ六錢ノ端數ヲ付スルハ實際アルマシキ事ナルヲ以テ該證ハ普通貸借ノ證書トハ認メ難キノ筋合ナリ然レモ被上告者ノ帳簿ハ明治十二年分ニ係ルモノニシテ該第一號證ハ明治



十三年五月廿八日附ノ證書ナルヲ以テ原裁判官ニ於テ若シ被告上告者ノ言ノ如ク十三年トアルハ十二年ノ二ノ字ヲ描改シタルモノニテ其實十二年ニ成立タル證書ト認定シタルモノナラハ其理由ナカルヘカラサルニ此ノ要點ニ對シ何等ノ理由ヲ示サス該第一號證ハ全ク遺殘ノ證書ト認定シ上告者ノ申立ヲ排斥セシハ理由ノ備ハラサル不當ノ裁判ナリトス  
右ノ理由ナルヲ以テ甲府始審裁判所カ本訴ニ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受ケシメンカ爲メ静岡始審裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被告上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百四十八號

質地受戻約定履行一件上告ノ判文(明治十七年七月十四日上告  
年十一月十五日申渡)

千葉縣上總國武射郡大臺村五

十二番地平民

上告人

堀 内 良 藏

東京府小石川區小石川諏訪町

三十六番地平民

右代言人

小 島 官 吾

千葉縣上總國武射郡大臺村七

十二番地平民

被告上告人

伊 藤 儀 兵 衛

本件起訴者ハ上告人ニシテ始審終審俱ニ敗訴ノ裁判ヲ受ケ該裁判ヲ不法トシテ上告スルモノナリ

其訴訟ノ主旨ヲ要約スルニ上告人ハ明治元年中其祖父八郎右衛門ヨリ同村木川文治養父八郎兵衛ヘ反別二反三畝八歩ノ田地ヲ金四拾壹圓ニ質入ト爲シ置タル處明治五年地券發行ノ際地券面ハ質取人木川八郎兵衛所有ノ名義トナリタルヲ以テ上告人ハ該地券名義ヲ訂正シ并ニ該地ヲ受戻サント懸合タリシニ八郎兵衛相續人木川文治ハ該地ヲ擅ニ被告上告人ヘ入質トナシタルニ因リ上告人ハ文治及被告上告人ニ對シ其質入ノ不當ナルヲ談判シ竟ニ被告上告人ヨリ甲第一號證ノ如ク約定書ヲ領収シタリ而後上告人ハ其履行ヲ求ムレトモ被告上告人ニ於テ之レニ應セサルニ依リ乃チ甲第一號證ノ契約履行ヲ要求スルニ在リテ被告上告人カ之レニ對スル答旨ノ要畧ハ甲第一號證ヲ上告人ニ付與シタルヲ曾テ無之且該地ハ木川文治ヨリ乙第一號證ノ如ク金百五拾圓ニ質ニ取タルモノナレハ上告人カ木川文治ノ承諾ヲ得テ乙第一號證ノ金員ヲ返濟シ來ルニ非サレハ上告人ノ要求ニ應スル能ハサル旨抗拒スルモノナリ

千葉始審裁判所八日市場支廳ニ於テ與ヘタル終審裁判ノ要旨ハ左ノ如シ  
甲一號證ハ原告<sup>即上</sup>被告<sup>即被上</sup>ヨリノ借用四拾壹圓返還スル上ハ被告カ木川文治ヨリ取り置ク質地原告ヘ返戻受クヘキ約定證ナリト原告申立ルモ該證明文ニ(來ル十六年十二月期限ニ至候ハ、元質代金四拾壹圓ヲ以テ無相違相戻可申候トアレハ四拾壹圓ハ其質代金ト云フハ格別原告カ更ニ借用シタル四拾壹圓ヲ返濟シ質地ヲ受戻スコトニハ解シ難シ  
良シヤ四拾壹圓ハ木川八郎兵衛ヘノ元質代金トスルモ乙一號證公證ヲ經テ被告カ受取タ



ル百五拾圓ノ質地ヲ謂レナク四拾壹圓ニテ返地スヘキイアランヤ又原告述ル如ク乙一號證ヲ虚偽ノ證トセハ何ソ甲一號證ニ乙一號證ノ質地年限ヲ掲ケタルヤ到底甲一號證ノ借金ヲ返戻シ被告カ質地ヲ受戻シ度キトノ原告供述ハ採用シ難シトストノ事

原告ハ甲十二號證ヲ提出シテ乙一號證ハ原告ニ關係ナキ無効ノ證ナリ又甲十二號證ニ別紙約定金云々トアルハ甲第一號證ヲ指示シタルモノナル旨供述スルモ乙一號證無効ナル辨明ヲナサヘルノミナラス原告カ真正ノモノトスル甲六號證ニ被告承諾ノ上ハ云々トアレハ乙一號證質地ハ固ヨリ原告モ之レヲ確認シタルモノナリ然ルニ被告ハ謂レナク無効ニ付スル道理アランヤ加之乙一號及甲十一號證ハ不正ナル證憑ナク殊ニ甲十一號證カ不正ノモノナレハ同證ヨリ成立チタル甲六號證モ從テ無効ノモノナラン又甲六號證ヲ真正トセハ甲十一號證ニ明記アル被告カ質代金百五拾圓ナルコト原告信認シテ該證書ヲ取替ハセ甲六號證ヲ木川文治ヘ交付シタルモノト認メサルヲ得ス又木川文治ヨリ被告カ本訴地所ヲ質地ニ受取リタルコト原告カ承諾シアルハ甲二號證ニ據ルモ明カナレハ其質代金百五拾圓ナルコトモ確認セシコト明瞭ナリ之レニ由テ是レヲ觀レハ甲一號及十二號證被告名下ノ印ハ實印ニ相違ナキニモセヨ甲二號六號十一號證ニ齟齬スル證書ニシテ真正ニ成立シタルモノト認メ難シトノ事

乙一號證ハ前條ニ判決スル如ク之レカ虚偽ニ成立タル舉證ヲ原告爲サヘルノミナラス甲二號及十一號證ニ據ルモ真正ナルコトハ明瞭ナリトノ事

上告人カ之ヲ不法トシテ上告スル要旨ハ左ノ如シ

第一項

上告甲第一號及十二號證即被上告名下ニ押捺シアル印影ハ甲第十三號十四號及十七號證ノ如ク何レモ被上告印影ニ紛レナク同一ノモノナレハ則該甲第一號及十二號證ハ被上告ヨリ上告者ヘ宛タルモノト法律上推測セサルヘカラス然ルニ原裁判所ハ此ニ推測ヲ及ホサスシテ反テ甲第一號及ヒ十二號證ヲ不真正ノモノト推測シタルハ蓋シ不法ノ推測ナリト云ハサルヘカラス何トナレハ本邦ニ於テハ契約證書上印影ヲ貴重スヘキノミナラス被上告ハ唯該證ヲ是認メスト云フ迄ニシテ別ニ該甲第一號及十一號證ニ押捺シアル被上告名下ノ印影ヲ上告者カ盜奪シテ押用シタリト云フ證明ヲナサハレハナリ然ラハ上告者ノ甲第一號及十二號證ハ法律上真正ニ成立シタル證書ナリト推測セサルヘカラス何トナレハ法律ハ常ニ社會ノ者ヲシテ善良潔白ナルモノト推測シテ決シテ惡事ヲナスヘキモノトハ推測シ居ラサルモノナレハナリ故ニ上告者ノ甲第一號證及ヒ十二號證ハ最モ真正確實ノ契約ナリト見做サヘルヲ得ストノ事

第二項

抑モ上告者カ本案論地ヲ木川文治ヘ質地ニナシタル其質代金ハ則金四拾壹圓ナリトス然ラハ其質地ヲ受戻スニ於テハ即チ元質代金ノ四拾壹圓ヲ以テ受戻スヘキハ理ノ當然ニシテ決シテ此以外ノ金額ヲ支出スヘキ義務ノ原由ハ斷シテ生セサルモノナリ何トナレハ質取主タル木川文治ハ質地以來論地ノ收益ヲ皆己レノ有トナシタルカ上ニ猶質地代金増加シテ甲第六號及十一號證ノ金額壹百五拾圓ヲ得ルモノトセハ二重ニ不當ノ利ヲ得ルモノニ



當レルナリ此ヲ以テ上告者ハ甲第六號及十一號證ノ契約ハ法律上無効ナリト云フ所以ナリ夫レ法律上不正ノ富ハ保護セサルノミナラス法律上ノ裁制ヲ以テ若シ得ントスルノ契約アルモ之ヲ無効ノモノトセサルヘカラサルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原裁判所ハ唯契約ノ文字ノミニ拘泥シテ甲第六號及十一號證ハ適法ノ契約ナリトシテ漫然之ヲ有効ノモノト裁判シタルハ不法ナリトス何トナレハ若シ夫レ甲第六號及十一號證ノ契約ヲ法律上認可スルトキハ前段陳辯ノ如ク木川文治ハ二重ノ利ヲ得テ不正ノ富ヲ興スヨリ法律自ラ之ヲ保護スルニ至レハナリ故ニ假令上告者ト木川文治ノ間ニ於テ甲第六號及甲第十一號證ノ契約アルモ其金額ノ點ニ至テハ決シテ元質代金ノ四拾壹圓ヲ超過スベカラサルモノトス故ヲ以テ上告者カ元質代金四拾壹圓ヲ償フニ於テハ木川文治ハ勿論被告等ハ共ニ論地ノ受戻シヲ抗拒ス可ラサルモノトス如何トナレハ元質取主タル木川文治スラ元質代金ヲ超過スルノ權ナキモノナレハ其物件ノ讓與ヲ受ケタル被告上告者ナレハナリ夫レ法律上物ノ讓與ハ其有スル所ノ權利以內ノモノスラ讓與セサルモノナリ左スレハ被告上告カ木川文治ヨリ得タル權利ノ讓與ハ唯四拾壹圓ノ債主權ヲ得タルニ過サレハ上告者ハ被告上告者ニ對シ該四拾壹圓金ヲ償還スレハ論地ノ返還ヲ受クルノ權利アルヲ疑ヒナシトス然ルニ原裁判所ハ元質代金四拾壹圓ニテ未タ以テ論地ヲ受戻ス可ト能ハス則チ被告上告カ木川文治ニ貸與シタル所ノ金百五拾圓ヲ上告者ヨリ被告上告ヘ返還シテ初メテ論地ヲ取戻ス權アリ然ラサレハ被告上告ハ金百九圓ヲ損失セルヲ以テ上告者ノ請求ハ不當ナリト裁判セラレヌレト抑モ原裁判ハ不當ナリ何トナレハ被告上告ハ殘金百九圓ハ木川文治ヨリ返還

ヲ受クルノ權利アレハナリ況ヤ論地ハ木川文治ヨリ上告者ヘ返還スヘキ地所ナルヲ疾クニ被告上告カ承諾ナレハコソ既ニ上告者ハ甲第一號及ヒ十二號證ノ如ク元質地代金四拾壹圓ニテ返還スルヲ契約シタルモノニ於テテヤ益以テ原裁判ハ不法ナリト信スルトノ事

以上ノ旨趣ヲ約言スレハ甲第六號及十一號證ニ於テ上告者ト木川文治ト金百五拾圓ヲ返還スルヲ約シタルハ蓋シ無理由ノ義務ヲ約シタルモノナレハ該證金額ニ係ル契約ハ無効ナリト陳述スト雖モ上告人カ原裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ（明治元年中及金四拾壹圓ニテ入質シタル證據ハ無之候事）トアリテ抑モ上告人ノ祖父カ木川八郎兵衛ヘ質地ニシタルハ果シテ四拾壹圓ナリシヤ否ヤ全ク證據ノ見ヘキナク且上告人カ控訴狀ニ（甲第六號證ノ金額六拾圓ヲ以テ返還スヘキトニ相成タリ云々）ト申立アルニ因ルモ上告人カ所謂元質代金ニ超過セル金額ヲ以テ受戻ス可ト承諾セシヲ見ルニ足ルヲ以テ原裁判所カ上告第六號及第十一號證ノ契約ヲ真正確實ノモノト認定シタルハ至當ナリ又上告第一號及第十二號證ハ元質代金四拾壹圓ヲ以テ被告上告人ヨリ上告人ヘ該地ヲ受戻スノ約旨ナルカ如シト雖モ抑モ上告人カ木川

本院ニ於テ辨明判決ヲ與フル左ノ如シ

上告人ハ其第六號及第十一號證ニ於テ金百五拾圓ヲ被告上告人ニ返還スルヲ木川文治ト約シタルハ蓋シ無理由ノ義務ヲ約シタルモノナレハ該證金額ニ係ル契約ハ無効ナリト陳述スト雖モ上告人カ原裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ（明治元年中及金四拾壹圓ニテ入質シタル證據ハ無之候事）トアリテ抑モ上告人ノ祖父カ木川八郎兵衛ヘ質地ニシタルハ果シテ四拾壹圓ナリシヤ否ヤ全ク證據ノ見ヘキナク且上告人カ控訴狀ニ（甲第六號證ノ金額六拾圓ヲ以テ返還スヘキトニ相成タリ云々）ト申立アルニ因ルモ上告人カ所謂元質代金ニ超過セル金額ヲ以テ受戻ス可ト承諾セシヲ見ルニ足ルヲ以テ原裁判所カ上告第六號及第十一號證ノ契約ヲ真正確實ノモノト認定シタルハ至當ナリ又上告第一號及第十二號證ハ元質代金四拾壹圓ヲ以テ被告上告人ヨリ上告人ヘ該地ヲ受戻スノ約旨ナルカ如シト雖モ抑モ上告人カ木川



文治ニ對スル元質代金ハ四拾壹圓ナリシ證左ナキノミナラス長シヤ四拾壹圓ト假定スルモ被上告人ニ於テ文治ニ對スル質代金百五拾圓ナルヲ僅カニ四拾壹圓ニテ上告人へ返地スヘキヲ承諾スヘキ原由ナク殊ニ該證ハ上告第六號第十一號證ト兩立スヘカラサル證書ナルヲ以テ原裁判官カ其印影ニ拘泥セス相當ノ理由ヲ付シ該六號十一號證ヲ有効トシ其第一號十二號證ヲ排斥シタルハ即原判官ノ主權ニシテ不法ノ推測ト爲スヲ得ス  
右ノ理由ナルヲ以テ本上告ヲ受理セサルモノナリ

○第五百四十九號

渡船受負解約故障解除一件上告ノ判文  
(明治十七年九月十二日上告)  
(全) 年十一月十七日申渡

東京府武藏國北豐島郡岩淵本  
宿町平民高橋亦吉外三名代言  
人同府下谷區仲御徒町三丁目  
廿二番地平民

上告人

今 泉 丘 之

同府武藏國北豐島郡岩淵本宿

町外一ヶ村戸長

被上告人

松澤 内藏次郎

本件起訴者ハ被上告人ナリ其訴旨タル本訴渡船場ハ甲一二號證ノ如ク上告人等ヲシテ五ヶ年間渡船ニ從事致サセタリシカ滿期ニ至リタルヲ以テ町會規則ニ隨ヒ渡船ニ係ル諸務改良

方ニ付其議決ヲ經テ上告人等ノ解雇ヲ命令セシモ之ニ首服セサルニ付速カニ該約定ヲ履行シ併セテ該渡船場ヨリノ上リ高延滞金ヲモ納付セシムヲ要求スト云フニ在リ

上告人答辨ノ要旨ハ該渡船場タル人民一般ノ共同物ナレハ被上告人ニ於テ戸長ノ職權ヲ以テ起訴スヘキ筈ナキノミナラス當時甲第一號證ヲ取消シ更ニ甲第二號證ノ如ク請負ノ契約ヲナセシモノナリ然シテ甲第二號證中ニハ固ヨリ年限ノ取極ナキモノナレハ被上告人ノ請求ニ應シ難シト拒絕セリ

上告人ハ始終審共ニ敗訴シタリ

東京控訴裁判所審判ノ要趣左ノ如シ

一 控訴上告人ノ論點ハ始審裁判ノ當否ト戸長職權ノ如何ニアル者ノ如キモ本案ニ對シテ覆審ヲ爲ス以上始審裁判ノ當否ヲ判決スルノ要用ナケレハ本訴ニ於テハ該受負ノ事カ戸長ノ職權ニ關スルヤ否ヤヲ裁判スルヲ以テ足レリトストノ事

一 抑モ町會ハ其町方人民ノ代人ニシテ又法律上ノ沿革ヨリ論スルハ町會ト戸長トハ甲第一二號證ニ署名スル總代人ノ相續者ナルカ故ニ戸長ニ於テ町會議決通り該受負ノ事ヲ處分スル權ヲ有スルハ明白ナリ左スレハ控訴上告人ニ於テ町會カ議決スル改正施行ノ談判ニ循ハスシテ渡船業ヲ引渡サハルハ不當ナリトノ事

一 被控訴被上人ニ於テ已ニ消滅スル甲第一二號證ヲ以テ之レカ解除ヲ要ムルカ如キ訴名ヲ掲ケ出訴シタルハ聊カ不適當ナルモ其精神タル各書類ニ記載スル通り控訴人等ノ故障ヲ排斥シ甲第三號證ノ議決ヲ施行セントスルニ在リテ兩造ノ論争モ到底之ニ外ナラサレ



ハ其訴名ニ依リ控訴人ヲ曲者トスル能ハサルハ勿論被控訴人ニ於テハ東京府知事ヨリ指令ヲ得タル上訴訟ニ付テノ入費支出方ヲ町會ニ附シ更ニ議決ヲ經タリトノ申立アルカヲハ恣ニ起訴スル者トモ看認メ難シトノ事

右ノ理由ナルヲ以テ控訴人ハ被控訴人ノ請求ニ應スヘシト申渡シタリ

- 一 原判官カ始審裁判ノ當否ヲ判決セザリシハ不當ナリトノ事
- 二 被上告甲第一號證ノ契約ヲ解除スルハ戸長ノ職權ニ屬スルヤ否ノ論點ニ對シ裁判ヲ與ヘザリシハ不當ナリトノ事

三 戸長ハ渡船受負ノ事ニ關シ訴權ナキニ原判官カ有之トサレシハ不當ナリトノ事

四 原判官ハ被上告人ノ精神ハ云々トト筈者ノ如キ想像ノ裁判ヲ與ヘラレシハ不當ナリトノ事

五 乙第六號證アルニモ拘ハラヌ訴訟入費支出方ヲ町會ニ付シ議決シタリトノ被上告人ノ陳述ヲ採用サレシハ不當ナリトノ事

大審院ニ於テ辨明並ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ  
右主點ト上告狀ヲ參照シ之ヲ按スルニ其第一點タル抑モ控訴裁判所ハ事實ノ覆審ヲ爲スヘキ所ニシテ始審裁判ノ當否ヲ判決スルカ如キハ元ヨリ責任外ノモノナル事控訴上告手續第一條ニ依リ判然タリ左スレハ原判官カ其當否ヲ判決セザリシトテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス  
第二點ハ被上告甲第一號證ノ契約ヲ解除スルニ戸長ノ職權ニ屬スルヤ否ノ論點ニ對シ裁判

ヲ與ヘザリシ旨非難スレハ原文ヲ閱スルニ町會ナルモノ、性質ヨリ戸長ハ右甲第一號及ヒ二號證ニ署名スル總代人ノ相續者タル事ト戸長ノ町會ニ於ケル關係等ヲ揭ケテ本案受負ノ事ハ戸長ニ於テ處分權アル旨歴然記載アリテ上告人等ハ無論町會議決ニ服従スヘキノ道理ヲ説明セシモノナリトス左スレハ上告人カ論スル如ク強チ該契約ヲ解除スヘキ主者ノ權タルヤヲ判決セザリシモ固ヨリ破毀ノ因由ト爲スヲ得サルモノトス

第二點ハ前項辨明ニ就キ了解スヘクシテ結局原判官ト意見ヲ異ニスト云フニ過キサレハ以テ破毀ノ材料ト爲スヲ得サルモノトス

第四點ハ原判官カ甲第一二號契約期限ノ已ニ過去タルモノヲ今又解除セント云ノ訴名ノ適當ナラサルニ付始審來ノ訴狀其他書類ヲ援キ且雙方ノ供述ヲ聽キ被上告人ノ供述ニ依リ私擅ニ起訴セシニアラサルヲ認メ被上告人カ請求スル精神ノ在ル所ヲ説明セシニ對シ非難スレハ夫々徵憑理由ヲ掲テ詞訟人ノ意ノアル所ヲ認定スルハ事實判官ノ主權ナレハ敢テ想像ノ裁判ナリト云フヲ得サルモノトス

第五點タル乙第六號證ヲ舉テ云々論スル所アルモ該證ハ本件起訴後ニ成立タルモノナレハ之ヲ以テ破毀ノ因由トナスヲ得サルモノトス

右ノ筋合ナルニ依リ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百五十號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十七年三月五日上告  
全 年十一月十九日申渡)

福島縣岩代國安達郡太田村平



民

上告人

吉田 久藏

東京府京橋區竹川町十九番地

右代言人

大井 憲太郎

東京府麴町區飯田町四丁目二

十番地熊本縣士族

被上告人

中島 惟一

本件ハ貸金催促ノ訴ニシテ被上告者中島惟一ノ起訴ニ係ルモノナリ而シテ其訴旨ヲ要約スレハ甲第三號證ハ梅山松彦ト被上告者トノ貸借ナレハ負債主松彦ハ身代限リヲナシ之カ義務ヲ盡了スル能ハサルヲ以テ上告者ヨリ辨償アラントテ認求シ上告者ハ甲第三號證ノ貸借ハ被上告者ト松彦トノ間ニ止マリ上告者ニ其義務ノ影響ヲ及ホス道理ナシ甲第二號委任狀ハ今日ニ在ツテハ其効力ヲ失シタルモノナリ又甲第二號委任狀カ効力アルモノトセハ梅山松彦カ身代限リノ處分ヲ受ケシ際甲第一號證ノ財産ヲ藏匿セシモノナレハ刑法第三百八十八條ニ抵觸セシ處分ヲ經テ而後ニアラサレハ上告者ヘ義務ヲ及ホス可キモノニアラスト云ニアリ而シテ上告者始審ニ勝テ終審ニ敗レタリ終審裁判ノ要旨左ノ如シ

甲第一號證及ヒ抵當融通ヲ許スノ委任狀ヲ松彦ヘ渡シ松彦ハ該證ヲ原告<sup>被上</sup>告者<sup>者</sup>ヘ差入第三號證ノ契約ヲナシタレハ松彦ハ原告<sup>被上</sup>告者<sup>者</sup>ヘ對シ第一ノ義務者ニシテ被告<sup>上</sup>告者<sup>者</sup>ハ第二ノ義務者ナリ然ルニ第一ノ松彦ハ身代限リノ處分ヲ受ケ其義務ヲ行フ能ハサルニ至リシ上ハ

第二ノ被告<sup>上</sup>告者<sup>者</sup>ニ於テ其抵當ニ負フ所ノ義務ヲ行ハサル可ラサルモノナリト云フニアリ上告者カ終審裁判ヲ不當トシ破毀ヲ求ムル要領左ノ如シ

原裁判所ハ第一ノ義務者ナル梅山松彦ニ於テ身代限リヲ爲サ、ルヤ否ヤノ審問ヲ盡サス被上告者ト松彦ノ隨意ニ爲シ得可キ書面ノミニ信任シテ身代限リヲ爲シタリト速斷セラレタルハ失當ノ審理ナリト云ハサル可カラス」又好シヤ身代限リヲ爲セシヤ否ヤニ至テハ被上告者ト松彦トノ書面ニテ原裁判所カ別ニ審問ヲ爲サ、ルモ可ナリトセン乎身代限ナルモノハ資力限義務ヲ盡シタルヲ云フモノナレハ上告者ニ於テ未タ資力ノ存スルアルヲ仲供セル以上ハ之カ審問ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ毫モ之ヲ審理セラレス身代限ヲ爲シタリト云フ一點ニ偏倚セラレテ上告者ニ義務ヲ負ハシメタルハ失當ナリト思惟ストノ事」

一原裁判所ハ法理ヲ顧ミスシテ甲第二號證ノ効力ヲ誤認シ上告者ヲ目シテ甲第三號證ノ第二義務者ト爲シタル者ナリトシ明治十七年十月廿日左ノ上告要領追加書ヲ提出セリ

第一 甲第二號證ヲ以テ假リニ上告者ノ承諾ニ出タル者ト爲ルモ上告者ハ甲第三號證ノ第二義務者ニ非ス請フ其理由ヲ辨セン抑甲第一號證ノ抵當タル地所ヲ以テ再ヒ之ヲ他ニ抵當ト爲サシムルヲ梅山松彦ニ委任スル爲メニ甲第二號證ヲ同人ヘ交付セシ者ニ非サルヲハ前訴ノ裁判ニテ既ニ確定シ一種ノ約束書トナリテ尋常使用融通ヲ許セシ者ト異ナリ甲第一號證ト消長ヲ共ニスル者ナリ而シテ其一種ノ約束ナルヲハ被上告者ニ於テ甲第二號證ヲ受取ル當時已ニ該證ノ明文ニ就テ知悉スル所ナリ左レハ甲第一號證成



立セサル手若クハ消滅スレハ甲第二號證モ消滅スヘキ者ナルヲ以テ甲第一號證成立セサル上ハ上告者ニ於テ甲第三號證ノ第二義務者ト爲スヲ得ス

第二 甲第一號證成立タリトスルモ松彦ニ於テ該證ノ權利ヲ被上告者ニ移スノ法式ヲ行フタル者ニ非サルヲ以テ被上告者ニ對シ義務ヲ盡スヲ要セサルノミナラス甲第三號證ハ上告者ノ與知セサル者ナレハ該證ノ爲メニ第二ノ義務者ト爲ルノ理ナシ

第三 上告者ニ於テ甲第二號證ヲ認メタリトスルモ不動産書入質入ノ法式ニ循フニ非サレハ其効ナキヲ以テ松彦ニ於テ第一號證ノ抵當地ヲ以テ第三號證ノ抵當物トスルモ甲第二號證ハ其効ナキモノナリ又甲第三號證ニ甲第一號證ヲ添テ抵當ト爲スモ法式ヲ履行セル代用ト爲スヲ得サルノミナラス證書ヲ抵當ト爲シ若クハ讓渡スヲ得サルヲ以テ甲第三號證ニ對シ第二ノ義務者ト爲ルノ理ナシトノ事  
本院ニ於テ辨明及ヒ判決ヲ與フル左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ上告要領ノ如ク申立ルニヨリ之ヲ審案スルニ被上告第四號證ハ管轄裁判所ニ於テ梅山松彦ハ先キニ身代限ノ處分ヲ受ケテ未タ身代持直ヲ爲サ、ル事實ヲ認メ其願下ヲ聞届ケタル者ナレハ之ヲ以テ被上告者ト松彦ノ間ニ成立セシ隨意ノ私書ナリト云フヲ得ヘカラス左レハ之ヲ以テ材料トシタル原裁判ハ失當ノ審理ト爲スヲ得サルモノトス但上告者ハ原裁判官ニ對シ梅山松彦ハ一度身代限ノ處分ヲ受クルモ尙ホ本訴ノ義務ヲ盡了スルニ足ルヘキ資力アリト云タル如ク論告スレハ原書類中右ノ如キ陳辨ヲ爲タリト見ルヘキモノコ

レナキニヨリ本院ニ於テ監査スヘキ限ニアラストス如何トナレハ原書類中ニ見ヘサル論辨ハ原裁判所審理中申立サルモノト見ルノ外コレナキヲ以テナリ

上告追加第一二三項ヲ按スルニ甲第二號證ハ前訴ノ裁判ニ於テ重典賣ノ委任狀ニ非スト確定シタルマテニテ該證ノ明文タル「梅山松彦ヨリ金百圓甲第一號ノ借用致候ニ付右期限中同氏指スヨリ都合ニ依リ該抵當即チ甲第一號證ニ抵當ヲ以テ他ヨリ金融スヘキ件トアル條件ヲ無効ニ歸セシメタルニ非ス左レハ松彦カ右ノ約旨ニ基キ甲第三號證ノ如ク被上告者ヨリ金圓ヲ借受タル未甲第四號證ノ如ク返金スルヲ能ハサル場合ニ至リシキハ上告者カ其金融セシムヘキヲ許諾シタル物件即甲第一號證ノ地所ヲ以テ義務ヲ行ハサルヘカラサルハ條理上當然ノ事柄ナルヘシ然ルニ原判文中上告者ヲ以テ第二義務者ト掲載シタルハ聊カ穩當ナラサル場合ナキニ非ラスト雖モ仔細ニ其精神ヲ探究スルキハ實際第二義務ヲ負セタルニアラスシテ抵當物ヲ以テ義務ヲ行ハシムルニ止マル主意ナルト被上告者ノ控訴狀ニ「更ニ該抵當物件ニ向テ之ヲ受領セントスル」トアルヲ判文冒頭ニ掲記シテ之ヲ認可シ結局ニ至リ「其抵當ニ負フ所ノ義務ヲ行ハサル可カラサルノ時ニ際セシモノトス」ト言渡タルニテ明ラカレハ右精神ハ實ニ上文記載ノ條理ニ基ツキタルモノナルヲ以テ甲第一號證成立及法式履行等ノ如何ニ拘ハリ之ヲ不法トスヘキモノニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ヲ受理セサルモノ也

○第五百五十一號



波須村地内五名筋地々券證面名義登記差拒一件上告ノ判文(明治十六年十月十九日上告  
同十七年十一月廿日申渡)

七六

岐阜縣美濃國安八郡澤渡村二  
番地平民當時同郡大垣新町新  
地寄留

上告人

子安 丈平

同縣同國同郡澤渡村一番地平  
民宮脇捨吉後見人同村一番地  
平民

上告人

子安 理一

上告人

同縣同國同郡同村一番地平民  
宮脇源四郎

上告人

同縣同國同郡同村二番地平民  
宮脇治郎七

東京府京橋區桶町二十二番地  
寄留福井縣士族

右代言人

中島 又五郎

岐阜縣美濃國安八郡澤渡村一  
番地平民亡宮脇五百次相續人

被上告人

宮脇エイ後見人同村平民

宮脇 茂之助

東京府下谷區二長町四十八番  
地主族

右代言人

高橋 重藏

上告ノ要領

一 本訴論地則筋地ハ共有地ナリヤ將々一己人ノ所有地ナルヤヲ検査スルニハ其原因ヲ  
探知セサルヘカラス上告第一號證ニハ(澤渡村先々丈次郎儀波須村ニテ引得高六拾七  
石貳斗壹升貳合近親ノモノヘ配分筋御田地云々右ノ御田地ニ於テハ先祖厚恩無忘却雙  
方立會永續可仕候云々)トアリ之レ入額所得米ハ此筋地即チ共有地ニ起因スル理由ヲ  
證明スヘシ故ニ上告者カ該證ヲ提供セシ精神ハ論地カ共有地タルノ證左ト爲シタルモ  
ノニシテ共有權ヲ争ヒタル時成立タル證據ナリト陳供セシトナシ然ルニ原裁判所ハ(原  
被告第一號證成り立ノ精神ハ土地ノ共有權ヲ争ヒ成立タル證據ニ非スシテ皆之レ歩米  
即入額所得米割賦淹滞ニ事始リ其歩米ヲ割渡スニ事終ルモノナレハナリ)ト判決セラ  
レタルハ聽斷ノ定規ニ乖クノミナラス所得米ノ一點ニノミ固着シテ筋地ノ原理ヲ審明  
セラレサル不當ノ裁判ナリ

且夫レ證據ナルモノハ如何ナル用ニ供スル爲メ調製セシモノト雖モ或ル事柄ヲ證明ス  
ルノ能力アル以上ハ決シテ證據タルノ効力ヲ妨ケサルモノナリ然ラハ上告第一號證ハ

七七



假令歩米淹滞ヨリ成立タルニモセヨ既ニ上告被上告者ノ承諾上ヨリ成立互ニ之ヲ認テ以テ調印セシモノナレハ該證中ニ記載セシ事柄ハ決シテ動カスヘカラサルモノナリ況ンヤ該證ハ上告被上告者爭論ノ未調製セシモノナレハ注意ニ注意ヲ加ヘ苟モ事實ナキ事柄ヲ記載スルカ如キ輕忽ナル場合ニ成立タルモノニアラサルニ於テヲヤ又況ンヤ論地ハ上告第廿八號證ニ拔書セシ如ク各證據書類中被告者カ明認シテ五名舫地或ハ舫御田地トアルニ於テヲヤ既ニ上告第一號證ニ(澤渡村先々丈次郎儀波須村ニテ引得高六拾七石貳斗壹升貳合近親ノモノヘ配分舫御田地云々近親ノモノ爲永續配分地ノ譯柄云々)トアリテ共有地ナルコト明ナル而已ナラス被告者ニ於テ論地ハ上告被上告者カ祖先丈次郎ヨリ遺傳セシモノト申立ハ上告者ト同フシナカラ之レカ所有權ヲ自分一人ニ付與セラレタルモノナリトノ舉證ヲ爲ス能ハサルニモ拘ハラヌ原裁判所カ上告第一號證ハ歩米ノ爲メ調製セシモノナレハ假令如何ナルコトヲ明記スルモ所有權爭論ニハ効用ナキモノ、如ク辨明セラレタルハ不條理ト云フヘシ是レ上告者カ不法トスル所ナリ

二 被告第四號證ハ宮脇捨吉ノ祖先丈次郎カ其子孫上告者四名被上告者一名被上告者一號證アルニモ拘ハラヌ五十餘年前ノ事ヲ調査セス且其原理ヲモ推究セス里正ヘ乞フテ奥書ヲ爲サシメタルモノナレハ正實ノモノニ非ス被告第六號證ハ論地カ被告者ノ所有タル證據ノ端緒ニモナラサルノミナラス反テ共有ノ證據トナルヘキモノナリ抑被上告者カ自己ノ利益トスル所ハ該證中(過地子米ノ分精算相立則今後約定證券差遣シ尤支配人ヨリ過地子米分配相渡可申答ニテ云々)トアル一旬ナリ然レモ該證ハ上告者ノ一人宮脇治郎七ノ先代治太夫ヨリ被告者ニ係ル德米勘定請求ノ詞訟ノ濟口證ナレハ過地子米ノ事ヲ記スルハ當然ノ事ニシテ敢テ怪シムニ足ラス然リ而シテ該證ノ上文ニ「波須村地内五名舫地ノ分云々」トアリ若シ論地カ被告上告者申立ノ如ク共有ニアラザリセハ何ソ此ノ如キ舫地ノ文字ヲ明記スル謂レアラヤ是レ論地ハ上告被上告者ノ共有地タルコトヲ證スルニ足レリ被告第十一號證同第十一號ノ一二證ハ上告者ノ一人子安丈平カ論地ヲ換地ニ爲サントセシト書面ニシテ其第十一號證ニハ「貴殿外四名都合五名舫地云々右仲間ヨリ換地一件故障申出御出訴ニ相成候節ハ全貴殿御勘辨ヲ以テ御承知被下候段拙者共罷出可申開キハ勿論右費用等引受屹度出金可申云々」トアリ其第十一號ノ一證ニハ「尤後日仲間ヨリ換地ノ故障申出若御出訴等有之候而ハ不都合ニ付右請合證券各方ヨリ被差入度趣ニ付各方迄請合證券差出候ハ、云々」トアリ其第十一號ノ二證ニハ論地ノ合反別ヲ記シタル下ニ「波須村ノ内宮脇五百次外四人」トアリ其末文ニモ「然ル上ハ五名舫地云々」トアリテ論地カ共有ナルコト明白ナリ若シモ論地カ被告上告者ノ所有ナリセハ仲間即チ上告者等ノ故障ヲ恐ルヘキ筈ナキ而已ナラス五名舫地杯ト明記スル道理ナシ被告第十二號乃至第廿號證ハ明治五年ヨリ明治十四年迄被告者カ公租村費ヲ納付セシ證據ナリト雖モ這ハ明治五年以降共有地名代人ノ資格ナリト上告者等カ思慮シ居リシモノナレハ被告上告者カ行爲タル地券證名受ノ不正ヲ審明セハ實ニ不條理ノ甚シキモノニテ採ルヘキモノニ非ス既ニ明治五年迄ハ上告人ノ内子安丈平ノ先代丈平カ論地ヲ擔任セシ證左ハ上告一號證五號乃至十號證并ニ十六號



乃至廿二號證ニ明了タリ此丈平カ擔任セシ資格ト被上告者カ現今迄擔任スル資格ハ同一ノモノナリ被上告第廿二號乃至五十一號證ハ上告者ノ内宮脇捨吉ノ祖先丈次郎カ地所買得ノ證ニシテ被上告者カ此證ヲ所持スルヲ以テ我カ所有地ト附會スレトモ祖先丈次郎カ上告第一號證ノ如ク波須村ノ地所ヲ舩地ト稱シ近親ノモノヘ永代附與セシ證據ニ照セハ何ノ効用モナキモノナリ被上告第五十二號證ハ舩地主五名ノ内被上告者一名ノ名義ヲ以テ專斷シタル不正ノ證タリ上告第一號證ハ既ニ前項ニ辯明スルカ如シ上告第一號證ノ附録一二號ハ宮脇治郎七ノ先代治太夫カ舩地德米ノ事ニ關シタル證ナレトモ其證中ニ「地所賣拂候節ハ一應貴殿ヘモ可及沙汰候」トアリ是舩地タル證言ニシテ專斷ニ爲スヘカラサルモノナリ上告第五號證ハ上告者ノ内子安丈平先代丈平カ舩地ヲ進退シ居リタル證左ニシテ單ニ得米ノ勘定ノミニ非ス其文中「子安丈平進退罷在候」トアレハ反テ論地ハ舩地ニシテ被上告者カ所有地ニ非サルヲ證スヘシ上告第廿二號證ハ「波須村舩地」トアリテ德米ノ舩ニ非ラス上告第廿六號證ハ舩地德米請求ノ訴ヲ大垣治安裁判所ヘ上告者ノ内宮脇捨吉ヨリ被上告者ヘ係リ出訴シタルキノ裁判書ニシテ此確定シタル判文ニ第一項辯明ノ通トアルハ舩地ノ共有地タル事實ヲ證明スヘシ上告番外第四號證ハ上告者ノ内子安丈平ト被上告者ノ間ニ波須村舩地ヲ秘密ニ交換セシ證ニシテ本訴ニ關セサルモノナレトモ此契約書ニ「五名舩地」トアリ又「宮脇五百次外四人」トアリ是レ德米ノ事ニ非ス被上告者カ舩地ト認メ居ル事實ヲ證スヘシ

然ルニ原裁判所カ(假令字面ノ舩則「モヤイ」トアレハ逆事實ニ乖戾シタル言詞ヲ以テ

論地ヲ共有ナリトハ漫ニ定メカマシ何トナレハ論地カ舩御田地又ハ舩地ト所々ニ散見スルモ其實入額所德米之舩即「モヤイ」ナルコトハ原告第一號證即被告第一號證及ヒ原告第四第六第十一第十一ノ一二第十二乃至第廿第廿二乃至第五十二被告カ第一號附録ノ一二又ハ第一號證ノ意味ヲ履踐シタル第五號並ニ第廿三第廿六番外第四號證等ノ主旨ヲ翫味スレハ之レ悉ナ其所得米分割ノ事ニ止ルコトヲ被告カ明認シアルト中論地ノ附着義務ハ原告一人カ納メ來リシ云々ト判決シ舩地則チ共有地ノ性質ヲ爭フ點ニ對シテ舩地ニ附從セシ德米ノ事ニノミ證據ヲ引證セラレタルハ證據ノ取捨其本末ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリ

三 上告第廿四號證第二項ニ(安八郡波須村地内ニ被告人等ト共有ノ地アリ該地ハ原告人ノ擔當支配スル所ニシテ云々)トアリ是レ被上告者カ舩地ハ共有地タルコト自分カ舩地ヲ支配ナシ居ルコトヲ明白セシモノニシテ波須村舩地即チ論地ハ共有地タルノ明證ナリ若シ舩地トハ所得米ノ舩ノコトトセハ舩地トアル字義ノ地ヲ削リ舩ノ一字ヲ所得米ヘ冠ラセン手之レ無用ノ文字ナリ何トナレハ既ニ所得米ニハ割賦法アリテ入額ノ確定セシモノナレハナリ抑舩地ハ波須村ニ於テ百十九筆ノ多ニ分地スルモ惣稱シテ舩地トス之レ字面ニヨラス事實ニ於テモ「モヤイ」トハ舩地ノコトニシテ「德米ノ舩」ト云フヘカラス然ルニ原裁判所カ上告第廿四號證ノ如ク被上告者カ舩地ハ共有地ナリトノ合意ノ明證アルヲ差置キ(論地カ土地ノ共有ニ非スシテ所得米ノ「モヤイ」ナルコトヲ充分ニ推知スルニ足レハナリ然レハ則被告カ單ニ字面ノミニ拘泥シタル論旨ハ採ルニ由シナ



ケレハ云々ト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリ

四 前數項ニ陳述セシ如ク原裁判ノ不法ナルハ甚々顯明ナリト雖モ論者或ハ謂ハン汝カ述ル所ハ原裁判官カ權内ナル探證若クハ認定ノ不當ヲ鳴ラスニ止リ背法ノ點ヲ明示セサレハ破毀ノ原因ナキモノナリト蓋シ論者ハ其一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサル者ナリ夫レ我民事ニ關スル法律ハ幾許カアル實ニ指ヲ屈シテ數フルニ過キサル者ナリ若論者ノ如ク成文法ニ背馳セシモノニ非サレハ破毀スヘキ限リニ在ラストセハ破毀スルノ事件ナキニ至ルヘシ夫レ法律不備ノ國ニ在テハ宜シク條理ヲ推テ以テ裁判ノ規矩トセサルヘカラス是則明治八年第百三號布告第三條ノ命令スル所タリ故ニ我國ニ在テハ條理ハ成文法ヲ代用スルモノニシテ條理ニ反スレハ之ヲ不法トセサル可ラス論者ハ事實承審官ノ認定セシ事柄ハ如何ナル事ト雖モ之ヲ不法ト爲サハル歟又如何ナル探證ヲ爲スモ之ヲ不法ト謂ハサル歟論者ト雖モ恐ク然リトハ言フ能ハサルヘシ本按上告事件ノ如キハ前數項ニ論辨スル如ク條理ニ背馳シテ認定探證ヲ爲シタルモノナレハ則不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノト信認スルトノ事

大審院ニ於テ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判所カ本案ノ事實ナリトシテ採用セシ證據ハ上告被上告第一號被上告第四號第六號第十一號第十一號ノ一、二第十二號乃至第廿號第廿二號乃至第五十二號上告第一號附録ノ一、二第五號第廿三號第廿六號及番外第四號證ナリ而シテ是等ノ證據ヲ以テ論地ハ土地ノ共有ニアラスシテ所得米ノ舩ナリト判定セシ理由ハ左ノ如シ

第一 所得米分割ノ事ニ止マルヲ上告者カ明認セリトノ事

第二 論地ハ被上告者先代亡丈次郎ヨリ被上告者先代亡五百次カ繼襲シ來タルヲ里正カ保證セリトノ事

第三 明治九年中論地ノ内ヲ被上告者先代亡五百次ト上告者ノ内子安丈平ト交換セシニ他ノ上告者等ハ其際一言ノ異議ヲ唱ヘス其爲ス所ニ放任セシトノ事

第四 論地ノ附着義務ハ被上告者壹人カ納メ來リシトノ事

第五 明治五年地券發行ノ際被上告者一人ノ名義ニテ論地ノ地券ヲ受ケタルニ上告者等ハ今日迄黙過シ來タルトノ事

右第一ノ理由ヲ按スルニ上告被上告第一號被上告第六號上告第五號及其第廿三號證ハ何レモ所得米分割ノ事柄ニ關シ成立タルモノナルモ上告被上告第一號證ニハ近親ノモノ江配分舩御田地云々近親ノモノ爲永續配分地之譯柄云々被上告第六號證ニハ波須村地内五名舩地之分云々上告第五號證ニハ波須村御高辻之内高六拾七石餘舩御地面云々上告第廿三號證ニハ安八郡波須村舩地云々トアルヲ視レハ上告者カ所得米分割ニ止マルヲ明認シタルモノト云フヲ得ヘカラスシテ却テ論地カ上告者被上告者ノ共有地ナルヲ證スルニ足ル

右第二ノ理由ヲ按スルニ被上告第四號證ニ前書役場帳寫ノ通天保二年中官脇丈次郎所有ノ處同翌三年ニ至リ同人ヨリ相續人宮脇五百次ニ付與相成タル儀相違無之事云々トアル限リハ論地ハ被上告者一己ノ所有地ナルカ如シト雖モ前後ノ證據ニ照セハ論地ハ上告者被上告者ノ共有地ナルヲ認ムルニ足ル左レハ被上告第四號證ハ未タ論地カ被上告者一己ノ所有



地ナルコトヲ證スルノ確證トハ云フヲ得ヘカラス

右第三ノ理由ヲ按スルニ被上告第十一號證及第十一號ノ一二證ニ據レハ明治九年中被上告者先代亡五百次ト上告者ノ内子安丈平ト論地ノ内ヲ交換セシモノ、如キモ其第十一號證ニ貴殿外四人都合五名舩地ト相唱エ候分ト貴殿丈平兩人舩地ト換地之義御頼申入候處先般右仲間内治郎七ヨリ不慮ノ御出訴申上御裁判ノ向モ有之容易ニ難出來候得共云々万一右仲間ヨリ換地一件故障申出御出訴ニ相成候節ハ云々其第十一號ノ一證ニ五百次外四人都合五名舩地ト相唱エ候分ト五百次丈平兩人舩地ノ分ト換地ノ義云々先般右仲間内治郎七ヨリ不慮之御出訴申上御裁判之向モ有之容易ニ難出來候得共云々尤後日仲間ヨリ換地ノ故障申出若御出訴等有之候テハ不都合ニ付云々其第十一號ノ二證ニ五名舩地一合反別五町三反五畝廿二步波須村ノ内宮脇五百次外四名云々トアリテ上告者ノ内宮脇治郎七ニ於テ其換地ノ義ニ付故障ヲ唱ヘタルコトアル而已ナラス五百次丈平ニ於テ仲間即チ上告者等カ故障ヲ唱ヘンコト憂慮シタルカ如キ文詞アリ又舩地云々ノ文詞アルヲ視レハ論地カ上告者被上告者ノ共有地ナルコトヲ證スルニ足ル

右第四ノ理由ヲ按スルニ被上告第十二號乃至第廿二號證ニ據レハ明治五年以來被上告者カ論地ノ賃租ヲ上納セシコトヲ證スルニ足ルモ這ハ畢竟被上告者カ地券ヲ受ケタルニ起因スルモノナル而已ナラス上告第十六號乃至第廿二號證ニ據レハ嘉永元年ヨリ慶應二年迄上告者ノ内子安丈平ニ於テ論地ヲ支配セシモノ、如シ且其他前後ノ證憑ニ照セハ被上告第十二號乃至第廿二號證ハ未タ論地カ被上告者一己ノ所有地ナリト斷定スルノ確證ト爲スニ足ラス

右第五ノ理由ヲ按スルニ被上告第五十二號證ニ據レハ被上告者ノヨノ名義ニテ地券ノ下付ヲ受ケタルコトヲ證スルニ足リテ論地ハ被上告者一己ノ所有ナルカ如シト雖モ前後ノ證憑ニ照セハ其實論地ハ上告者被上告者ノ共有地ナルコトヲ認ムルニ足ル左レハ被上告第五十二號證ハ未タ論地カ被上告者一己ノ所有地ナリト斷定スルノ確證ト爲スニ足ラス

以上ノ理由アル而已ナラス上告第廿四號證ハ德米請求ノ訴件ニ對シ本案被上告者ノ先代即チ亡宮脇五百次代人馬淵松太郎カ明治十六年二月廿七日大垣治安裁判所ヘ提供セシ辨駁書ニシテ其第二項ニ安八郡波須村地内ニ被告<sup>本案上</sup>人等<sup>被告等</sup>ト共有ノ地アリ該地ハ原告<sup>被上</sup>人<sup>被告</sup>等<sup>被告</sup>ノ擔當支配スル所ニシテ云々トアルヲ視レハ被上告者カ本案論地ハ上告者被上告者ノ共有地ナルコトヲ認メタルコト明カナリ然ルニ原裁判所ハ是等ノ理由ヲ顧ミテ前ニ列記セシ第一乃至第五ノ理由而已ヲ以テ論地ハ土地ノ共有ニアラスシテ所得米ノ舩ナリト判定シ上告者ノ請求ヲ斥ケタルハ未タ審理ヲ盡サス事實認定ノ理由ノ備ハラサル不當ノ裁判ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ名古屋控訴裁判所カ本案ニ對シ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受ケシメンカ爲メ大坂控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百五十二號

妻引戻及送籍請求一件上告ノ判文

（明治十七年八月二日上告  
全 年十一月廿二日申渡）

東京府淺草區材木町七番地平

民



上告人

八六  
清水直常

同府日本橋區小傳馬町二丁目  
九番地平民

被上告人

中村治郎吉

右治郎吉四女

被上告人

中村クメ

本件ハ上告人ノ起訴ニシテ始審ニ於テ勝訴シタルモ終審ニ敗訴シ該裁判ヲ不法トシテ上告スル者ナリ其訴答ヲ要約スルニ上告人ハ明治十六年二月中齋藤シケノ媒妁ヲ以テ被上告人中村治郎吉四女クメヲ上告人ノ妻ニ娶ルノ示談相整結納ノ式ヲ行ヒ乃クメヲ引取り婚姻ヲ遂ケタリ其後治郎吉方ヨリ屢クメヲ招カレタルヲアレヒ上告人病氣ノ爲メ之ヲ辭セシメタルヲ治郎吉ニ於テ辭柄トシ突然媒妁人ヲ以テ離婚申來ルニ付乃クメト相謀リ辨解ノ爲メクメヲ治郎吉方ヘ遣ハシタル處治郎吉ハクメヲ抑留シテ販サヌ剩サヘクメノ荷物ヲ引渡スヘキトノ掛合ヲ爲スト雖モ素ヨリ上告人ハクメヲ離別スヘキ理由ナキヲ以テ乃クメヲ引戻シ且送籍ヲ請求セント訴フルモノナリ被上告人ノ答旨ハ上告人ヨリノ懇請ニ因リクメヲ上告人ニ嫁セシムルヲ同意シタルモ本人クメ不同意ナルヨリ上告人ノ行狀ヲ見届ル爲メクメヲ上告人方ヘ客分ニ遣ハシ置タルモ未タ婚姻ヲ許シタルニアラス而シテクメハ到底上告人ノ妻トナルノ意ナク明治十六年九月十四日被上告方ヘ逃歸リタルヨリ竟ニ縁談ヲ謝絶シタルモノニシテクメハ未タ上告人ノ妻ニアラサルヲ以テ上

告人ノ要求ニ應シ難キ旨抗拒シ且クメノ荷物ハ被上告人方ヘ引戻サント反訴スルモノナリ東京控訴裁判所カ與ヘタル終審裁判ノ要旨左ノ如シ

被控訴人即上告人ニ於テ其證トスル甲第一二號證ハ控訴人即被上告人之ヲ認メス勿論治郎吉ノ筆跡ニ非ス且島田シケカ申立ニ因レハ治郎吉ニ於テ縁組承諾ヲ爲シタルハ婚姻

ノ式ハ五六月頃之ヲ執行スヘク先以テ留守居トシテ差遣シ置クヘク申スニ付其意ニ任セ被控訴人方ヘ同伴セシマテニテ甲第一二號證ノ如キハ之ヲ知ラス其後遂ニ婚姻ノ式ヲ執行シタルヲナカリシトノ趣ナリ而シテ明治十六年二月以來クメカ實家ヘ立戻リタル九月ニ至ルマテ其送籍ヲ爲サハルヲ見レハ當時婚姻ノ式ヲ執行シタル者ト見做シカタシ如何トナレハ果シテ婚姻ノ式ヲ執行シタル者ナランニハ明治八年太政官第百九號達ニ因リ速カニ戸籍登記ノ手續ヲ爲スヘキ筈ナレハナリ然ルニ其手續ヲ爲サハル者ナルニ付假令一旦縁組ノ熟談アリテクメハ數月間直常方ニ同居シタルニモセヨ又クメハ當時衣類其他ノ器具ヲ携帶シタルニモセヨ未タ結婚ノ効ヲ有セサル者ト被控訴人ハ明治十年司法省丁第四十六號達ニ因リ結婚ノ効有リトシ送籍ヲ求ムル權アル旨申立レ該達ハ男女ノ間及ヒ其親族ニ於テ紛議アル本案ノ如キ場合ニ適用セラレサルモノトストノ事右ニ對スル上告ノ要旨ハ左ノ如シ

原判文ニ曰(明治十六年二月以來クメカ實家ヘ立戻リタル九月ニ至ルマテ其送籍ヲ爲サハルヲ見レハ當時婚姻ノ式ヲ執行シタルモノト見做シ難シ如何トナレハ果シテ婚姻ノ式ヲ執行シタルモノナランニハ明治八年太政官第百九號達ニ因リ速ニ戸籍登記ノ手續



ヲ爲スヘキ筈ナレハナリ然ルニ其手續ヲ爲サ、ル者ニ付假令一旦縁組ノ熟談アリテ「クメ」ハ數月間直常方ニ同居シタルニモセヨ又「クメ」ハ當時衣類其他ノ器具ヲ携帶シタルニモセヨ未ダ結婚ノ効ヲ有セサル者トス」トノ判決ハ明治八年太政官第二百九號ノ達ト如何トナレハ該二百九號達ハ婚姻養子女ノ取組若クハ其離婚離縁假令相對熟談ノ上タリ且雙方ノ戶籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做スヘク云々ナレハ我國古來婚姻養子女等ノ取組ニ付成文ノ法律アルナク習慣習ニ依リ執行シ來リタルヲ始テ此二百九號達アリ爾來其實事如何ニ依ラス該達ノ真意アル所ヲ適用スル能ハス誤解シ戶籍ニ登記セサレハ假令婚姻ノ式ヲ執行スルモ夫婦ト公認セサルカ故ニ頗ル弊害不尠ニ付明治十年ニ至リ司法省丁第四十六號達ヲ以テ送籍ナキモ親族近隣ノ者夫婦若クハ養父子ト認メタルハ云々ノ諭達ニテ二百九號ノ達ヲ匡正セシモノナルヘシ果シテ然ルトキハ被上告人中村「クメ」ノ如キハ結納ノ取換ヲ爲シ婚姻ノ契約已ニ調ヒ數月間上告人方ニ同居致シ居實際上公衆ノ認メテ以テ夫婦トナス所ナリ然ルヲ控訴廳ニ於テ媒妁人島田「シケ」カ不實ノ申供ヲ主任官ニ於テ審理ヲ盡サス片言ヲ信シ輒ク臆測ヲ以テ當時婚姻ノ式ヲ執行シタルモノト見做シカタシト言渡サレシハ法律ニ違フ裁判ト云フ所以ナリトノ事

本院ニ於テ辯明判決ヲ與フル左ノ如シ

上告人ニ於テ原裁判ハ明治八年第二百九號達及ヒ明治十年司法省丁第四十六號達ノ適用ヲ誤リタル違法ノ裁判ナリト陳述スレハ右丁第四十六號達ハ事實既ニ婚姻ヲ行ヒ親屬隣里モ

之ヲ認許スルモ獨リ戶籍ノ登記ヲ欠キタル者ニ限り謀殺及犯姦等ノ處分上ニ付示シタルモノニシテ本按ノ如キ一旦縁組ノ熟談アリテ數月間同居シ荷物ヲ携帶シタル等ノ形ヨリ之ヲ觀レハ婚姻ヲ行フタルニ似タルアリト雖モ甲第一二號證ハ被上告人之ヲ看認メス島田「シケ」カ申供ニモ婚姻ノ式ヲ執行シタルヲナシトノ申立アリ且數月間送籍ヲモ爲サ、ル等音ニ其戶籍ノ登記ヲ欠クノミナラス抑モ婚姻ノ式ヲ執行シタルノ事實明瞭ナラサレハ該二百九號達ヲ適用シタルハ至當ノ裁判ナリトス而シテ上告人ハ原判官カ島田「シケ」ノ不實ノ申供ヲ信シ審理ヲ盡サス臆測ヲ以テ輒ク婚姻ノ式ヲ執行シタルモノト看做シ難シト言渡シタルハ不法ナリト云ト雖モ其言渡ノ理由ハ島田「シケ」ノ申供ト甲第一二號證ヲ被上告人ニ於テ看認メサルト數月間送籍ヲモ爲サ、リシトノ三箇ヨリ來リタルモノニシテ原判官カ獨リ島田「シケ」ノ申供ヲ偏信シタルト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ヲ受理セサル者也

○第五百五十三號

損害要償一件上告ノ判文(明治十七年七月卅一日上告  
年十一月廿四日申渡)

秋田縣羽後國仙北郡長野村平  
民佐々木與助代官人  
東京府神田區駿河臺西紅梅町  
十五番地寄留秋田縣士族

上告人

野出 鎬三郎



秋田縣羽後國仙北郡鍵見内村  
平民

被上告人

岩田 豊松

全縣全國全郡全村平民

被上告人

鈴木與左衛門

全縣全國全郡全村平民

被上告人

小松 平藏

全縣全國全郡全村平民

被上告人

岩田長兵衛

全縣全國全郡全村平民

被上告人

鈴木吉右衛門

全縣全國全郡全村平民

被上告人

戸島長之助

全縣全國全郡全村平民

被上告人

藤原東左衛門

全縣全國全郡全村平民

被上告人

三浦市太郎

全縣全國全郡全村平民

被上告人

全縣全國全郡全村平民

小杉市兵衛

被上告人

全縣全國全郡全村平民

鈴木兵之助

被上告人

全縣全國全郡全村平民

鈴木六右衛門

被上告人

全縣全國全郡全村平民

佐々木勇吉

被上告人

全縣全國全郡全村平民

小杉三郎兵衛

被上告人

全縣全國全郡全村平民

佐々木與右衛門

被上告人

全縣全國全郡全村平民

竹内 金藏

被上告人

三浦 儀助

本件ハ被上告人ノ起訴ニ係リ而シテ其訴旨ハ被上告甲第一號證ノ契約アルヲ以テ仙北郡長  
野村ト協議ノ末鑑札ヲ製シ之ヲ携ヘ字茨島秣場ニ於テ秣刈取り來リシ處明治十六年七月廿  
四日被上告人<sup>上告</sup>カ如何ナル點ヨリシテカ警察署ニ告訴ヲ爲シ爲メニ警官ノ取調ニ係リ二十日



間入山ヲ差止メラレタルモ終ニ其告訴ハ棄却セラレ爰ニ於テ被告人<sup>上告</sup>カ所爲ノ重キ過失ニ出タルヲ知リ本訴<sup>被告</sup>第二號證ノ如ク損害金百拾貳圓拾錢ヲ要求セント秋田始審裁判所大曲支廳へ訴へ而シテ審理中請求ノ金額ヲ五拾九圓五拾三錢ニ減少シタルモノナリ

上告人答辨ノ要旨ハ原告<sup>被告</sup>等カ秣刈取ノ期日ハ年々被告<sup>上告</sup>村方ニテ之ヲ定メ通知シタル上ニアラサレハ刈取得ヘキモノニアラス然ルヲ原告<sup>被告</sup>等ハ明治十六年七月廿四日未タ被告<sup>上告</sup>村ヨリ其通知ヲナサヘルニ擅ニ秣刈取リタルヲ以テ告訴シタルモノナレハ爲メニ生シタル損害ヲ償フノ責ナシト抗辨シタリ

上告人ハ始審ニ於テ敗訴シ控訴ニ及ヒタルモ棄却セラレタルヲ以テ之ヲ上告スルモノナリ  
宮城控訴裁判所ノ判決ハ左ノ如シ

本訴ハ秋田始審裁判所大曲支廳ニ於テ審理中被告<sup>被告</sup>之ニ同シ以下ヨリ要償ノ金額ヲ五拾九圓五拾三錢ニ減シ請求シタルモノナレハ明治十四年第八十三號公布第二條ニ依リ治安裁判所ノ裁判ヲ受ケ之ニ不服アレハ其第五條ニ照シ始審裁判所即チ大曲支廳ニ之ヲ控訴スヘキ訴訟ナリトス然ルニ本訴ハ其控訴ヲ受クヘキ始審裁判所ニ於テ直チニ之ヲ受理シ裁判ヲ與ヘタルモノニシテ其裁判ハ終審ノ裁判ナレハ再ヒ裁判ヲ爲スヘキモノニアラストス原告<sup>上告</sup>人<sup>以下</sup>ニ於テハ被告<sup>被告</sup>カ大曲支廳ニ出訴ノ後其要償金額ヲ五拾九圓五拾三錢ニ引直シ請求シタルヲ原告<sup>被告</sup>ニ示サレタルヲナク且大曲支廳カ初メ訴訟ヲ受理スルヤ百圓以上ノ事件ニシテ其裁判用紙モ百圓以上ノ野紙ヲ用ラレ裁判管轄ヲ變更シタルノ成蹟ナキヲ以テ大曲支廳ノ裁判ハ始審ニシテ終審ニ非スト陳述スレト明治十四年第八十三號公布第

二條第五條ノ管轄ハ裁判所權限ニ關スルヲ以テ對手人カ故障ノ有無ニ拘ハルモノニアラサルニヨリ被告<sup>被告</sup>カ請求金額ノ引直願ヲ原告<sup>被告</sup>ニ示サ、リシ點ヲ以テ之ヲ始審裁判ト爲シ當裁判所ニ於テ之ヲ受理スヘキモノニアラス如何トナレハ被告<sup>被告</sup>カ請求金額ノ引直願ヲ示ササリシハ效果只二個ノ階級ヲ經ル能ハサルノミニ止リ終審裁判ヲ受クヘキ裁判所ヲ變更スルモノニアラサレハナリ又該公布第二條第五條ノ管轄タルヤ現ニ請求スル所ノ金額ニ據ルモノニシテ用紙ノ如何ニ依テ始終審ヲ分ツヘキニ非ストス依テ訴狀ヲ棄却スルモノ也

右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告ニ及フ要領左ノ如シ

第一條

本訴上告ニ付左ノ三項ヲ論究スルハ最モ緊要ナリト信ス

第一 本案ノ初告ハ始審裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヤ將タ治安裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヤノ事

第二 若シ治安裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナリトセハ其管轄ニアラサル始審裁判所ノ裁判ハ有効ナルヤ將タ無効ナルヤノ事

第三 明治十四年第八十三號公布第五條ハ始審裁判所ニ於テ治安裁判所ノ始審裁判ニ服セサル控訴ノミニ限リ終審ノ裁判ヲ爲スノ法文ナルヤ否ヤノ事

第二條

第一項 明治十四年第八十三號公布第二條及ヒ第四條ヲ按スルニ其第二條ハ請求ノ金額



及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付テハ治安裁判所ニ於テ始審ノ裁判ヲ爲スノ法文ナリ又其  
 第四條ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上ノ訴訟ニ付テハ始審裁判所ニ於テ始審ノ裁判ヲ  
 爲スノ法文ニシテ治安裁判所ト始審裁判所ノ權限ヲ制定セラレタルモノナルコトハ多辯  
 ヲ要セス而シテ其請求金額及ヒ價額トハ訴狀ニ掲クル所ノ請求金額ヲ指スヤ否ヤ是上  
 告第一ニ屬スル要點ナルヲ以テ論定セサルヘカラス然リ而シテ裁判所ノ管轄ヲ定メント  
 欲セハ起訴ノ當時ニ在テ其訴狀ニ掲表スル請求金額及價額ニ據ラサルヲ得ス然ラサレ  
 ハ到底其管轄ヲ定メ得ヘカラス然レハ即チ本案ノ初告ハ始審裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ  
 一勿論ニシテ審理中其請求金額ヲ減少セシテ進取テ先キニ受理セシ裁判所ノ權限ニ影響  
 ヲ及ボスヘキモノニアラサルナリ況ヤ本案ハ損害賠償ノ詞訟ナルヲ以テ其請求スル金  
 額ヲ減少シ得ルノ權ハ裁判官ノ權内ニ在ルモノナレハ起訴者カ請求スル金額タル固ヨ  
 リ一定シテ變動セサルモノト云フ得サルニ於テオヤ

第二項 然レトモ若シ本案ノ初告ヲシテ治安裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトセン歟果シテ  
 然ラハ秋田始審裁判所大曲支廳ノ裁判ハ其權限ヲ踰越セシ無効ノ裁判ト云ハサルヲ得  
 ス何ントナレハ請求ノ金額ニシテ治安裁判所ノ管轄ニ屬スル以上ハ其管轄ニアラサル  
 始審裁判所ニ於テ之ヲ審理裁判シ得ルノ權アラサレハナリ  
 第三項 明治十四年第八十二號公布第五條ニ云々トアリ然ラハ則チ始審裁判所ニ於テ治  
 安裁判所ノ裁判ニ服セサル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲スノ權アリト雖モ未タ治安裁判所  
 ノ始審裁判ヲ經サル詞訟ニ付テハ之レヲ終審ト云フ得サルヤ明カナリ何ントナレハ該

公布第五條ハ治安裁判所ノ裁判ニ服セサル控訴ノミニ對スル法律ナレハナリ

第四項 上來ニ陳述スル理由ナルヲ以テ原裁判所カ本案ノ控訴ヲ棄却セシハ法律ニ違フ  
 モノトノ事

第三條

原判文ニ(本訴ハ秋田始審裁判所大曲支廳ニ於テ審理中被告ヨリ要償ノ金額ヲ五拾九圓  
 五拾三錢ニ減シ請求シタルモノナレハ明治十四年第八十二號公布第二條ニ依リ治安裁判  
 所ノ裁判ヲ受ケ之ニ不服アレハ其第五條ニ照シ始審裁判所即チ大曲支廳ニ之ヲ控訴スヘ  
 キ訴訟ナリトス)ト在リ若シ果シテ此見解ヲシテ其當ヲ得タリトセハ前條第二項ニ論定  
 スルカ如ク始審ノ裁判則チ大曲支廳ノ裁判ハ其効ナキモノト爲サハルヘカラサルニ原裁  
 判所ハ上文ノ如ク本案ノ初告ハ治安裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナリト云ヒナカラ其次  
 判文ニ(然ルニ本訴ハ其控訴ヲ受クヘキ始審裁判所ニ於テ直チニ之レヲ受理シ裁判ヲ與  
 ヘタルモノニシテ其裁判ハ終審ノ裁判ナレハ再ヒ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス)ト判定  
 セラレタルハ前後矛盾スル不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ヌ何トナレハ治安裁判所ノ管轄ニ  
 屬スヘキ詞訟ヲ其管轄ニ非ラサル大曲支廳ニ於テ審理裁判セシハ越權ナレハナリ然リ而  
 シ前述ノ如ク前後矛盾スル判文ヲ以テ本案ノ控訴ヲ棄却セラレタルハ蓋シ明治十四年第  
 八十三號公布第五條ノ法律ヲ誤解シ單ニ百圓未滿ノ訴訟ニシテ直チニ始審裁判所即チ大  
 曲支廳カ受理判決セシ以上ハ假令治安裁判所ノ始審裁判ヲ經テ控訴セシモノニアラサル  
 モ其裁判ハ有効ナルノミナラス是ヲ終審裁判ナリト云フ得ヘキモノト思惟セラレタルニ



依ルモノナラン否ヲサレハ大曲支廳ニ於テ其管轄ニ非サル始審ノ裁判ヲ爲シタルヲ看認メナカラ其裁判ヲ無効ナリトセシテ反テ有効ト判定セラルヘキノ原因ナケレハナリ之レ原裁判所カ明治十四年第八十三號公布第五條ヲ誤解セシ不法ノ裁判ナリトノ事

第四條

我國ノ法律ニ於ル或ル場合即チ人民ヨリ院省府縣等ニ對スル訴訟ヲ除クノ外民事上一般人民ニ於テ事實ノ審理上二個ノ裁判即チ始審ト終審ノ裁判ヲ受ケ得ルノ權利ヲ有スルヤ論ヲ俟タサルナリ故ニ初告ノ裁判ニシテ其當ヲ得サルモノト思惟スルキハ更ニ上等ノ裁判所ヘ控訴シテ其覆審ヲ求ムルノ權利アルモノナレハ假令如何ナル場合ト雖モ事實ノ審理上二個ノ裁判ヲ受ケ得サルノ道理ナキハ始終審ノ文字上ニ付テモ判然スルノミナラス殊ニ明治十年第十九號公布及ヒ明治十四年第八十三號公布ニ規定スル所ナリ是啻ニ覆審院ノ位地ハ初告裁判所ヨリ上等ナルカ故ノミニ止ラス事實再審ヲ求ムルハ必要欠クヘカラサルモノナレハナリ然ルニ原裁判所ハ是等ノ理由ニ拘ハラヌ輒ク棄却ノ裁判ヲ下サレタルハ道理ニ背クノミナラス成文法律ノ精神ニ背キ民事訴訟上人民一般ニ事實上再審ノ訴件即チ始審ノ裁判ニ不服ナルキハ控訴シテ覆審ヲ求ムルノ權利ヲ奪ハレタルハ頗ル不法ノ裁判ナリトノ事

第五條

前條々ニ開陳スル如ク本案ノ初告ヲシテ始審裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルキハ原裁判所ハ本案ニ對スル終審ノ裁判ヲ爲スヘキノ義務アリ又原裁判所カ其判文前段ニ判定セ

シ見解ノ如ク治安裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト爲ストキハ秋田始審裁判所大曲支廳ノ裁判ハ其管轄ニアラサル始審ノ裁判ヲ爲シタルモノナルヲ以テ之ヲ無効ノ裁判ナリト爲サハルヘカラサルニ事茲ニ出テスシテ明治十四年第八十三號公布第五條ヲ誤解シ棄却ノ裁決セラレタルハ頗ル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ要ムルモノナリトノ事

本院ニ於テ辯明及ヒ判決ヲ與フルノ如シ

上告ノ旨趣ヲ審按スルニ原裁判所ハ明治十四年第八十三號公布第五條ヲ誤解シタル不法ノ裁判ナリト論告スルニ過キヌ而シテ本件ハ最初始審裁判所ノ權限ニ屬スル詞訟ナリト雖モ審理中被告者カ其請求ノ金額ヲ減少シ即チ治安裁判所ノ權限ニ屬シタルモノニテ其訴件ニ對シ始審裁判所カ與ヘタル裁判ナルヲ以テ原裁判所說明ノ如ク其實終審裁判ノ効力ヲ有スルモノニ付原裁判所カ本件ヲ棄却シタルハ至當ノ事ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノ也

○第五百五十四號

貸米代金催促一件上告ノ判文(明治十七年七月廿八日上告 全 年十一月廿四日申渡)

德島縣阿波國名西郡下分上山

村二百五拾四番地平民西内儀

太郎代官人

全國名東郡德島船場町士族



上告人

村上 恒夫

九八

德島縣阿波國名西郡下分上山  
村百四拾番地平民

被上告人

稻飯 勘平

本件ハ上告者ノ起訴ニシテ其訴旨ハ被上告人ニ對シ貸米代金九拾四圓六錢八厘ヲ請求シタル者ナリ

被上告人ハ尋常貸借ニシテ出訴期限ヲ經過シタルハ勿論丁卯以前ノ證券ニシテ無効ノモノナルヲ以テ請求ニ應ジ難シト抗辯シタリ

上告人ハ始審ニ勝テ終審ニ敗訴ノ裁判ヲ受ケ之ヲ上告スルモノナリ  
德島始審裁判所カ爲シタル終審判決ノ要領左ノ如シ

本訴五年切賣地ハ阿波國ノ所謂五年切賣地中ノ正格ニ屬スルカ將タ變格ニ屬スルモノナルヲ推究スルヲ以テ緊要ナリトス而シテ本訴ノ地券ハ現ニ原告<sup>被告</sup>上ノ手ニ存在スルノミナラス明治九年ヨリ同十四年迄地租ヲ原告<sup>被告</sup>上ヨリ納メタルコトハ被告<sup>原告</sup>上モ已ニ認ムル所ナレハ其正格ニ非スシテ變格ナルヲ知ルヘシ然レハ其性質々々入ニ非ス書入ト一般ナルヲ以テ尋常貸借ニ異ナル所ナキヲ以テ明治五年第三百十七號同六年第三百六十二號布告ニ照シ本訴ノ起因ハ丁卯以前ニ係ルニ付裁判上効力ヲ有セサルモノト判決シタリ  
右判決ヲ不法ナリトシ上告ニ及フ要領左ノ如シ

第一條

原判文ノ趣旨ハ舊名東縣明治八年第二十五號布達第三條ノ正格即チ質入ニアラスシテ同布達第四條ノ變格即チ書入ナルカ故ニ明治五年第三百十七號同六年第三百六十二號布告ニ照準セサルヘカラスト云ニアリ若シ果シテ變格ニ屬セン乎本件ハ明治六年第十八號布告地所質入書入規則ヲ履踐セサルモノナレハ明治五年第三百十七號布告ヲ適用セラルハ當然ナリ若シ然ラスシテ正格ニ屬セン乎假令地所質入書入規則ヲ履踐セサルモ元來質地ニ屬スルモノナレハ明治六年第九號布告ト同年第七拾六號布告ノ增補第十六條トヲ適用セラレサルヘカラスト然ルニ本件ハ所謂正格ニ屬スルモノニシテ變格ニ屬スルモノニ非ストノ事

第二條

抑モ正格ト變格トハ舊名東縣布達明文ノ如クニシテ本件ノ事實タルヤ上告第一號證ノ如ク元治元年被上告者ニ代米三拾六石ヲ貸渡シ質地ヲ取り且五年間ハ請戻サシメスシテ五年ヲ經過スル後ハ何時ヲ問ハス請戻サシムルヲ得ルノ約ヲ結ヒ以來之ヲ實行セシハ上告第二號乃至第七號證ノ如ク貢租ヲ納メリ又質地ヲ利用セシハ被上告者自認シテ上告者第十號證ノ如ク(前陳ノ如ク事實ナルヲ以テ原告ヨリ地所引渡シ別段受ケサレ原原告ハ質取權ヲ拋棄セシニ付被告ハ明治九年以來其土地ハ支配致候事)ト云ヒ又明治九年已來モ尙ホ上告者カ質地ヲ利用セシハ被上告第七號證ノ如ク伐木ノ告訴願下ヲ以テモ知ルヘキナリ實ニ此事實ハ正格即チ質入ニ適合シ毫モ變格ニ適合セサルヤ明々白々ナリ只明治六年第十八號ノ正式ヲ履踐セサルノミ然ルニ原判官カ本件ニ就キ正變兩格ヲ甄別セラレ

九九



タルハ被上告カ地券ヲ有スルト明治九年ヨリ同十四年迄ノ地租ヲ納入シタルトテ以テ變格ニ屬スルモノトセリ抑モ質取主カ地券ヲ所持スルト然ラサルトハ正格ノ性質ニ關係ナキモノニシテ個ハ明治六年第十八號布告ニ於テ始メテ必要ナルモノニ非ラヌヤ又地租ヲ納入シタリトスルモ明治九年以來ノ事ニシテ此事トモ丈量惣代カ誤テ質地ト他ノ地所トヲ合併シタルニ起因セシ事ハ上告第十一號證戶長保證ノ如クナレハ之ヲ以テ上告者カ質地ノ權利ヲ拋棄シタルモノトナスヘカラス云々夫レ斯ノ如ク原判官ハ一ハ其標準ト相關セサル地券所持スルヤ否ノ事ヲ以テ相關スルモノトシ又一ハ瑕疵トスルニ足ラサル明治九年以來ノ貢租ヲ以テ不合格ノ器具トナシ且却テ本件ハ質地ノ成分具備シタルヲ願ミス之ヲ否認セシハ極メテ不法ノ裁判ナリ

又參考證明治十七年二月六日原裁判所ニ於テ本訴原被ニ與ヘラレタル立木伐採故障解除ノ確定裁判ハ訴訟ノ目的ハ同一ニ非スト雖モ彼レハ貸借ノ利息ニシテ此ハ貸米ナレハ唯本支ノ別アルノミ然ルニ彼レニ於テハ質地トシ此ニ於テハ之ヲ書入トナスカ如キハ甚ダ奇怪ナラスヤ要スルニ本件ハ元來質地ニシテ只地所質入規則ヲ履踐セサルモノトス故ニ丁卯以前ニ係ルト雖モ明治六年第九號布告ノ保護ヲ得ルハ勿論只他人ノ權利ヲ害スル場合ニ於テ質入規則第十六條ノ裁制ヲ受ケサルヘカラストノ事

第三條

原判官カ明治六年第三百六十二號ヲ適用セラレシハ何等ノ緣由ニ出テシカ上告者ハ之ヲ知ルヲ得ス何トナレハ既ニ質地ニアラストスル以上ハ明治五年第三百十七號布告ニ準據

セサルヘカラス然ラハ明治六年第三百六十二號ノ出訴期限ハ實ニ無用ナレハナリ夫レ斯ノ如ク無用ノ法律ヲ適用セラレタル裁判ハ其理由明瞭ナラス不法ノ裁判ニ付破毀ヲ要ムルモノナリトノ事

本院ニ於テ辨明判決ヲ與フル左ノ如シ

上告第一二條ヲ案スルニ本訴ハ舊名東縣明治八年第廿五號布達第三條ノ正格即チ質地ニ基因セシモノニシテ同布達第四條ノ變格即チ書入ノ性質ナラサルニ之レヲ書入ト判定セシハ不法ナリトノ論告ニ過キヌ依テ之レヲ原書類ニ徵スルニ上告者カ明治三年ヨリ八年迄納租シ及ヒ土地ヲ利用セシ證具トスル上告第二號乃至第七號證ハ真正ナラス其第十號證ハ當時被上告代官カ事實ニ齟齬セシ錯誤ノ供述ナル旨被上告者ニ於テ抗辨シ又被上告第七號證ハ證憑不充ナル旨ヲ以テ告訴ヲ願下ケタル迄ノ書面ナルニヨリ原判官ハ被上告者カ現ニ地券ヲ所持スルト明治九年以來貢租ヲ納メタル事實トニヨリ之レヲ採用シ從來質地ノ性質ニアラサリシモノト認定シタルハ畢竟原判官ノ主權ナル證據ノ取捨事實ノ認定ニ屬スルモノナリ然ルニ上告者ハ該認定ノ資料ニ供シタル地券ノ所在ハ質地ノ如何ニ影響ヲ及ボサス又納租ノ點ハ上告者ノ瑕疵トスルニ足ラサル證具ナルニ之レヲ採用セシハ不法ナル旨論難スレハ地券ノ所在ト納租ノ如何ハ質地ニ對スル緊要ノ事柄ナルヲ以テ之レヲ採用セシハ不法ニアラス何トナレハ明治六年第十八號公布第四條ニ(地所ヲ質入レニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申云々)其第六條ニ(質人ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致等ニ付テハ地租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事)ト明載シ又上告者カ準據トスル舊名東縣第廿五號布達第三條



ニモ(前略金主方ニテ耕作シ貢租ヲ納云々)トアリテ地券ノ所在ト納租ノ如何ハ實ニ質地ニ對スル緊要ノ事柄ナレハナリ故ニ上告者カ被上告者ニ對シ地券ヲ要求セシ事蹟ナク又納租モ被上告者ニ放任シ毫モ質地ノ權義ヲ履行セシヲナキヲ以テ原判官ハ該地券ノ所在ト納租ノ點ヲ採用シ以テ從來質地ノ性格ニアラサリシモノト認定セシハ不法トスヘキ筋ナキモノトス

又上告者ハ明治十七年二月原裁判所カ兩造ニ與ヘタル立木伐採故障解除ノ裁判ハ已ニ確定セシモノ、如ク論告スレモ明治十七年五月八日被上告者カ原裁判所ヘ呈供セシ辨駁書ニ該件ハ大坂控訴裁判所ニ控訴中ナル旨供述シ之レニ對シ上告者ノ論辨ナキヲ見レハ該裁判ハ未確定ナルモノト見做サ、ルヲ得ス然ラハ則チ本訴ニ影響ヲ及ホサ、ルハ固ヨリ論ヲ俟タサルモノナリ

上告第三條ヲ案スルニ原裁判所カ明治六年第三百六十二號布告ヲ引用セシハ無用ナル旨論告スレモ上來辨明ノ筋合ニシテ本案ニ影響ヲ及ホサ、ルヲ以テ破毀ノ原由トスヘキ限ニアラス

右辨明ノ理由ナルヲ以テ本上告受理セサルモノナリ

○第五百五十五號

庄屋地故障一件上告ノ判文(明治十六年七月十六日上告  
全 十七年十一月廿六日申渡)

愛媛縣伊豫國伊豫郡橫田村  
平民篠崎謙九郎外五十六名

上告人

高橋 一勝

代言人東京府日本橋區濱町二  
丁目十番地寄留埼玉縣士族  
愛媛縣伊豫國伊豫郡鶴吉村平  
民水口新太郎代人同人長男

水口 啓太郎

上告ノ要領

第一條

本訴ノ地所ハ上告第七號證明治七年六月廿二日附愛媛縣番外達第三條ニ基キ明治九年中國該地所ノ内三反貳畝廿八步ヲ本村累世ノ庄屋野澤家ヘ分賦シ七反八畝七步ハ本村ノ協議ニ依リテ賣却シ殘三反拾六步ハ依然一村ノ共有地ト爲シ夫々地券ヲモ拜受シテ業ニ已ニ行政上ノ處分ハ結了セシモノナルヲ原裁判所ニ於テ原被兩造共ニ認ムル所ニシテ被上告者ニ於テ現ニ右愛媛縣廳カ番外達ヲ發シテ處分シタルハ行政權外ノ處分ニテ無効ナリトノヲ喋々辯論シ上告者ニ於テハ其辯論ノ不當ナルヲ反駁シタル次第ナリ今原裁判所ノ判決ヲ見ルニ(抑如此地種ハ庄屋廢止ノ後一般處分ノ方法アリテ始メテ其所有者ノ定マ  
ルモノナルニ令ヤ其處分ノ方法ナケレハ全ク行政上ノ處分ニ因ルヘクシテ裁判所ノ判決ヲ以テ其所有者ヲ指定スル能ハサルモノトス)トアリ蓋シ本訴ノ地所ハ未タ行政上ノ處分ナキモノニ付向後地方廳ノ處分ヲ仰クヘキモノナリトノ意義ナルヘシ果シテ然レハ前



陳愛媛縣廳ノ處分ヲ滅視シ更ニ再ヒ其處分ヲ仰クヘシトノ事ニ當リ所謂司法裁判官ノ權限ヲ越ヘタル不法ノ裁判ナリ將タ前陳ノ處分アリシヨニ心付カス斯ノ如キ裁判ヲ與ヘラレタルモノトセハ是レ錯誤粗漏ノ裁判ト云ハサルヲ得ス

第二條

凡舊藩政ノ制度ニ於テ或ハ割地ト稱シ或ハ車地ト稱シ全村ノ田畑ヲ若干畝ニ區畫シテ時々闡引ヲ以テ地所ヲ配賦スルカ如ヤハ吾人ノ往々見聞スルモノニテ所謂公認ノ事實ナリ而シテ其起因ヲ問ヘハ全村田畑ノ地盤ヲ共有ト爲シ其所用ノ箇所ヲ時々公平ニ配賦シテ怨望ナカラシムルニ外ナラス然レモ其レカ爲メ所有權ナシト言フヘキニ非サルヲ以テ他ノ確定不動ノ箇所ヲ有スルモノト同シク從前貢租諸役ヲ課シ尙地券御發行ニ付テハ同シク地券ヲ下附セラレタリ愛媛縣ノ如キモ同一ノ處分ニ出テ既ニ本村ノ如キモ皆然ラサルハ無シ然ルニ原裁判所ニ於テ(本村ニ於テハ古來地割ノ制度ニ因リ時々闡引ヲ以テ各人所持ノ地ヲ假定スルモノナレハ通常各人所持ノ地ト雖モ從前其所有權ナカリシハ勿論云々)トノ判語ヲ下サレタルハ事實ヲ誤リタル不法ノ裁判ト云フヘシ從テ本訴ノ地所ハ本村人民ノ所有地ヨリ備ヘタリト認ム可ラサルモノト判定セラレタルハ豈ニ穩當ノ裁判ト云フヲ得ンヤ若シ從前其所有權ナク又本村人民ノ所有地ヨリ備ヘタルニ非スンハ何ソ縣廳ヨリ上告第七號證第二條ノ如ク「舊里正私産タルノ明證ナキモノハ舊里正始メ一村公共ノ有タルヘシ」トノ達ヲ爲スノ理アラシヤ然ルニ原裁判所カ此等ノ理由ヲ顧ミスシテ事理錯誤ノ裁判ヲ下サレタルハ頗ル不當ノ事ト思考ス

第三條

上告第一號證ハ素ヨリ當時ノ成規ニ基キ製帳シタルモノニシテ其各持主ノ名下ニ調印アルヘキ例證ハ上告番外第一號乃至第六號證ニ依テ明知スヘシ而シテ該水帳中庄屋地トアル下ニ本村組頭助右衛門ノ調印アルハ他ノ共有地ニモ同人ノ調印アルニ比照スルニ亦本村ノ共有地ナルヲ證スヘク而シテ當時ノ庄屋ハ他村ノ人ナルヨリ之ニ調印セシメスシテ本村ノ組頭カ調印スルニ至リシハ相當ノ順序ナルヘシ然ルニ原裁判所カ(原告第一號田地坪水帳庄屋地ノ下ニ庄屋ノ印ヲ捺スルハ尙可ナルモ組頭ノ印ヲ捺スルハ頗ル謂レナキトトス若庄屋地ハ村持ナラハ寧ロ捺印ナキニ如カサルヘシ云々)トノ判語ヲ下シ以テ該證ヲ擯斥セラレタルハ事理ヲ誤リタル不法ノ裁判ト思料ス

又上告第二號證ハ假令其筆跡印影共ニ他ニ參照スヘキモノナク且最初ニ證書ト記載アルモ其他紙質墨色肉色等ヲ參考シタル上ニ非サレハ俄カニ之レヲ不真正ノ證書ト云フ可ラス何トナレハ安永度ノ印鑑ヲ今日ニ具備スルハ容易ノコトニ非ス又最初ニ證書ト記載アルハ其例ナキニ非サレハナリ又本村ノ地組ハ素ヨリ石高ニ差違ヲ生スヘキ限リニ非ス然ルニ原裁判所カ此等ノ點ノミヲ以テ該證ヲ斥ケラレタルハ之レヲ不當ト論スルモ過言ニ非サルヘシ其他上告人ヨリ奉呈シタル證據物及申立タル事柄ヲ採用ナカリシハ畢竟審理ヲ盡サレサルニ依ルモノニテ不當ト思料セララルヘモノ少ナシトセス

第四條

原裁判本文ヲ當理ノモノト假定スルモ本訴ハ起訴者タル被上告人ノ訟求終ニ相立タサル



モノナレハ成規ノ如ク訴訟入費ハ被告人ヨリ償却スヘキモノナルニ原裁判所カ但書ニ於テ(訴訟入費ハ原被告各可爲自辨候事)ト言渡シタルハ不法ト思考ス  
右ノ理由ナルニ付原裁判ヲ破毀シ更ニ至當ノ裁判アラントテ請願スルトノ事  
大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

第一條

上告第一條ハ本案論地ハ上告第七號證明治七年六月廿二日付愛媛縣番外達第三條ニ基キ已ニ行政處分ヲ經シモノナルニ原裁判所カ「抑如此地種ハ庄屋廢止ノ後一般處分ノ方法アリテ始メテ其所有者ノ定マルモノナルニ今ヤ其處分ノ方法ナケレハ全ク行政上ノ處分ニ因ルヘクシテ裁判所ノ判決ヲ以テ其所有者ヲ指定スル能ハサルモノトス」ト判決シタルハ右愛媛縣ノ處分ヲ滅視シ司法裁判官ノ權限ヲ越ヘタル不法ノ裁判ニアラサレハ錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ然レモ上告第七號證即チ明治七年六月廿二日付愛媛縣番外達ハ被上告番外第四號證ノ如ク明治十二年十一月四日愛媛縣甲第二百一號布達ヲ以テ之ヲ取消シタル限リハ假令本案論地カ先ニ一旦上告第七號證愛媛縣番外達ニ據リ行政處分ヲ經シモノニモセヨ今日ニ在テ行政處分ヲ經シモノトハ云フ得サルモノナレハ是ヲ以テ原裁判破毀ノ理由トナシ難シ

第二條

上告第二條前段ハ地割ノ制度ナルモノハ全村田畑ノ地盤ヲ共有ト爲シ其所用ノ箇所ヲ時々公平ニ配賦シ以テ怨望ナカラシムルニ外ナラスシテ決シテ之レカ爲メ所有權ナシト云フヘカラス然ルニ原裁判所カ「本村ニ於テハ古來地割ノ制度ニ因リ時々闡引ヲ以テ各人所持ノ

地ヲ假定スルモノナレハ通常各人所持ノ地ト雖モ從前其所有權ナカリシハ勿論云々」ト判決シタルハ不法ト云フニアリ然レモ古來地割ノ制ニ因リ闡引ヲ以テ時々各人所持ヲ假定スルノ事實ナレハ本村各人ニ一定ノ所有權アリシモノト觀ルヘキ條理ナキハ勿論ノナレハ是ヲ以テ原裁判破毀ノ理由トナシ難シ

上告第二條後段ハ若シ本案論地カ從前其所有權ナク又上告村人民ノ所有地ヨリ備ヘタルモノニアラサレハ愛媛縣ニ於テ上告第七號證第二條ノ如ク「舊里正私産タルノ明證ナキモノハ舊里正始メ一村公共ノ有タルヘシ」トノ達ヲ爲スノ理ナシ然ルニ原裁判所カ「果シテ本村人民ノ所持地ヨリ備ヘタリト認ムヘキ證憑モ無之云々」ト判決シタルハ不法ト云フニアリ然レモ前第一條ニ於テ説明スル如ク上告第七號證ハ被上告番外第四號證ヲ以テ取消シニ屬シタルモノナレハ是ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得ス

第三條

上告第三條第一項ハ上告第一號證水帳中庄屋地トアル下ニ組頭助右衛門ノ調印アルハ他ノ共有地ニモ同人ノ調印アルヲ以テ視ルモ亦上告村ノ共有地ナルヲ證スヘシ而シテ當時ノ庄屋ハ他村ノモノナルニ依リ之ニ調印セシメシテ本村ノ組頭カ調印セシハ至當ノ順序ナリ然ルニ原裁判所カ「原告第一號田地坪水帳庄屋地ノ下ニ庄屋ノ印ヲ捺スルハ尙ホ可ナルモ組頭ノ印ヲ捺スルハ頗ル謂レナキフトス云々」ト判決シ以テ該證ヲ斥ケタルハ不法ト云フニアリ然レモ抑モ庄屋地ト記シアル下ニ組頭ノ印ヲ捺スルノ事由ハ固ヨリ有ルヘカラサルナリ何トナレハ他ニ相當ノ村役人モ之レアルニ殊更ニ組頭助右衛門ノ一人カ之ニ捺印スル理



由ナケレハナリ況シテ被上告第九號證ニ據レハ上告第一號證庄屋地トアル下ニ押印ナカリ  
シヲ知リ得ルニ於テヲヤ其第二項ハ上告第二號證ハ假令其筆跡印影共ニ他ニ參照スヘキ  
モノナク且最初ニ證書ト記シアルモ其紙質墨色肉色等ヲ參考セサレハ俄ニ之レヲ不真正ノ  
證書ト云フヘカラス又本村ノ地組ハ素ヨリ石高ニ差違ヲ生スヘキ限リニアラス然ルニ原裁  
判所カ此等ノ點ノミヲ以テ該證ヲ斥ケタルハ不法ト云フニアリ然レモ是レ原裁判所ノ主權  
ニ屬スル事實ノ認定ニシテ其認定ノ理由ニ於テハ不當ノ廉ナキヲ以テ上告者カ所論ハ採用  
スヘキノ限リニアラス

第四條

上告第四條ハ良シヤ原裁判本文ハ不法ニアラストスルモ抑本案ハ起訴者タル被上告者ノ認  
求終ニ相立タサリシモノナレハ訴訟入費ハ被上告者ニ於テ償却スヘキモノナルニ原裁判所  
カ其判文但書ニ於テ「訴訟入費ハ原告各可爲自辨事」ト言渡シタルハ不法ト云フニアリ依  
テ原裁判書類ヲ按スルニ本案爭訟ニ於ケル被上告者ハ論地ハ一己ノ私有地ナリ上告者ノ所  
有ニアラスト云ヒ上告者ハ上告村人民ノ共有地ナリ被上告者ノ所有ニアラスト云ヒタルモ  
ノナリ然ニ原裁判所ハ論地ハ行政上ノ處分ヲ以テ其所有者ヲ定ムヘキモノニシテ裁判所ノ  
裁判ヲ以テ其所有者ヲ指定スル能ハサルモノナリト判決シタリ是レ即チ論地ハ被上告者ノ  
私有地トモ云フヘカラス又上告者ノ共有地トモ云フヘカラサルナリ然ラハ被上告者カ論地  
ハ上告者ノ所有地ニアラストノ事ハ正當ナリト雖モ一己ノ私有地ナリトノ事ハ不當ナリ又  
上告者カ論地ハ被上告者ノ所有地ニアラストノ事ハ正當ナルモ上告村人民ノ共有地ナリト

ノ事ハ不當ト云ハサルヘカラサルニ因リ上告者被上告者ハ其曲直相半ハスルモノト云ハサ  
ルヲ得ヌ抑訴訟入費ヲ起訴者被訴者ノ内一方ニ負擔セシムルハ其曲者タル一方ヲシテ負擔  
セシムヘキモノナレハ本案ノ如キ起訴者被訴者共ニ其曲直相半ハスル場合ニ在テハ其訴訟  
入費ニ於ケル各自辨タルヘキハ勿論ノ事ナリトス左レハ原裁判所カ訴訟入費ハ原告各可  
爲自辨ト言渡タルハ不法ト云フヲ得ヌ

第五條

前條々説明スル如キ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所カ本案ニ對シ言渡シタル第二終審裁判  
ハ破毀セサルモノナリ

但上告入費ハ上告者負擔タルヘシ

○第五百五十六號

貸附藍玉代金催促一件上告ノ判文(明治十六年九月十日上告  
全 十七年十一月廿六日申渡)

群馬縣上野國西群馬郡倉ヶ野  
驛第百六十三番地平民

上告人

岡田 宗三郎

埼玉縣武藏國横見郡久保田新

田十一番地平民

上告人

宮下 元松

東京府神田區錦町一丁目十番



右代言人

地寄留岐阜縣平民  
渡邊 義雄

埼玉縣武藏國橫見郡荒子村十  
一番地平民岩崎政右衛門亡相  
續人

被上告人

岩崎 武

東京府京橋區本材木町三丁目  
五番地平民

右代言人

岡島 宗三郎

上告ノ要領

本件ハ甲第一號證書ニ對シ解釋ヲ下スニ當リ文字ノミニ拘泥スルカ如キアラハ其題名ニ借用證トアリ又姓名ニ冠スルニ借主ノ文字ヲ以テスレハ或ハ藍玉ノ貸借ナリトノ誤謬ヲ來スコアルヘキモ抑モ契約書ヲ解釋スルニハ其文字ノミニ依着スルヨリ寧ロ其契約ヲナシタル雙方ノ者ノ旨趣如何ヲ考索セサルヘカラサルハ明治十年司法省第七十五號達契約書解釋心得第一項ニモ明瞭ナリトス而シテ被上告甲第一號證ニハ題スルニ借用ノ二字ヲ以テシ姓名ニ冠スルニモ亦借主ノ文字ヲ以テスルヲ見レハ或ハ藍玉ノ貸借契約若クハ藍玉代金ノ貸借契約トモ解釋シ得ラルヘキモノ、如ク又々其文中(藍玉八駄也壹駄ニ付代金拾五圓五拾錢代金百貳拾四圓也)中右記載ノ代金ヲ以テ金子ニテ返濟可仕候トアルニ

依レハ賣買ノ契約ナリト解釋シ得ラルヘシ如斯前後ノ文詞ニ様若クハ三様ノ意ヲ帶フル場合ニ於テハ決シテ其文字ノミニ依着スル能ハサレハ右解釋心得ニヨリ雙方ノ意旨如何ヲ考索シテ其契約ノ種類如何ヲ判別セサルヘカラサルナリ然ルニ前掲ノ如ク被上告甲第一號證契約ノ旨趣ヲ約スレハ藍玉ヲ借受ケ其定メタル代金ヲ以テ返濟スヘシトノ事ナレハ物品ト代金トヲ交換スルノ約ニシテ即チ賣買ノ約ナリト斷言セサルヲ得サルナリ如何トナレハ貸借ナルモノハ其借受ケタル物品ヲ返還スルカ否サレハ同性質ノ物品ヲ返却スヘキモノニシテ物品ト代金トヲ交換スルヲ貸借トハ稱スヘカラサルヲ以テナリ故ニ藍玉ヲ借用シ代金ヲ以テ返濟スヘシトノ事ナレハ即チ藍玉賣買ノ契約ナリト解釋セラレ出訴期限規則第二條ニ照シ上告者ニ義務ナシトセラルヘキ筈ナルニ反之藍玉ヲ借テ代金ヲ返スノ契約ナレハ藍玉ノ貸借ナリトシ今猶代金ヲ拂フヘキ義務アリトセラレタルハ頗ル不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス  
又單ニ價額ノミヲ掲ケ其價額ノ藍玉ヲ借受ケ同價額ノ藍玉ヲ以テ返スヘシトノ約ナレハ其代金ハ價額ヲ定メタルマテニシテ賣買ノ代金ニ非スト云フヲ得ヘシト雖モ先キニ壹駄ノ代價ヲ掲ケ更ニ八駄ノ代金合計ノ金額ヲ再記シ而シテ右記載ノ代金ヲ以テ金子ニテ返濟可仕候トアレハ其品位ヲ示スカタメ掲ケタル價額ニアラスシテ賣買ニヨリ拂フヘキ代金ヲ定メタルモノナリト云ハサルヘカラス然ルニ其代金ハ價額ヲ定メタルモノナリトセラレタルハ認定ヲ下スヘキノ材料ナク即チ認定スヘカラサル事柄ニ對シ認定ヲ下シタルモノニシテ法理ノ決シテ許サハル所ナリトス



凡ソ訴訟ハ不告不理トハ裁判ノ原則ナリトス即チ兩造カ争點ノ集マル所ニ判決ヲ下スヘキモノニシテ尙モ争訴ノ以外ニ判決ヲ及ホスヘキモノニアラス而シテ本訴ハ被上告者ニ於テハ藍玉代金ノ貸借證ナリト云ヒ上告者ハ藍玉ノ賣買及代金拂渡シノ期ヲ約シタルモノナリト云フニ在レハ代金ノ貸借ナリヤ將タ賣買ナリヤヲ判決セラルヘキモノナルニ兩造カ未タ曾テ告ケサル所ノ藍玉貸借ノ契約ナリト斷定セラレシハ裁判ノ原則ニ反セルモノナリト云ハサルヲ得ス

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ  
賣買ハ物件ト代價トヲ交換スルノ名稱ニシテ貸借ハ約諾ノ時間他人ノ物件ヲ使用シテ再度其物件ヲ返戻ス可キモノ、名稱ナリ故ニ契約者ニ於テ如何ナル名義ヲ付シテ之ヲ混同セント欲スルモ到底貸借ハ貸借ニシテ賣買ハ終ニ賣買タルヲ免レサルナリ今本訴證書ニ掲記スル所ノ藍玉ハ貸借ナリヤ賣買ナリヤヲ考フルニ其性質ハ全ク賣買ナリトス何トナレハ一方ヨリ藍玉ノ代價ヲ定メ之ヲ渡シ又一方ニ於テモ其藍玉ヲ定期ヲ以テ返戻スルニ非ズ其代價ヲ渡ス可キ旨趣ニテ之ヲ受取タルモノナレハ則チ其受渡ニ於テ全ク賣買ノ性質具備スレハナリ而シテ上告人被上告人カ原裁判所ニ於テ争フタル所ハ該證ハ物品賣渡ノ證ナリヤ將タ既ニ賣渡シタル物品代價ノ借用證ナリヤニ在テ藍玉ノ賣買物ナルコトハ雙方共ニ承認スル所ナリ然レハ此ノ争訟ヲ判定スルニハ該證書ハ賣買代價ノ延拂ヲ約シタルモノカ又賣買代價ヲ借用證書ニ改メタルモノカヲ審究スヘキ筋ナルニ原裁判所ハ唯ニ證書面ノ文字而已ニ拘泥シテ藍玉ノ貸借ト解釋ヲ下シ裁判ヲ爲セシハ證書ヲ解釋スルニ約束ノ性質ヲ定ムル條理

ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ破毀シ相當ノ處分ヲナサシムル爲メ大阪控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ  
○第五百五十七號

川濬差拒一件上告ノ判文(明治十七年八月二日上告  
全 年十一月廿六日申渡)

兵庫縣播磨國飾西郡英賀村總  
代兼同村平民酒井彌一平代言  
人

東京府日本橋區濱町二丁目十  
一番地

高梨哲四郎

兵庫縣播磨國飾西郡

今 在 家 村

被上告  
本件ノ起訴者ハ被上告村ニシテ其訴旨ハ明治十四年中西入川ノ浚洞ヲ爲シタル處上告村ヨリ突然之ヲ差拒ミタリ抑モ該川浚ヲ爲スハ舊慣ニシテ該川筋宇奧新田堰床ヨリ浜リ字地後迄六百四十間ハ被上告村ニ屬セルヲ以テ其上流ノ水ヲ湛畜シ耕地ニ灌溉スルノ水路ナレハ之カ浚洞ヲ爲スハ必要ノ事業ナリ上告村ハ該水理ニ關涉セサレハ隨テ損益ヲ生セサルヲ以



テ被告村カ浚洞ノ事業ヲ拒障スルノ權利ナシト云フニアリ

上告村ノ抗辨ハ該川ハ上告村ノ所屬地内ニアリテ上告村外四ヶ村ノ惡水拔ナリ被告村ハ夏季養水使用ノ時ニ當レハ論所ヨリ上流ニ板ヲ以テ横堰ヲ設ケ全川ノ流水ハ悉皆耕地へ灌漑シ亦一滴ノ水ヲモ流下セシメス而シテ秋季用水不用トナレハ右横堰ヲ取拂ヒ論所へ流下セシム故ニ本訴爭フ川ハ被告上告村ノ不用水ハ自然流下シ來ルモ決シテ用水路ト稱スヘキモノニ非ス故ニ被告村カ該所ヲ擅ニ濬洞ヲ爲スヘキ謂レナキモノナリ若シ該所ヲ濬洞シ川底ヲ深クセハ潮水侵入溜滯シ耕地ニ害ヲ加フルニ至ル加之濬洞シタル土ヲ被告上告村ノ堤頭ニ堆積スルヲ以テ上告村ハ洪水暴漲ノ時ニ當レハ耕地水ニ浸サレ巨多ノ損害アルヤ論ヲ待タス是ヲ以テ濬洞ノ事業ヲ拒障スルノ權利アルモノナリト云フニアリ

上告者ハ始終審トモ敗訴シタリ

大坂控訴裁判所終審裁判ノ要旨左ノ如シ

一本訴ノ論所ハ原告<sup>上告</sup>ニ於テ原告英賀村ノ所轄地内ニシテ被告<sup>上告</sup>今在家村カ關係ヲ有シタル場所ニ之ナシト云モ實地臨檢報告書及原被告ヨリ提供スル繪圖面トニ依リ之ヲ觀察スルニ論所川筋ハ則チ原被告ノ村境ニシテ東ハ被告村ノ耕地ニ沿ヒ西ハ姫路往還ノ里道ヲ超ヘテ原告村ノ耕地ナリ其地形タル到底始審裁判所ニ定ムル如ク該通路ヲ限り原被告村ノ所屬ヲ分チ論所入川ハ原告村ノ所轄内ニ非スシテ即チ被告村ノ所轄地内ナリト認定ストノ事

一原告ニ於テ論所ハ惡水拔ニシテ用水路トハ性質ヲ異ニシ高阜ノ地方ヨリ順次流落ノ儘

ヲ以テスル正當ナルニ之ニ反シ論所ヲ浚掘シ川床ヲ深クセハ順次流落ノ途ヲ失ヒ惡水溜滯シ且海水侵入爲メニ原告村ハ非常ノ水害ヲ受ル必然ナリト云フモ實地臨檢報告書ヲ觀ルニ本訴ノ川濬ヲ爲スモ海水侵入惡水溜滯シ原告村へ水害ヲ來スノ憂ナキノミナラス原告村ヨリ吐出スル惡水流通ノ途ヲ開クノ實況ナルヲハ推知スルニ足ルヲ以テ原告ニ於テ論所ノ川濬ヲ爲サハ夫カ爲メ非常ノ水害ヲ受ルニ付拒障スルトノ陳供ハ畢竟無謂苦情ニ過キサルモノト認定スルトノ事

上告者ハ右終審裁判ヲ不當トシ上告スル主點左ノ如シ

一原判官ハ論所<sup>上告</sup>村ヲ上告村ノ惡水路ナリト見認ナカラ其浚掘ハ被告上告村ニ於テ擅ニ<sup>上告</sup>村ノ承諾ヲ爲シ得ヘキモノトサレシハ不當ナリトノ事

一原判文ノ前段ニハ論所川床ハ原被告ノ村境ナリト認定シナカラ其後段ニ於テハ右川床ヲ被告上告村ノ所轄ナリトサレシハ不當ナリトノ事

大審院ニ於テ辨明及判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

第一主點ト上告狀ヲ參照シ之ヲ按スルニ上告人ハ原判文ニ却テ川浚ヲナサハ原告村<sup>上告</sup>ヨリ吐出スル惡水流通ノ途ヲ開クノ實況ナルヲハ推知スルニ足ル云々トアルヲ捉テ原判官カ論川ヲ上告村ノ惡水路ナリト認定シタリト爲シ隨テ喋々ノ論辨ヲナスモ原判文ノ意ハ左ニ非ス上告人カ論所ヲ浚掘シ川床ヲ深クスレハ云々惡水溜滯シ自村ノ害トナルヘキ旨主張セシニ依リ實地臨檢報告書ノ文ヲ學ケテ惡水溜滯ノ憂ナキノミナラス却テ其流通ノ途ヲ開クノ實況ナリト其溜滯ノ害ナキヲ一層確メタル旨趣ナリトス何トナレハ前文ニ惡水溜滯シ害



ヲ受ル必然ナリト云フモト上告人ノ申立ヲ擧テ之ニ對シ其惡水溜滯ノ憂ナキ所以ヲ示シタル文脈ナルヲ以ナリ良シ上告人所論ノ如ク原判官カ論川ヲ惡水路ナリト認メタルモノトスルモ之ヲ浚掘スルニ上告村ノ害ヲ被ルヲナキハ原判文ノ通ナレハ上告人ニ於テ其浚掘ニ對シ拒障スルヲ得サルモノトス

第二主點ヲ按スルニ原判文前段ニ(論所川筋ハ則チ原被ノ村境ニシテ)ト云シハ只其川ヲ越テ東ニハ原告村ノ地所ナク西ニハ被告村ノ地ナキヲ示シタル迄ノ文言ナルハ其文ニ引續キ(東ハ被告村ノ耕地ニ沿ヒ西ハ姫路往還ノ里道ヲ超テ原告村ノ耕地ナリ云々)又(該通路ヲ限リ原被告村ノ所轄ヲ分チ云々)トアルヲ以テ明瞭ナリトス左スレハ其後段ニ於テ被告村ノ所轄ハ論所川筋迄ト爲シ上告村ハ姫路往還ノ通路ヲ限リ所轄ナリト認定シタリトテ前後矛盾シタル裁判ニ非サレハ之ヲ不當ナリト云フ得サルモノトス  
右ノ理由ナルニ依リ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百五十八號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十七年三月十八日上告  
全 年十一月廿六日申渡)

上告人

埼玉縣武藏國北足立郡浦和宿  
百九十七番地平民  
齋藤岩次郎

右代言人

近藤勝復  
埼玉縣武藏國南埼玉郡小久喜  
村八十五番地平民

被告上告人

山崎禮輔

上告ノ要領

第一 抑モ本按貸借金ノ契約ニ於ケル主從ノ義務者ハ等シク明治六年第三百六十二號公布第三條ノ支配ヲ受ケヘキモノニシテ特リ第一ノ義務者ハ其支配ヲ受ケ第二ノ義務者ハ之カ支配ヲ受ケサルノ理ナシ然ルニ原裁判官ハ此理ヲモ顧ミサリシハ法律ヲ誤リシモノナリトノ事

第二 上告者ハ曾テ本案ニ對シ抗辨セシヲナク隨テ其審理モナカリシニ之カ判決ヲ與ヘシハ不法ナリトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

第一 抑モ貸借ニ關シ保證人ニ對スル出訴期限ナルモノハ同規則(明治六年第三百六十二號公布)中別ニ明文ノ視ルヘキナキモ其第三條第一項ニ期限ヲ定メタル貸付米金云々(略)右ハ五ヶ年限リトアリテ主タル義務者ニ付テハ當然該第三條ヲ適施スヘキモノナリ左スレハ假令明文ナキモ之カ從タル義務者モ等シク該條ニ遵據スヘキハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原裁判所ハ其判文末段ニ於テ保證義務ノ如キハ出訴期限ニ據ルヘキ限リニアラスト判定セシハ不法ナリトス



第二 上告要旨第二項ヲ按スルニ上告者ハ明治十七年一月二十二日原裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ本按ニ對シ別ニ申立ヘキ事柄無之トアリ左レハ原裁判所カ本按ノ裁判ヲ與ヘタルハ不法ト云フヲ得サルヲ以テ本項ハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス  
 前第一項ノ理由ニ依リ浦和始審裁判所カ本訴ニ對シ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ東京始審裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ  
 ○第五百五十九號

家督相續届取消一件上告ノ判文(明治十七年七月十七日上告  
 年十一月廿六日申渡)

東京府芝區田村町七番地平民

上告人

丑 井 長 八

代言人

山 中 道 正

被上告人

東京府芝區田村町二番地平民  
 丑 井 長 吉

被上告人

東京府京橋區川口町十八番地  
 杉原 萬 兵 衛

東京府京橋區靈岸島銀町二丁目九番地新潟縣土族中町邦達妻

被上告人

丑 井 タ ケ

本件ハ被上告人丑井長吉并其弟妹ノ起訴ニ係ル訴訟ナリ其訴旨タル長吉ハ亡父長右衛門ノ長男ナルヲ以テ亡父ノ跡ヲ相續スヘキハ正當ノ事ナリ尤モ父ト職業ノ異ナルヲ以テ是迄居ヲ異ニシアリタリ然レモ戶籍ヲ異ニセシニ非ス然ルニ父長右衛門死去僅カ前三男長八人ヲ家督相續人ナリトシテ其筋ニ届出アリ其届書タル數多親族ノ内壹人モ之ニ連署セシモノナキノミナラス全ク他人ナル池上泉ヲ縁者ト偽リ署名セシメタルモノナレハ其成立不正ニ出タルヲ明瞭ナルヲ以テ之ヲ取消サント請求シ其證據トシテ甲號數證ヲ呈出セシモノナリ上告人ハ乙號數證ヲ擧テ被上告人長吉ハ父ト戶籍ヲ異ニシタレハ相續ノ權ナク且相續届出ノ真正ナル旨等種々拒辯シタリ

上告人ハ東京始審裁判所東京控訴裁判所審判共ニ敗訴シタリ

東京控訴裁判所終審判文左ノ如シ

東京始審裁判所ノ裁判ニ係ル家督相續届取消ノ控訴審理ヲ遂ル處本案ハ丑井長右衛門ノ二男長八ノ相續届ハ不正ニ成立タルモノナリトテ其取消ヲ長男ナル長吉及ヒ二男杉原萬兵衛二女丑井並及ケ等カ請求スル一件ナリ仍テ兩造ノ陳述ヲ證據ニ照シ左ノ如ク裁判ス  
 控訴人ニ於テ答辨人長吉ハ元治年間ヨリ別家シ既ニ某戶主タリト論證スト雖モ戶籍ヲ案スルニ田村町七番地丑井長右衛門ノ家族中長男丑井長吉トアリ而シテ其届書ニ朱線ヲ畫キ側ヲニ朱ヲ以テ同居籍ニアルト記セリ則チ長右衛門モ元治年度以來別居シアル長吉ヲ別家ノ戶主トハ看認メサリシニ由リ斯ク登記スルニ至リシモノト推測シ得ラル而シテ長



吉愛宕下町ノ戸籍ヲ見レハ獨立一家ノ戸主ノ如クナレモ是畢竟明治五年編製ノ時現住ノ者ニ就キ編製セシ杜撰ノ文書ナラサレハ奚ソ斯ノ如ク重複ス可ケンヤ而シテ明治七年中長右衛門ハ長吉ノ一家族ヲ呼迎ヘ爾來寢食ヲ共ニセシ景狀ト長右衛門死ニ瀕シ故ラニ長ハニ相續ノ讓狀ヲ與ヘ其他ノ子女ヘ各應分ノ記念金ヲ分チ尋常ノ相續届ナレハ親類ノ連署ヲ要セサルモノナルニ池上泉ヲ以テ親族ト偽稱シ連署ノ上相續ヲ届出タル顛末ニ就キ之ヲ推考スルニ長吉ハ既ニ分籍セシモノニ非ルヲ却テ倍々明カナリ是則當聽カ牴觸スル戸籍ヲハ錯誤ト爲シ長吉ノ申供ヲ事實ト看認ル所以ナリ而シテ長右衛門生前ノ念慮如何ヲ證據ニ照シ考フルニ雙方ニ於テ非難セサル長右衛門自筆ノ讓狀ニ（其方ヘ家督相續相讓リ云々）トアリ又長右衛門生前相續ノ届書ヲ其筋ヘ差出シ其他妻子ヘ記念分ケノ證據等アルヲ見レハ長右衛門ニ於テハ三男長八ヘ家督ヲ讓ラントセシ念慮ナルヲ推認スルニ餘リアリトス然リト雖モ嫡子ヲ廢シ三男ヲ立ントスルハ容易ナラサル事柄ナレハ假令長右衛門存在スルモ廢スヘキ理由アラハ親族協議ノ上其筋ヘ申立ヘキ筈ナリ然則更ニ一步ヲ進メ茲ニ廢嫡ノ理由アリヤ否ヲ推究セサル可カラズ之ヲ審案スルニ長吉身上瑕瑾ノ證據トシテ呈出スル彼ノ懲治監入願書ニ不孝大酒亂暴等ノ所行ヲ認メアレモ元來此喧嘩ハ家翁長八ヲ偏愛シ相續其矩ヲ超タル餘憤ヲ酒氣ニ泄ラセシノ爭論ニ起由スト看認得ヘケレハ該書ヲ以テ長吉ヲ廢ス可キ材料ト爲スニ足ラズ之ヲ他ニシテハ何モ證據アルヲナシ證據ナケレハ長吉ハ無瑕ノ人ト看認サルヲ得サル可シ然ルニ親類協議ヲ遂ケシ蹤跡ナク且其相續届ハ親族ニモアラサル人ヲ親族ト偽リ連署セシメシハ則チ法ニ違フ所ノモノ

ナレハ其効ナキヤ論ヲ竣サルナリ尤モ控訴人ニ於テ答辨人カ既ニ長八ノ相續ヲ看認アル旨申立レモ其證中一モ長吉ノ自署調印セシモノアルヲ見サレハ其信否ハ唯一類ノ印ニ過キス抑モ如此一家内紛爭ノ裁判ハ必ラスシモ一照ノ印影ニ依據ス可キモノナラス仍テ其證據ハ確證ト看認メ難シ

判決

始審判決ノ通りタル可シ

上告人ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告スル主點左ノ如シ

- 一 原判官ハ乙第五號證ノ一甲第一戸籍ニ被上告人ハ亡父長右衛門ノ「同居籍ニアリ」ト記載アルヲ採テ別家ノ戸主ニ非ストサレタルモ右ハ五號證ノ二ニ於テ別戸主トナリタルヲ判然ナレハ採證ヲ誤ラレタリトノ事
- 一 乙第五號證ノ一ハ被上告人ノ名前ヲ删除シテ乙第五號證ノ二ノ如ク改正セシモノナレハ乙第五號證ノ一ハ反故同様ノモノナリ然ルニ原判官ハ此反故同様ノモノト甲第三號證愛宕下戸籍ト重複ナリトシ加之已ニ删除シアル乙第五號證ノ一戸籍ヲ正當ナリトシ完全ナル甲第三號證ヲ重複不正トサレシハ不當ナリトノ事
- 一 被上告長吉ハ上告人相續及ヒ長右衛門死後ニ至リ田村町二番地ニ其戸籍ヲ移シタレハ上告人カ亡長右衛門ノ跡相續ヲ認メタルヲ明了ナルニ之ニ説明ヲ與ヘサリシハ不當ナリトノ事

明治十七年十一月五日追伸書ヲ以テ上告狀ノ意ヲ敷衍シ且第三主點ノ趣旨ヲ加ヘタリ



大審院ニ於テ辨明判決スルヲ左ノ如シ

一一三

右主點ト上告狀追伸書及原裁判書類ヲ参照スルニ第一第二主點中ニ乙第五號證ノ二ト稱スルモノハ原裁判所ニ於テ上告人カ提出セシモノニ非ス被上告人カ提出セシ甲第二號證ニ該ルモノナリ抑詞訟人カ自己ノ權利ヲ主張スル爲ニ提出スル各自ノ證據物ノ如キハ其原審廷ニ呈セサルモノヲ以テ上告ノ材料トシ原裁判ノ當否ヲ論スルヲ得サルハ無論ナルモ本件ニ付上告人ハ原審廷ニ於テ被上告人ノ證據即チ甲二三號證ヲ取テ以テ己レヲ利スルノ證トセシモノナルヲ以テ前顯普通利己ノ證據物ト同視スヘカラサルモノトス依テ右兩主點ニ付之ヲ按スルニ原判官カ乙第五號證<sup>甲第一</sup>號證<sup>同</sup>ノ明文ヲ掲テ被上告長吉カ元治年度來別家ノ戸主トナリシモノニ非ストシテ甲第三號證ト重複スル理由ヲ示シ又乙第五號證ノ二<sup>甲第二</sup>號證<sup>同</sup>ハ是亦明文通り明治七年中被上告人長吉カ其父長右衛門ト同居セシ證ナリトセシニ對シ上告人ハ乙第五號證ハ誤記ニ出タルニ依リ之ヲ改テ乙第五號證ノ二トナセシモノナリト死者長右衛門ノ心意ヲ追想シテ論スル所アルモ原裁判所ニ於テ申立タルニモ非スシテ全ク自己ノ臆測ニ過サレハ以テ上告ノ因由トナスヲ得サルモノトス

第三主點ハ乙第五號證ノ二ノ書入ニ「十六年五月十四日田村七ヨリ入」トアルヲ摘ミテ被上告人カ長右衛門死後別籍セシモノナリト論スレモ乙第五號證長右衛門ノ本籍中被上告人長吉ハ「同居籍ニアル」トノ記載消滅セサル間ハ被上告人カ所々ニ轉住セシモ其本籍ハ動かサルモノト論セサルヲ得サルモノトス然レハ原判官カ此等ノ説明ヲ與ヘサリシトテ敢テ不當トナスヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理ニ及ハサルモノトス

○第五百六十號

地所取戻一件上告ノ判文(明治十七年二月七日上告  
全(年十一月廿六日申渡)

神奈川縣橫濱區尾上町一丁目

六番地平民

上告人

八田 親 清

東京府京橋區元數寄屋町四丁

目一番地寄留愛媛縣士族

右代言人

河 村 訥

東京府京橋區富島町七番地平民

被上告人

太田 源 左衛門

東京府京橋區銀坐二丁目九番

地寄留神奈川縣平民

右代言人

太 田 英 壽

上告ノ要領

本訴ハ被上告ニ於テ上告人カ明治八年二月中丙第一號證ノ如ク被上告ヨリ買受タル地所  
四拾八坪六合九勺ノ内貳拾三坪四合九勺三才ハ全ク該證書ニ被上告代理トシテ記名セル鈴

一一三



木彦造<sup>當時</sup>ナル者ノ擅斷ニ出テ決シテ被上告ノ委託承認シテ成立タル賣買ニアラストナシ該地ハ已ニ同年九月中乙第一號證ノ如ク上告人ヨリ長谷川龜樂<sup>始審</sup>被上告ナル者ヘ轉賣ナシタル處同人ニ於テ其地所ヘハ直ニ一體ニ家建ヲ爲シ顯然其地形ヲ變換ナシタルコトヲ被上告ハ現在之ヲ認視シナカラ爾來九ヶ年ニ跨ル其間毫モ異議ヲ述ヘタルコトアラサルニモ拘ハラズ昨明治十六年一月ニ及ヒ突然該地ノ現所有者タル長谷川龜樂ニ係リ而シテ第一號證ニテ賣買ノ成立タル地所中ヨリ貳拾三坪餘ノミ分離シテ之カ取戻ヲ訟求スト雖モ元來被上告訟求ノ地所タル均ク是丙第一號證ニテ賣買ノ成立タルモノニシテ被上告モ亦其一部分ノ賣買ハ之ヲ承認シナカラ特ニ其内ヨリ分離シテ貳拾三坪餘ノ地所ノミ取戻サント欲スルハ頗ル論理ニ抵觸シタル不當ノ訴旨ナルコトハ不俟論右丙第一號證ノ被上告代理トシテ記名セル鈴木彦造ナル者ハ當時該地ヲ賣買スルノ權限ヲ有シ居タレハコソ所管ノ公證官吏ニ於テモ異議ナク之ニ公證ヲ與ヘタルモノニシテ固ヨリ該地ヲ買受タル上告者ハ凡ソ不動産ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ方リ其事ノ確實真正ナルコトヲ保スルハ單ニ所管公證官吏ノ公證ニアリト信スルカ故ニ上告者ハ安堵シテ之ヲ買受ケ乙第一號證ノ如ク是又公正ノ手續ヲ履ミタル上轉賣ナシタルヨリ以後數多ノ年月ヲ經タルモ被上告ニ於テハ之ニ對シ更ニ何等ノ異議故障ヲ唱ヘタルコトアラサルモノハ畢竟是レ丙第一號證ノ賣買ハ總テ被上告カ承諾上鈴木彦造ナル者ヲシテ代理セシメタル事柄ナルヲ以テナリ今假ニ丙第一號證ノ賣買ハ其當初被上告ノ承諾セサル事柄ナリト定ムルモ既ニ該證ニ於テ成立タル賣買ノ内其一部分ヲ承認スル限リハ併セテ其全部モ亦之ヲ承認シタルモノトナスハ相當ナル

モ其内一部分ヲ分離シテ之ヲ承諾セストナスヲ得ス且夫該證書ハ上文開陳スル如ク公證ヲ經タル上成立タルモノニシテ他ノ相對上成立タル私約ノ證書トハ別ナリ故ニ該證ノ賣買ハ其實鈴木彦造ナル者カ被上告所有ノ地所ヲ冒認セシトカ又ハ橫領シタルトカニ原因シテ成立チ其公證官吏ヲ詐欺シテ之ヲ受タルモノナルトノ事實明白ニシテ該公證ノ無効ニ歸セサル内ハ決シテ該證書ノ賣買ハ更ニ被上告ノ承諾セサルモノ即チ鈴木彦造ノ擅斷ニ出タルモノトナシ今妄リニ之ヲ無効ニ屬セシムルコトヲ得サルハ勿論ナルニ原裁判所ハ「假令丙第一號證ノ如ク公正ノ手續ヲ經テ其賣買ヲ了スルモノ云々原告<sup>即チ上告人ナリ</sup>ニ於テ之カ舉證ヲ爲スニ非サレハ其賣買ハ有効ナリト認ムルニ由ナシ」トシテ未タ該賣買ハ鈴木彦造カ不正ノ所爲上ヨリ成立チ從テ其公證モ無効ニ歸セリトノ事實モ發顯セサルニ容易ク公正ノ手續ヲ經テ成立タル丙第一號證賣買ノ一部分ヲ無効ナリトセラレタルハ甚タ不法ノ裁判ナルノミナラス殊ニ上告者ハ原裁判所ニ向ヒ若シ丙第一號證賣買ノ事ニ付虛實如何ノ疑ヒヲ抱カル、ニ於テハ現ニ該證書ハ公證ヲ與ヘタル其際ノ公證官吏島田豐寛小野光景ハ申迄モ無之其後該事務ヲ繼襲セシ現時ノ公證官吏ヲモ喚徴ノ上事實審究アラントヲ請願<sup>上告者カ原裁判所ヘ差出シタル十六年十月十七日附辨明書ノ末文御參照ヲ乞フ</sup>シタルニ原裁判所ハ默シテ此請願ヲ容レナカラ更ニ其審究ヲモ爲サスシテ直ニ丙第一號證ノ賣買ヲ無効<sup>尤モ被上告訟求ナリトセラレタルハ未タ審理ヲ盡サレサル不法ノ裁判ト云フヘシ</sup>又原裁判所ハ「被告<sup>被上告人ナリ</sup>ノ留守委託人ハ當時千賀源兵衛ニシテ丙第一號證ニ記載ノ鈴木彦造ニ非サルコトハ其甲第四號證ノ如クナレハ云々且其丙第二號證ニ親戚等ノ調印アルモ親戚等ニ於テハ被告ノ留守中



該證ニ記載ノ四拾八坪六合九勺ノ地所内ニ本訴論地ノ孕マリ居ルコトヲ承認セシ他ノ抵當地所ト同視シ之ニ調印セシヤモ知ルヘカラス」トシテ上告丙第一號證ニ被上告ノ代理タリシモノハ鈴木彦造ニシテ千賀源兵衛ニアラサルヲ以テ被上告ノ之ヲ承認セサルハ相當ナルカ如ク判決セラレタレト上告丙第二號證ニ於テ被上告カ親戚ノ調印セル内ニハ被上告ノ自ラ留守委託人ト定メタル千賀源兵衛モ亦調印セル上ハ丙第一號證賣買ノ事ハ同人モ亦之ヲ承認セルヤ明瞭ナリトス若シ原裁判所判決ノ如ク丙第二號證ニハ論地ノ孕マリ居ルコトヲ被上告親戚等ノ承認セシテ之ニ調印セシヤモ知ルヘカラストシテ丙第二號證ニ千賀源兵衛等ノ調印セシハ丙第一號證ノ爲メノミニアラストスルハ宜シク丙第二號證ニ調印セシ千賀源兵衛以下ノ者ヲ喚徴シテ同人等カ該證ニ調印セシハ全ク論地ヲ以テ他ノ抵當地所ト同視シタルヤ否ヲモ審究シタル上ニアラスンハ更ニ其事實分明ナラサルヘキニ原裁判所ハ「他ノ抵當地所ト同視シ之ニ調印セシヤモ知ルヘカラス」ト疑ヲ措カレナカラ更ニ丙第二號證ニ調印ナシタル者ヲモ喚徴審究セラレザリシハ是又審理不盡ノ裁判ナリトス要スルニ上告丙第一號證ハ之ヲ上告丙第三四號證被上告ノ不在中鈴木彦造太田源助千賀源兵衛等ノ取扱フタル事柄ニシテ皆被上告ノ承認シテ毫モ異議ナキモノニ照スモ獨リ丙第一號證賣買ノ事ノミ之ヲ承認セストハ爲スヲ得ス然ルヲ原裁判所ハ右丙第三號證ハ被上告ノ旅行以前ニ自ラ授受シタルモノ丙第四號證ハ被上告ノ留守中太田源助千賀源兵衛カ差入タルモノトセラレタルハ頗ル右丙第三四號證ノ事實ニ反シタル不法ノ裁判ナリトス何トナレハ丙第三號證及ヒ丙第四號證ノ物件ハ共ニ被上告ノ所有ナリシモ

皆被上告ノ不在中上告者へ賣渡シタルモノナルニ更ニ被上告ノ異議ナキモノナレハ共ニ本訴ノ援證トナシ丙第一號證ノ賣買モ亦被上告ノ承認セシモノナルコトヲ證徴スルニ足レハナリ況ヤ丙第一號證ノ賣買地所即チ論地ハ被上告ニ於テ曾テ上告者へ引渡シアルヲ承認シ居ルコトハ之ヲ被上告甲第八號證ノ明文及ヒ被上告ノ自陳ニ照スモ亦明瞭ナルニ於テオヤ大審院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

本案ハ左ノ三點ヲ鑑査スルヲ必要トス

一 假令丙第一號證ノ如ク公正ノ手續ヲ經テ其實買ヲ了スルモ云々原告即チ上告ニ於テ之レカ學證ヲ爲スニ非サレハ其實買ハ有効ナリト認ムルニ由ナシト裁判セシハ不法ナリヤ否

一 丙第一號證ニ公證ヲ與ヘタル當時ノ公證官吏及ヒ事務ヲ繼襲シタル現今ノ公證官吏ヲ喚問セシテ裁判セシハ不法ナリヤ否

一 丙第二號證ニ親戚等ノ調印アルモ親戚等ニ於テハ被告ノ留守中該證ニ記載ノ四拾八坪六合九勺ノ地所内ニ本訴論地ノ孕マリ居ルコトヲ承認セシ他ノ抵當地所ト同視シ之ニ調印セシヤモ知ル可カラス」ト裁判セシハ不法ナリヤ否

第一點ヲ審案スルニ上告人ハ論地ヲ買受又轉賣セシ以後數多ノ年月ヲ經過シテ何等ノ故障ナカリシハ丙第一號證ノ賣買ハ被上告人カ承諾ナルヲ以テナリ又之ヲ承諾セサルモノト假定スルモ其内一部分ヲ承認シテ他ノ一部分ヲ分離シテ承諾セストナスヲ得スト論スルモ被上告人ニ於テハ論地ヲ他ノ理由ヲ以テ引渡シアルコトヲ承認シタリシコトハ甲第八號證ヲ以テ



徴ス可クシテ曾テ丙第一號證ノ内一部分ヲ承認シタリト陳述セシヲナク始終ノ論旨鈴木彦造ニ代理ヲ托シタルヲナシ故ニ丙第一號證ハ全ク効用ヲ爲ス可キモノニ非スト云フヲ以テシタルハ始審訴狀未項及明治十六年十二月十八日付追申書十六年十二月六日ノ口供等ニテ明白ナレハ被上告人カ丙第一號證ノ賣買ヲ承諾シ又ハ其一部分ノ承諾シタリト認定ス可キ筋ナク且戸長ノ公證ト雖モ誤謬ナキヲ保ス可カラサレハ單ニ戸長ノ公證アル而已ヲ以テ丙第一號證ノ賣買ハ鈴木彦造カ專斷ニ非サルヲ認ムルニ足ラサルニ因リ原裁判所カ原告人上告ニ於テ之カ舉證ヲ爲スニ非サレハ其賣買ハ有効ナリト認ムルニ由ナシト裁判セシハ敢テ不法ト爲スヲ得ス

第二點ヲ審案スルニ公證ノ事ハ既ニ前項ニ説明スルカ如ク而シテ上告人カ公證官吏ノ召喚ヲ求メタルハ之ヲ證スヘキ證據物アリト云ニ非サルニ因リ必スシモ之ヲ喚問セサル可カラサレ筋ニ非ス故ニ原裁判所カ之ヲ喚問セサリシヲ以テ不法ト爲スヲ得ス

第三點ヲ審案スルニ甲第八號證第三項ニ(抵當引渡ノ際證書面外ノ土地貳拾三坪四合九勺三才ヲ過渡セシ)番外第七號證ノ通リナリ此過渡ヲナセシハ將來決算ノ時差引スヘキヲ以テナリ云々)ト被上告人カ申立スルニ據レハ留主委托人千賀源兵衛カ丙第二號證ニ調印セシハ論地ヲ抵當地所ト同視シタルモノトハ看做シ難キニ似タリ且此ノ事實ニ付疑フ所アラハ千賀源兵衛ヲ喚問シテ充分ノ審理ヲ盡ス可キハ當然ノ筋ナルニ原裁判所ハ甲第八號證ニ對シ何等ノ判決ヲ下サス且千賀源兵衛ヲモ喚問セスシテ疑ヒノ語ヲ以テ證據ヲ排斥シタルハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ破毀シ相當ノ處置ヲナサシムル爲メ名古屋控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ

○第五百六十一號

越石德米請求一件上告ノ判文(明治十七年八月二日上告  
全 年十一月廿八日申渡)

大坂府攝津國島上郡西天川村

外十三ヶ村耕地地主總代

上告人

植 場 平

大坂府東區北濱町三丁目十一

番地士族

右代言人

脇 山 格 正

大坂府攝津國島下郡島飼八丁

村平民

今 井 權 七 郎

今 井 里 江

今 井 政 太 郎

關 彌 七

今 井 慶 十 郎

被上告人



同府同郡島村平民

被告上告人

田中庄治郎  
木下治三郎  
奥田基三郎

本件ハ越石德米請求ノ訴ニシテ被告上告者ノ起訴ニ係ルモノナリ今其訴旨ヲ要約スレハ被告上告第一二號證ノ契約ニ基キ越石德米ヲ請求スト云フニアリ而シテ上告者始終審共敗訴シタリ  
終審裁判ノ要旨ヲ約スレハ左ノ如シ

一本訴越石米ノ起因タル惡水疏通ノ起工ハ高槻藩ノ工事ニ係リ且上告村ノ渡シ來ル越石米モ高槻藩ヨリノ高引米ナルコトハ上告第一號其他諸證ニヨリ疑フヘカラサル事實ナリトス然レモ上告村カ高引ヲ受テ之ヲ被告上告者ニ渡スヤ其性質ヲ變シタルモノナレハ原告ノ存廢如何ハ被告上告者ノ關セサル所ナリ仍テ明治三年太政官布告ノ出ルヤ從前ノ下附米ヲ廢止セラレ其米額ハ更ニ上告者ノ辨償ニ歸スルヲ以テ須ラク被告上告者ヘ協議ヲ遂ケ布告ノ主旨ニ基キ相當ノ手當ヲ其筋ヘ請願スヘキ筈ナリ而ルヲ事茲ニ出テス上告者ニ於テ異議ナク之ヲ辨償シ該布告ヨリ明治十三年迄十ヶ年ノ久シキ履行シ來ルハ自ラ義務ノ免カル可カラサルヲ認メタルモノニテ其請願シ得ヘキ手當金ハ上告者カ拋棄セシモノト看做サ、ルヲ得ス又被告上告第三號證地面ハ上告第三號證ノ圖面ト番號符合セサルヲ以テ不正確ノモノナリト云モ當初敷地ニセシ被告上告第一號證ノ畝歩ト被告上告

第三號證ノ反別ト其惣高符合スル上ハ故障ヲ唱ル條理ナシ其他被告上告者カ起訴ノ手續ニ對シ不備ノ訴訟ナリト論辨スルモ被告上告者カ其耕地持主ノミヲ對手トシタルハ本訴義務耕地持主ヘ課出スヘキ道理ナルニヨリ之ヲ對手トシ又被告上告者八名ヨリ起訴シタルハ被告上告第一二號證結約者ノ振合ニ則トリ現任戸長ヲ主トシ土地所有者ノ内ヲ參加セシメタルナリトコトナレハ敢テ不當ニアラス良シヤ不當トスルモ始審廳ニ於テ答辨ノ際之ヲ争ヒ之カ豫審ノ裁決ヲ受ク可キモノナリ而ルニ始審ニ於テハ異議ナク本案ノ答辨ヲ爲シ既ニ之カ裁判ヲ受ケタル以上ハ今更其申分ハ不相立モノトスト云フニアリ上告者カ終審裁判ヲ不法トシテ破毀ヲ求ムル要領ハ左ノ如シ

第一條

本件ハ純然タル藩廳ノ潰地ニシテ已ニ明治三年高引被廢ト共ニ上告村ハ一粒ノ下附米ナク被告上告者ハ高引トナリシモノナリ然リ而シテ原裁判官モ上告者所論ノ如ク藩廳起工ノ越石米ナリト認メタル上ハ明治三年太政官布告ニ依リ被告上告第一二號ノ無効ニ屬シタルコト明瞭ナリ然シテ該公布但書ニハ他村ノ地所ヲ借地致シ下方相對ヲ以テ地代差出候分ニ限り從前ノ通ノ區別セラレタルモノニシテ上告者カ所争ノ越石米ニシテ然リトセハ此但書ニ因ルヘキナレモ各證據ニ依リ藩廳ノ開鑿高引米ヲ越シ送リタル藩廳ノ潰地ナルコトハ原裁判官已ニ信認セリ然ラハ該公布但書ニ關セサルコト明ニシテ其本文ニ因リ假令如何ナル私ノ契約アルモ藩廳開工ノ已ニ上告者カ借地シタルニ非ス又上告者カ地代差出シタルニ非ルヲ以テ各證據ノ如ク藩廳ヨリ高引米ヲ渡シタルナリ然ラハ本件ハ毫モ該公布但書



ニ因ルヘキ者ニアラス公布本文ニ因リ越石米ノ消滅ニ歸シタルモトス然ルヲ原裁判官ハ前段判文ニハ上告者所論ヲ採用シ以テ藩廳ノ起工ナリ藩廳ノ高引米ヲ渡シタル事實疑ヲ容レサル所ナリト云ヒナカラ被告第一二號證カ有効ナリトセラレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事

第二條

原判文ニ(人民相互則原被告カ私約ハ依然有効ノ者ニテ云々)トアリ原裁判官ハ被告第一號越石米ハ舊高槻藩ヨリ上告村ヘ高引トシテ下附セシ潰地米ナルコトヲ認メラレタルナリ然リ而シテ被告第一號人民互相ノ私約ハ有効ナリトハ實ニ明治三年公布及ヒ同四年民部省達ノ解釋ヲ誤リタルモノナラン被告第一號ハ藩廳ノ起工ヨリ生スル潰地米ヲ上告者藩廳ノ命令ニ因リ藩廳ニ代リ契約シタル者ナリ其工事米額等ハ藩廳ヨリ下附セラレタルナリ恰モ上告村ハ取次キニ過キサル事實ニシテ已ニ該井路敷潰地米ヲ廢サレタルニ其ノ井路敷潰地米ノ契約アルモ其主タル井路潰地米ハ法律ノ力ニ依リ被廢止タルニ何ソ從タル虛形ノ契約ニ効アル理アラランヤ然ルヲ只タニ私約ナルトテ有効ノ者ナリトノ裁判ハ不法ナリトノ事

第三條

原判文ニ(其控訴被告ヘ相渡シ來ルヤ其性質ヲ變更シ則控訴被告第一號證ノ契約ニ基ツキ代地或ハ借地ノ德米タル名義ヲ以テ授受セシモノナレハ云々)トアルモ舊藩廳ノ高引米ヲ直チニ被告上告ヘ相渡シ來リタルコトハ已ニ原裁判官ノ認ムル所ナリ然ルヲ茲ニ於テ其

性質ヲ變更シ云々ハ被告第一二號ハ舊藩廳ヨリ下附米ヲ變更シタルニアラス被告第一號越石證文ノ事トアリ又文中(今般從御公儀安威川廣井番田組惡水新規ニ安威川ヘ落申様ニ御地頭永井豐熊様ヨリ御普請被爲成下候ニ付云々)トアリ又被上告者カ明治十七年三月十一日口供ニモ舊藩ヨリ高引トセラレタルハ番田組村々公供ノ爲メ云々官ヨリ保護ヲ加ヘラレタル者ナリトアリテ舊藩下付米ヲ八丁村島村ヘ渡シタルコトハ原被告ノ認ムル所ナリ然ルニ原裁判官ハ何等ノ證據アリテ性質ヲ變更シタルトスルヤ未タ第一號證高引越石米ノ性質ヲ變更シタルヲ認ムル事實ナク又證憑ナシ借地ノ德米タル名義ニテ授受シタル云々等ニ至テモ曾テ原被問借地云々ノ言語アルヲ見ス未タアラサル原被ノ陳述外ヲ取り臆説ヲ以テ上告者カ借地云々トノ明言セル如ク空言ヲ以テ裁判シタルハ條理ニ違ヒシ不法ノ裁判ナリトノ事

第四條

原判文ニ(須ラク控訴被告ヘ協議ヲ遂ケ該布告主旨ニ基キ相當ノ手當ヲ其筋ヘ請願スヘキ筈ナリ云々)ト抑之レカ申立ヲ爲スヘキ者ハ上告者ニアリトスルカ將タ被告上告者ニアリトスルカヲ定ムルハ最も有用ノ事ト信ス夫レ越石米ヲ得ル地主即チ被告上告者カ其ノ申立ヲ爲スハ當然ナリトス何トナレハ其越石米所有者ヘ對シ官ヨリ下附米セラル、ノ公布アルニ何ソ其權利者タル地主ヲ除テ上告者カ爲ス可キノ條理ナカルヘシ凡ソ其利益ヲ得ントスル者其利益ヲ得ル方法ヲ盡スハ事理ノ當然ニシテ上告者ハ利害痛痒アラサル者ナリ上告者カ被告上告ヘ協議スルノ理由モナク又タ請願スルノ筋合ナカルヘシ然ルヲ該公布



ノ精神ヲ誤リ反對ナル上告者カ當時申立ヲ爲サス且被上告者へ協議ヲ遂ケサルハ不當ナリトノ裁判ハ不法ナリトノ事

第五條

原判文ニ(控訴被告カ潰地ニ貸與セリトスル控訴被告第三號證ノ地面ハ控訴原告第三號證ノ圖面ト番號ノ符合セサルヲ以テ不正確ノモノナリトスレトモ云々當初敷地ニセシ控訴被告第一號證ノ畝歩ト控訴被告第三號證ノ反別ト其ノ惣高符合スル上ハ故障ヲ唱ル條理ナシ)トアリ假リニ一步ヲ讓リ若シ被上告者言ノ如クスルモ凡ソ入領所得ノ權理ナル者ハ其ノ事物存在シテ初メテ生スル權理ナリ未タ事物ナクシテ權理ヲ生スヘキ道理アル可カラス良シ假リニ越石米請求スルノ道理アリトスルモ其主タル土地已ニアラサルニ何ソ德米ノ生スル條理ナカル可シ然ルニ此點ニ對シテハ被上告ハ反證ヲ舉ケヌ又番號ノ相違アルモ現地ナリト見ルヘキ事實ナキニ只々惣高符合スルヲ以テ故障ヲ唱ル條理ナシトノ裁判ハ是又理由ヲ明示セサル條理ニ背反シタル裁判トストノ事

第六條

抑モ民事上起訴ノ順序ハ明治六年貳百四拾六號公布訴答文例ニ依準セサルヲ得サルハ多辨ヲ要セス被上告者カ初當始審廷ニ起訴スルヤ權七郎外七名一己ノ資格ヲ以テ西天川村外十三ヶ村耕地持主衆中ト爲シ出訴セリ凡ソ無形人ヲ除クノ外ハ其人名ヲ掲載シ出訴セサルヲ得サルハ訴答文例ニ因リ明ナリ然ルヲ斯ク不備ナル訴訟手續ナルニ原裁判官ハ本訴義務ハ耕地持主一般ニ課出ス可キ者ナルニ付起訴セシハ至當ナリトシテ此ノ如キ

不備ナル訴訟ヲ採用シ以テ耕地持主ノミ其義務アリトセラレタル裁判ハ法律ニ背反シタルモノナリトス

第七條

被上告者ハ前條陳述ノ如キ十四ヶ村ト貳ヶ村ノ盟約書ヲ以テ該約定ノ履行ヲ求ムルニアリ然ラハ八丁村島村人民舉ケテ起訴セサルヲ得ス單獨ナル僅々八名カ二村ノ盟約證ヲ保持シ該約定ノ履行ヲ求ントスルハ之レ又訴訟法ニ反背シタル不備ノ訴訟ニシテ成立ツヘキ訴訟ニアラス何トナレハ其契約ノ目的タル人ヲ異ニシタルヲ以テナリ故ニ被上告第一號證ハ僅々八名カ保持スヘキ權利ナキ者ナリ斯ク權理ナキ者ヲ以テ權利ナキ人カ起訴スルモ之ニ應スルノ義務ナキヲ又明ナリ然ルヲ原裁判所ハ上告者カ始審廳ニ於テ異議ナク本案ニ答辨セシ上ハ今更申分不相立トセラレタルニ假令始審ニ於テ申分ノ洩ル、アルモ正理ナリ條理ナリト信スルノ條件アルニ於テハ之カ申立ヲ控訴ニ於テ成ス上ハ其當否如何ヲ裁判アル可キハ當然ナリ若シ原裁判ノ如ク始審ニ於テ申立ナキノ條件ハ控訴ニ於テ申立ノ効ナキトセハ不幸之ヨリ大ナルハナシ且今日迄ノ習慣ニ於テ始審廳ニ申洩シ或ハ控訴ニ於テ新ナル申立及ヒ舉證ヲ爲スモ採用セラレ其當否ヲ裁判セラル、ハ當然ノ事トス然ルニ本件ニ限り今更其申分不相立トハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ト信ストノ事本院ニ於テ辨明及判決ヲ與フル左ノ如シ

第一條

上告要旨第一條ヲ案スルニ被上告第一號證惡水疏通ノ工事カ舊高槻藩ノ起工ニ係ル事ハ原



被雙方ノ證據書ニ依リ判明シ且之ニヨリ被上告者カ受取り來ル米額ハ上告者カ舊高槻藩ヨリ高引トナリタル米額ナリシ事ハ上告第一號其他ノ證據ニヨリ明ヲカナルニヨリ明治二年太政官布告及明治四年民部省達ニヨリ上告村ノ高引ヲ廢シ被上告村ニ高内引ヲ申付ラレタル際原被遂協議相當御手當ヲ出願セハ該公布ニヨリ處分アルヘキハ當然ナルカ如シ然ルニ當時上告者モ被上告者モ之カ請願ヲ爲サハルノミナラス被上告第二號證ノ如キモノヲ授受シテ明治十三年マテ履行シタリシ上告者ハ被上告第一號證ハ右公布ト同時ニ無効トナリタルニヨリ御手當請願等ハ關係コレナク當時之ヲ願ハサリシハ被上告者ノ越度ナルヘシ上告者カ右公布後ニ爲タル事跡ハ錯誤ナリト申立ルモ被上告第一號證米額ノ舊高槻藩高引米ヲ以テ仕送リタル事跡ハ今般ノ審理ニヨリ初テ知り得タルモノニテ元來原被告間ノ契約ナルヲ其明文上實ニ判然タルモノナレハ右請願セサルヲ以テ被上告者ノ越度ナリト云フ得サルモノトス如何トナレハ被上告第一號證ハ上告村利益ノ爲メ舊高槻藩ノ普請ヲ蒙リタル處之カ爲メ被上告村ノ地所潰地トナリタルニヨリ代地ヲ渡セハ遠隔故ニ相對ヲ以テ越石ニ定ムトノ旨趣ニシテ他ニ高槻藩ヨリノ潰地代米ヲ取次ク旨意ナリト看ルヘキ廉毫モコレナキナレハ上告村カ高槻藩ヨリノ高引米ヲ仕送リタル事實ハ全ク上告村内輪限リノ事柄ニシテ被上告者ノ曾テ關リ知ラサル所ナルヲ以テナリ左スレハ上告村ヨリ右ノ事實ヲ證明シテ協議及ハサル限リハ被上告者カ明治三年太政官布告但書ニ記載セル如ク下方相對ノ貸借トスルハ當然ナルニヨリ原裁判所ニ於テ人民相對ノ分ハ從前ノ通リト有之云々其控訴被告ヘ相渡シ來ルヤ其性質ヲ變更シ云々須ラク控訴被告ヘ協議ヲ遂ケ該公布ノ主旨ニ基キ相當ノ手

當ヲ其筋ヘ請願スヘキ筈ナリ然ルヲ事茲ニ出ス云々其請願シ得ヘキ手當金ハ控訴原告カ拋棄セシモノト看做サハルヲ得スト言渡シタルハ當然ノ裁判ナリトス

但同第二條第三條第四條ハ本文辨明ニヨリ了解シ得ヘキニ付別ニ辨明セス而シテ原判文ニ借地ノ德米タル名義云々ト言渡シタルハ被上告第一號證契約ノ旨趣ヲ解シタルモノニテ原被告ノ申立ニヨリタルモノニアラスト心得ヘシ

第二條

同第五條ヲ案スルニ被上告第三號證地券ノ番號カ上告第三號證一筆限地圖帳ノ番號ニ符合セサルヲ以テ被上告第三號證ヲ不正確ナリト爲シ因テ被上告第一號證ノ潰地敷不足スル如ク論告スレモ右番號ノ符合セサルハ耕地ノ内幾干ヲ分割シタルニヨルトノ事ナレハ之ヲ以テ潰地敷不足シタル證據トナシカタクノミナラス要スルニ原裁判所ノ事實認定ヲ非難スルモノナルニヨリ以テ上告ノ原由トナスニ足ラサルモノトス

第三條

同第六條第七條ヲ案スルニ被上告第一二號證ハ村ト村トノ契約ナルニヨリ村民ヨリ村民ニ係リ起訴スヘキニ被上告者ハ七名ニテ上告者ヲ耕地持主トシ其ノ名ヲ掲記セサリシハ訴答文例并ニ條理ニ戻ルモノナリト云ニアレモ原判文ニ示セル如キ事實ニテ互ニ本案ノ辨論ヲ爲シ實際上毫モ差支コレナキ以上ハ破毀スヘキ限ニアラストス

判決

右條々ノ理由ナルニヨリ本上告ハ受理セサルモノナリ



○第五百六十二號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十七年八月一日上告  
全 年十一月廿八日申渡)

一三八

茨城縣常陸國東茨城郡水戸上  
市楓小路土族三宅八三郎代言  
人東京府日本橋區上槇町四番  
地寄留茨城縣平民

上告人

岡野寬

茨城縣常陸國那珂郡野口村土族

被告上告人

大澤當

本件起訴者ハ上告人ナリ其訴旨タル甲第一號證ノ貸金殘額ヲ請求スルモノナリ  
被告上告人ハ甲第一號證ニ對シテハ別件三號(即チ次ノ第五百六十三號)ノ口ト外二口ノ借用金  
ヲ合シテ數度ニ返済シタリ今此精算ヲ爲セハ却テ過剩金アルニ依リ之ヲ反求セント云フニ  
在リ

上告人ハ始審ニ於テハ直者トナリシモ終審ニ於テハ曲者トナリタリ  
水戸始審裁判所終審ノ裁判左ノ如シ

被告上告人ハ乙第一號證第一項ハ長山孝次郎外一名ヘノ貸金八拾圓ノ抵當地二筆ヲ除キ新  
規證書ニ改ムルニ際シ其元詰金ニ第二項ハ右貸金ノ利足ヲ年一割ニ減シ其五ヶ月分トシ

テ受取第三項ハ右貸金其他六百貳拾圓本金ハ孝次郎等ニ關セサルニ對シタル飛脚賃三圓  
之ヲ合シ七百圓ト云フ五拾八錢三厘ト外ニ計算ノ適セサルモ六百貳拾圓ノ利足ヲ年六朱ニ勘辨シ其六ヶ月分ニ  
受取リタルモノニシテ乙番外證五拾貳圓五拾錢ノ受取書ハ負債主ノ請求ニ依リ乙第一號  
證金額ノ内飛脚賃ニ係ル三圓五拾八錢三厘ヲ除キ二重ニ交付シタルモノナル旨陳供スル  
ト雖モ孝次郎等ニ於テ利足ノ勘辨ヲ受ケタルコトアラザル旨原告ニ對シテ保證シ原註ニ控  
訴四十八  
號ノ件ニ係ルトアリテ即  
殊ニ乙第一號證ニハ明治十二年ト確然記載シアルヲ以明治十三  
本院三百五十三號ニ當ル年六月中ノ受取ナリト爲スヲ得ヌ又乙番外證ハ明治十二年五月ノ成立ニシテ金五拾貳圓  
五拾錢右ハ明治十一年十二月中門井村下小瀬村那珂村三ヶ村ヘ金七百圓御用候元ノ利金  
儲十二年十二月ヨリ本年五月迄ノ分悉皆受取トアリテ其五拾貳圓五拾錢ハ七百圓ニ對スル  
一割五分ノ六月分ノ利足ニ相當シ年一割五歩ノ定メナリトノ被告陳供ニ符合スルヲ以該  
七百圓口ニ對シテハ明治十三年五月迄元詰金ノアラサリシコト明カナリ故ニ乙第一號證ノ  
金員ト乙番外證ノ金員ハ同一ノモノヲ二重ニ證書ヲ交付セリトノ被告陳供ハ採用スルヲ  
得ヌ因テ乙第一號證ノ金員ハ控訴四十八號ノ件即石川彌惣次外十七名ヘノ貸金五拾圓ニ  
對スル受取書ナリト做サ、ルヲ得ヌ而シテ乙第二號證ノ内六圓五拾五錢五厘ハ該五拾圓ノ  
貸金ニ對シ受取リタリトハ被告ノ自陳スル所ナルニ依リ乙第二號證ノ内六圓貳拾壹錢三  
厘ト明治十三年十月九日受取リタル九圓ハ本訴貳拾圓ノ貸金ニ對シタルモノニシテ乙第  
三號證ニ右五拾圓ノ金額ヲ掲載シアルカ如キハ當時數口ノ貸金ニ對シ混同シテ金員ヲ受  
取置キ其精算ヲ遂ケサリシニ因ルモノナリト認定ス前顯ノ金員ト被告カ本訴貸金ニ對シ

一三九



受取リタル旨自陳スル金額拾貳圓三拾三錢三厘トヲ合計スルモハ貳拾七圓五拾四錢六厘ニシテ貸金ノ元利金ニ超過スルニ付被告ノ請求ハ相立タストノ事  
右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル主點左ノ如シ

一乙第二號證金圓ノ内貳圓三拾三錢ハ本訴貸金ノ内ニ請取タリト上告人ハ申立置シニ原判官ハ該證ノ内六圓貳拾壹錢三厘ヲ本訴貸金ニ對シ受取タルモノトサレシハ不當ナリトノ事

一乙第一二三號證中改竄加筆アルヲ縷々陳供セシニ原判官カ之ヲ不問ニ措レシハ不當ナリトノ事

明治十七年十月廿四日上申書ヲ以テ乙第一號乃至第三號證改竄加筆ノ點ニ付キ原裁判所ヘ申立置キシ廉ヲ指示シタリ

大審院ニ於テ辨明並ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

右第一主點ヲ按スルニ上告人ハ乙第二號證ノ内貳圓三拾三錢ハ本訴貳拾圓口貸金ノ内ニ受取リタリト申立置キシニ原判官ハ該證ノ内六圓貳拾壹錢三厘ヲ本訴貸金ニ對シ受取リタリトサレシハ不當ナリト云フモ上告人カ其六圓貳拾壹錢三厘ヲ連帶件五拾圓口ニ對シ受取リタリト自陳スル該五拾圓口ニ對シテハ連帶件ニテ辨明セシ如ク原判官ハ已ニ乙第一號ノ金員ト上告人カ自認スル六圓五拾五錢五厘トヲ以テ完済シタルニ依リ右六圓貳拾壹錢三厘ハ五拾圓口ニ對シ受取ルヘキ道理ナキヲ説明シタルモノナリ又上告人カ五拾圓口ノ請求ヲナスニ際リ最初ヨリ右六圓貳拾壹錢三厘ヲ其内ヨリ差引カサリシ等ノ事實アルニ依リ原判

官ハ本訴貸金ニ對シ受取リタリトナセシモノナレハ右上告ヲ以テ破毀ヲ求ムル因由ト爲スヲ得サルモノトス

第二主點ト上申書ノ趣ハ連帶件第二項ノ辨明ニテ了解ス可シ  
右ノ筋合ナルニ依リ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百六十三號  
貸金催促一件上告ノ判文  
(明治十七年八月一日上告  
年十一月廿八日申渡)

- 茨城縣常陸國東茨城郡水戸上
- 市楓小路土族三宅八三郎代官
- 人東京府日本橋區上槇町四番
- 地寄留茨城縣平民
- 岡野 寬
- 茨城縣常陸國那珂郡野口村平
- 民

被上告人 石川 彌惣治  
外五名

本件起訴者ハ上告人ナリ其訴旨タル甲第一號證貸金ノ殘額ヲ請求スルモノナリ  
被上告人答辨ノ要旨ハ右請求金額ハ乙第一號乃至第三號證ノ如ク已ニ返済シタルモノナリト拒絕セリ



上告人ハ始審ニ於テハ直者トナリシモ終審ニ於テハ曲者トナリタリ  
水戸始審裁判所終審裁判ノ要領左ノ如シ

被告<sup>上告</sup>人ハ乙第一號證第一項ノ金員ハ長山孝次郎外一名ヘノ貸金八拾圓ノ抵當地二筆ヲ  
除キ新規證書ニ改ムルニ際シ其元詰金ニ第二項ハ右貸金ノ利足ヲ年一割ニ減シ其五ヶ月  
分ニ受取第三項ハ右貸金其他六百貳拾圓<sup>本金ハ孝次郎等ニ關セサレモ</sup>之ヲ合シテ七百圓口ト云フニ對シタル飛脚賃  
三圓五拾八錢三厘ト計算上適セサルモ六百貳拾圓ノ利足ヲ年六朱ニ勘辨シ其六ヶ月分ニ  
受取タルモノニシテ乙番外證五拾貳圓五拾錢ノ受取書ハ負債主ノ求メニ依リ乙第一號證  
金額ノ内飛脚賃ニ係ル三圓五拾八錢三厘ヲ除キ二重ニ交付シタルモノナル旨陳供スルト  
雖モ孝次郎等ニ於テ利足ノ勘辨ヲ受ケタルヲアラサル旨原告<sup>被告</sup>人ニ對シ保證スル所ニシ  
テ殊ニ乙第一號證ニハ明治十二年ト確然記載シアルヲ以テ明治十三年六月中ノ受取ナリ  
ト爲スヲ得ス又乙番外證ハ明治十三年五月ノ成立ニシテ金五拾貳圓五拾錢右ハ明治十  
一年十二月中門井村下小瀬村那珂村三ヶ村ヘ金七百圓御用候<sup>元</sup>ノ利金十二年十二月ヨリ本  
年五月迄ノ分悉皆受取トアリテ其五拾貳圓五拾錢ハ七百圓ニ對スル一割五歩ノ六月分ノ  
利足ニ相當シ年一割五歩ノ定メナリトノ被告陳供ニ符合スルヲ以テ該七百圓口ニ對シテ  
ハ明治十三年五月迄元詰金ノアラサリシヲ明カナリ故ニ乙第一號證ノ金員ト乙番外證ノ  
金員ハ同一ノモノヲ二重ニ受取書ヲ交付セリトノ被告陳供ハ採用スルヲ得ス因テ乙第一  
號證ノ金員ハ本訴五拾圓ノ貸金ニ對シ受取タルモノト認定ス而シテ乙第二號證ノ内六圓五  
拾五錢五厘ハ本訴貸金ニ對シ受取タルモノナレハ本訴ノ元利金ハ當時全ク皆濟ニ相成タ

ルモノニシテ乙第三號證ニ本訴ノ金員ヲ掲載シアルハ數口ノ貸金ニ對シタル返済金ヲ混  
同シテ受取置キ精算ヲ遂ケサリシカ故ナリトス依テ被告請求ハ相立難シトノ事  
右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル主點左ノ如シ

第一項 原判官カ本訴貸金ニ對シ乙第一號證ヲ以テ義務ヲ盡了シタルモノトサレタルハ  
不當ナリ何トナレハ乙第一號證ハ左ノ理由アリテ本訴貸金ニ關係ナキヲ以テナリ

理由

- 一 乙第一號證中ニ本訴貸金<sup>即甲第一號證</sup>ヲ受取タリトノ明文ナキ事
  - 一 若シ乙第一號證ニテ本訴貸金ヲ拂ヒ遂ケシモノナレハ被告上告人カ右貸金ニ對シ拂入  
タル證ナリトテ別ニ乙第二三號證ヲ提供スルニ及ハサルニ之ヲ提供セシニ依レハ乙  
一號證ハ本訴貸金ニ關係ナキヲ判然タリ
  - 一 果シテ乙第一號證ヲ以テ本訴貸金ヲ完済セシモノナレハ甲第一號證即借金證ヲ取戻  
スカ或ハ該證ヲ後日返戻ストカノ證文ヲ被告上告人ニ於テ受領シ置ヘキニ都テ其義ナ  
キハ乙一號證ノ本訴貸金ニ關係ナキ所以ナリ
  - 一 乙一號證ヲ以テ甲第一號證貸金完済ナラサルコトハ甲第二四號兩號證ヲ以テ判然ナリ
- 第二項 乙二三號證共改竄加筆アルコトヲ論争セシニ何等ノ說明ナキハ不當ナリトノ事  
明治十七年十月廿四日上申書ヲ以テ乙第一號乃至第三號證改竄加筆ノ點ニ付テハ原裁判所ヘ  
辨解書等ヲ提出シ置キタル月日等ヲ申立タリ  
大審院ニ於テ辨明並ニ判決ヲ與フルコト左ノ如シ



右主點ヲ按スルニ上告人カ其第一項ニ於テ乙第一號證ハ本訴ニ關係ナシトスル理由ノ第一點タル乙第一號證中ニ本訴貸金ヲ受取リタリトノ明文ナシトテ非難スレモ元來上告人ノ主論ハ乙第一號證ノ金員ハ明治十二年六月中七百圓口ニ受取リタルモノニテ乙番外證ハ右乙第一號證第一項及ヒ第三項ノ分ノ受取ヲ二重ニ交附シタリト云フモノナレハ即原判官ハ之ニ對シ長山孝次郎等ノ證言ト乙第一號證月日ノ明治十二年六月廿日ト確然記載アル事並ニ番外證ノ明文等ニ依據シテ該七百圓口ニ對シテハ明治十二年五月十八日迄ハ其利金ノミヲ差入タルコトアルモ元金ノ返入アラサルコトヲ說明セシモノナリ已ニ如此乙第一號證ノ金員ハ七百圓口ニ返入セシトノ見ルヘキモノナキ以上ハ道理ニ於テ原判文說明ノ如ク矢張り本訴五拾圓口ニ返入セシモノト認ムル外ナシ左スレハ上告人ノ論スル所ハ乙第一號證ノ解釋ニ付原判官ト意見ヲ異ニスト云フ迄ニテ固ヨリ破毀スヘキ理由無之モノトス

理由ノ第二點タル上告人ニ於テ若シ本訴貸金ハ乙第一號證ニテ拂ヒ遂ケシモノナレハ別ニ乙第二三號證ヲ提供スルニ及ハサル旨論難スレモ被上告人ハ乙第一號證ノミヲ以テ皆濟シタリトナセシニアラスシテ該證ノ金員ト上告人カ本訴貸金ニ受取リタリト自認スル乙第二號證ノ内六圓五拾五錢五厘トヲ合シ初メテ本訴ノ元利金ニ對シ皆濟シタリトナセシモノナリ而シテ乙第三號證第一項ニ依リ乙第一二號證ニテ本訴貸金ヲ皆濟セシコトヲ證明セシモノナレハ右上告ハ破毀ノ材料ト爲スヲ得サルモノトス

理由ノ第三點タル上告人ニ於テ被上告人カ本訴貸金ヲ果シテ完濟セシモノナレハ甲第一號證即借金證ヲ取戻スカ或ハ該證ヲ後日返戻ストカノ證文ヲ被上告人ハ受領シ置クヘキニ都

テ其義ナキハ乙第一號證ノ本訴ニ關係ナキ所以ナリト云フモ右ハ原裁判所ニ於テ申立サル論點ナルノミナラス原被告ノ爭旨タル乙一號證等ヲ以テ本訴ノ金圓ヲ拂入タルヤ否ノ爭ニシテ其爭ハ已ニ前顯辨明ノ如ク完濟セシコトノ明カナル上ハ此廉ヲ以テ破毀ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス

理由ノ第四點タル甲第二四號證ヲ以テ未タ完濟ニ至ラサル旨論スレモ右二號證書翰ハ被上告人カ水戸治安廳ニ呈シタル辨駁書ヲ舉テ本訴貸金ニ對セシモノニ非サル旨論駁シタルニ上告人ハ本訴貸金ニ對セシ所以ヲ說破セシコトナシ四號證書翰ハ本訴五拾圓借用證書ニ關係モナキ大澤當ノ署名アルノミナラス且其月日ノミニシテ其年付ナケレハ本訴金圓皆濟ノ前後何レニアルヤヲ見ルニ由ナキモノナレハ此兩號證ヲ以テ乙第一號證等ヲ打消スヘキ適證ト爲スヲ得サルモノトス

第二項ト上申書ヲ按スルニ加筆改竄等ノ事ニ付被上告人ハ曩ニ水戸治安裁判所ニ呈シタル辨明書ヲ引來テ夫々辨解シタリ然ルニ上告人ハ其然ラサル適證ヲ舉タルニ非ス而シテ原判官ハ乙一二三號證上告人ヨリ差出シタル受取證等ノ他ノ七百圓口ニ對セシモノニ非サルコトヲ審究シ以テ右三證ノ金ハ本訴ノ貸金等ニ對セシコトヲ判定セシモノナレハ右改竄加筆ノ點ニ對シ說明ヲ與ヘサリシトテ此點ノミヲ以テ本案ヲ破毀スヘキ限ニ非ストス

右ノ筋合ナルニ依リ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百六十四號

貸金請求一件上告ノ判文(明治十七年三月一日上告 全) 年十一月廿八日申渡)



岐阜縣飛騨國大野郡丹生川村  
新張組平民

上告人

大瀧 彦 作

東京府京橋區桶町二十二番地  
寄留福井縣士族

右代言人

中島 又五郎

岐阜縣飛騨國吉城郡國府村  
巢組平民

被告上告人

山下 彌 造

東京府神田區駿河臺北甲賀町  
五番地平民

右代言人

倉田 七 郎

上告ノ要領

原裁判所カ上告人ノ請求ヲ排斥セラレタル要旨ハ（上告人カ本訴請求スル貸金并ニ其貸金證ハ被告ト直接ノ授受ニ非スシテ該證ノ受人ナル岩田久次郎ト授受セシモノナリ且ツ其受人久次郎ハ被告ノ委任狀ヲ所持セシモノニ非サレハ被告ニ對シ甲第一號證ノ義務ヲ責ムルハ不條理ナリ）ト云フニアリ之レ甚タ不當ノ裁判ナリト信ス左ニ其理由ヲ述ヘ

抑、被告上告者ト岩田久次郎トハ親戚從兄ニシテ而カモ合併商業ヲ營ミ居ル程ノ間柄ナレハ平素交際ノ親密ナルコト恰モ父子兄弟ノ如ク加之金錢借入等ニ至テハ彼レ負債主トナレハ我レ抵當品ヲ貸與シテ引受辨償人ト爲リ我レ負債主トナレハ彼レ受人ト爲リテ其義務ヲ負擔シ殆ント財產共通ニ均シキ形狀アリ即チ甲第三四號證ノ如シ尤甲第三號證ナル岩田久右衛門久次郎ノ弟ノ負債ニ對シ貸與ヘタル抵當地ハ盡ク本訴ニ關スル抵當地ニシテ被告上告者ハ抵當差出人兼受人トナリテ該證書ニ明記セリ又甲第四號證ハ本訴ニ關スル抵當地ニハ非サレモ同シク被告上告者ハ岩田久次郎ノ負債ニ對シ抵當差出人兼受人トナリテ其證書ニ連印セリ而シテ甲第一號證ハ被告上告者カ負債主タルヲ以テ久次郎ハ之レカ受人トナレリ如此親密ノ關係ヲ有スル被告上告者ト久次郎トノ間柄ナレハ假令被告上告者ノ委任狀ヲ所持セサルモ被告上告者ノ代理トシテ金員授受ノ手續ニ至リシコト明瞭疑ノ容ルヘキナシ況ンヤ甲第一號證ト交換ニテ本訴ノ金員ヲ授受シタルニ於テヲヤ且ツ山間僻地ノ人民一々委任狀ヲ所持スル如キハアラサルノミナラス被告上告者ト最モ親密ニシテ而カモ甲第一號證ノ受人ナル久次郎カ現ニ抵當證券ヲ持參シテ金員ヲ受取タルモノナレハ假令其際委任狀ヲ所持セサリシトテ焉ンソ甲第一號證ヲ無効ニ屬セシム可キ條理アラシヤ殊ニ金穀ノ貸借上ニハ信用貸ト抵當貸トノ二種アリテ其二種ノ貸借ニ付テハ授受ノ手續モ亦各自カラ異ナル所アリ今其異ナル所以ヲ述ヘンニ凡ソ信用貸ナルモノハ專ラ其人ヲ信シテ貸與スルモノナレハ知人ニ非サレハ容易ク貸借シ得ラレサルモノナリ故ニ其金穀ト借用證券トヲ授受スルニ當テモ或ハ本人ト直接ニ爲サ、ルヲ得サルノ場合ナキニシモ



アラス然レモ抵當貸ナルモノハ之レニ反シ其抵當ノ確實ナル以上ハ假令一面識ナキ人ト雖モ容易ニ貸借シ得ラルヘキモノナリ從テ其金穀ト抵當證券トヲ授受スルニモ亦々敢テ本人ト直接ニ爲サ、ルヲ得サルノ必要ハアラサリシ何トナレハ目的其人ニ在ラスシテ其抵當ニ在レハナリ故ニ抵當貸ナルモノハ負債主ノ誰タルヲ問ハス證券引換ニ金穀ヲ授受スルハ普通ノ手續ナリ今ヤ本訴ノ貸借ニ於ケル信用貸ニ非スシテ全ク抵當貸ナルモノナレハ其抵當ノ確實ナルヲ看認メタル以上ハ必スシモ被告ト直接ニ授受セサルヲ得サルノ必要ナキヲ以テ該證書ノ持參人ナル久次郎へ本訴ノ金員ヲ交付セシハ普通抵當貸ノ手續ニ出テタルモノナリ左スレハ假令被告ト直接ニ授受セサリシトテ焉ソ甲第一號證ヲ無効ニ屬セシムヘキ謂レアラシク況ンヤ甲第一號證ヲ差入タル以來殆ント三年ノ久シキ被告上告人カ出訴ニ至リシマテ何等ノ故障モ申出サリシ事等ノ事跡アルニモ拘ハラス原裁判所ハ現ニ役場ノ公證マテ經タル鞏固ナル抵當證券ヲ輒ク無効ニ屬セシメラレタルハ甚タ不當ノ裁判ナリト信ス

右ノ理由ニ付名古屋控訴裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレンコトヲ謹テ請願ストノ事  
大審院ニ於テ判決ヲ與フルコト左ノ如シ

原裁判所ハ貸借ノ目的ハ人ニ存スト云ヲ以テ貸主ハ必ス借主本人ニ金子ヲ手渡スヘキモノト爲シ而シテ貸主ヨリ金子ヲ受取リタル岩田久次郎ハ證書面ノ借主タル被告上告人ノ委任狀ヲ有セサルヲ以テ其金子ヲ受取ラサル被告上告人ニ對シ催促ヲ爲スハ不條理ナリト判決セシハ不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ貸借ハ必ス當人親ヲ爲スヘキニ限ラス又實際代理人タル證蹟アルトキハ委任狀ナシト雖モ代理人ト看做サルヘキ場合アリ決シテ原裁判所ノ見解ノ如キ狹隘ノモノニアラサレハナリ  
抑モ本件ハ被告上告人ニ於テ一旦證書ヲ差入レタルモ被告上告人カ金子ヲ調達セサリシ故ニ該證書ノ返却ヲ掛合中却テ出訴ニ及ハレタリト云フ者ナレハ其事實如何ヲ審究シテ判決ヲ爲スヘキ筋合ナルニ原裁判所出テスシテ借主カ直接ニ金子ヲ受取ラサルト證書持參人カ委任狀ヲ有セサルトヲ以テ現ニ被告上告人ノ所有地ヲ書入レトセシ公正證書ノ貸借ヲ無効ニ歸セシメタルハ不法ノ裁判ナリトス  
右ノ理由ナルヲ以テ名古屋控訴裁判所カ本件ニ與ヘタル裁所ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被告上告人ノ負擔タルヘシ

○第五百六十五號

日用水妨害一件上告ノ判文(明治十七年六月廿一日上告  
年十一月廿八日申渡)

山梨縣甲斐國東八代郡米倉村

平民武川平七外七十三名惣代



兼同村平民

上告人

橘田定藏

渡邊又左衛門

東京府京橋區日吉町十八番地

寄留靜岡縣士族

右代言人

畔柳時行

山梨縣甲斐國東八代郡永井村

平民藤卷金兵衛外八十六名惣

代兼同村平民

被上告人

小林與右衛門

齋藤小左衛門

東京府神田區元久右衛門町二

丁目十番地平民

右代言人

溝口權三郎

上告ノ要領

第一條

本案ヲ論定スルニハ先ツ司法權ト行政權トヲ明ニ分別スルヲ緊要トス抑行政ノ處分ナル者ハ一國ノ安寧ヲ保チ人民ノ便益ヲ保護スル爲メ公道ヲ開鑿シ又ハ田圃培養ノ便ヲ計リ

テ水量ノ増減等ヲ爲ス者ナリ而シテ司法權ナル者ハ事實ヲ推究シ以テ法律ノ適用ヲ職トスル者ニシテ尤モ民事裁判ノ根據トスル所ハ證據力ノ輕重如何ヲ彈究シ或ハ習慣或ハ條理ニヨリテ以テ判定ヲ下ス者ナリ然ルニ原裁判所ハ權利有無ノ證明ヲナサズ單ニ被上告者カ無證ノ口述ヲ採用シ該水ヲ三分セヨト判定セラレタルハ所謂ル普通ノ感情ニシテ彼此ノ便益ナリト信シ判定ヲ下サレタル行政上ノ所分ニシテ決シテ司法權内ノ事ニアラサル可シ是ニ因テ本件ヲ推究スルニハ始審裁判カ越權ノ所致ナル事辨ヲ待タズ然ルニ原裁判所ハ其越權ニアラサル理由ヲ附セスシテ單ニ正當ノ如ク裁判セラレタルハ不法ノ裁判ナリトスル所以ナリ

第二條

同判文第二條中ニ曰(丙第一二號證共ニ毫モ被告ノ關係セシモノニアラサレハ被告ニ對シ該證ノ効力ヲ及ホスヘキ筋合ナシトス)トノ判旨ヲ考按スルニ必竟原裁判所ハ被上告永井村カ呈供シタル甲第一號證ノ文意ヲ疎漏視セラル、カ爲メ如此不適當ノ裁判ヲ與ヘラレタル者ナリ何トナレハ甲第一號證中ニ(永井村ヨリ申立候通り岡村ニテ米倉村ヘ新規五分通り此度分水差遣シ候云々)ト記載アルヲ以テ視レハ其丙第一號證ハ被上告永井村ニ對シ直接ニ關係セカリシモノトスルモ業ニ既ニ該證ノ成立スル當時被上告永井村ニ於テ上告米倉村岡村カ該證中ニ明記アル如ク分水ヲ約シ解訟ヲ爲セシヲ明認セシ者ナレハ是ヲ以テ永井村ハ直接ニ關係ナシトシテ排疊シ去ルヲ得ス否認知セシ者ト云ハサルヲ得ス然ル以上ハ丙第一號證ハ當然被上告永井村ニ對シ有効ノモノナルハ法理ノ當



然ニシテ毫モ怪△ニ足ラサルナリ然ルニ原裁判所ハ同條中ニ毫モ被告ノ關係セシナキ  
丙第一號證ニ基キタル丙第二號證裁判執行ノ爲メニ被告村ノ權利ヲ害スルニ至リシヨリ  
本訴ヲ提起シタルニアラスヤ」トノ判語ハ事實ニ齟齬シ採證法ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリ  
トス

第三條

同判文中ニ(茲ニ原被雙方ヨリ提供スル實地臨檢圖面ヲ閱スルニ第三番「は」印ノ水路ヨ  
リ原告村へ流通シアルヲ見レハ其間接ナルト否トニ拘ハラズ原告村ノ用水ハ專ラ該水路  
ヲ仰クヲ認知スルニ足レリ)ト夫レ甲第一號證ニアル如ク被告村ハ上告村并岡村ト同等  
ノ分水權ヲ有スル者ニアラスシテ畜ニ其餘瀛ヲ受ルニ過キス然ル所以ノ者ハ所争淺川水  
ハ岡村ト上告村ト貳分スヘキ權利アルカ故ニ岡村ニ於テ該水ヲ引用シ其餘瀛カ被告村  
ニ流下スルノミニシテ同等ノ權利ナキハ丙第一號證并ニ被告ガ多年間片言ノ故障ヲ  
唱ヘサルヲ以テモ知ルヘシ夫レ水ハ卑ニ就クハ性ニシテ逆行スル者ニアラス故ニ岡村カ  
引用スル水ノ低下地ナル被告村ニ流ルハ自然ナリ之レ被告カ餘瀛ノ水ヲ用ユルノ  
權ハ自然ノ所得トコソ云フヘケレ然ルニ原裁判所ハ單ニ水路ノ被告村ニ通スルヲ以テ  
同等ノ權利アル者ナリトノ裁判ヲ下サレタルハ實ニ不當ノ裁判ナリ其所以ハ被告村ノ  
如キ權利ヲ證明スル能ハサル者ニ對シテ同等ノ權利アル者トセハ該水路流末ノ村邑ハ皆  
ナ該水路ノ通スルアルヲ以テ同等ノ權利アル者トセンカ果シテ然ラハ上告者ノ如キ確乎  
不動ノ權利ヲ有スル村邑ヲシテ殆ト田圃ヲ培養スル能ハサル無權利者同一ノ結果ヲ生ス

ルニ至ル可シ而ルヲ單ニ水路ノ通スルヲ以テ固有ノ權利アル村邑ト同等ニ引水スル權ア  
リトセハ上告村ノ如キハ忽チ早損ノ害ヲ蒙ル火ヲ見ルカ如シ況ンヤ被告村ハ井戸三  
十三箇所其他湧泉數ヶ所アルアレハ淺川水ヲ專ラ仰カサレハ村民ノ命脉ニ關スル如キ者  
ニアラサルニ於テヲヤ而シテ上告村ト岡村カ丙第一號證ヲ契約スルノ當時被告村ハ秋  
毫タモ故障ヲ容レサルハ畢竟該證ニ因テ不利益ヲ得シニ非サルヲ明カナリ而シテ被告  
者ハ甲第一號證ヲ以テ淺川水ヲ同等ニ引用スルノ權利アルトスルモ該證ノ如キハ薄弱ナ  
ル證據ニシテ貴重ノ權利ヲ證明スルニ足ル者ニアラサルノミナラス返テ上告村ト岡村ト  
ノ契約ヲ明認シタルヲ證スル者ノ如シ豈又奇ナラスヤ元來法律カ以テ原告者トスル所以  
ノ者ハ其原告ナル起訴者ニシテ己ノ權利ヲ證明スルノ責ヲ盡スカ故ナリ然ルヲ起訴者此  
責任ヲ置テ對手人ナル被告ノ爲メニ立證スルニ異ナラス然ルニ原裁判ハ既ニ業ニ被告  
者カ認諾セシ上告者丙第一號證ヲ本訴ニ關係ナキ者ナリトシ單ニ被告村へ水路ノ通ス  
ルヲ以テ同等ニ引用スルノ權利アル者ナリト裁判ヲ下サレシハ其權利有無ノ證明ヲ誤認  
シタル裁判ト云ハサルヲ得ス

第四條

同條中ニ(隨テ此時ニ至ル迄被告村ヨリ一言ノ故障ヲ容レサルハ則チ原告村及ヒ岡村ト  
同等引用シ來リシモノトスルモ明治六年以來該權利ヲ拋棄シタル者ナリト謂フヲ得サル  
モノトス)ト然リ被上告者ハ權利ヲ拋棄セシ者ト云フヨリモ寧ロ同等ノ權利ナキ者ト云  
フ可キナリ今假リニ被告村ヲシテ同等ノ權利アル者トセハ其權ヲ拋棄シタリト云ハサ



ル可ラス之ヲ證言センニ上告者丙第一號證ノ成立ハ明治六年六月廿七日ニシテ被上告甲第一號證ハ明治六年七月七日ノ成立ナリ該證ニ（岡村ニ於テモ右水ヲ以テ植付中ニ付其餘贏無之云々）トアル以上ハ上告者ト岡村ト契約アリシヲ知リタルコトハ該證ニヨリテ明ナリ加之契約以後決シテ被告村カ從來ノ權利ヲ害セラレタルニ非サルコトハ十有二年間一言ノ故障ヲ容レサルヲ以テモ知ルヲ得ヘシ元來同等ノ權利ヲ有スル共同村カ兩者間ニ契約ヲナスヤ已レカヲ指ス 利益トナルハ格別己レカ不利益トナルノ契約ヲ結定スルニ際シ故障ヲ云ハサルコト萬アル可ラス而シテ上告者ト岡村トノ契約ハ被上告ニ於テハ不利ノ契約ト云ハサル可ラス此不利ノ契約ヲ爲スニ當リ故障ヲ云ハサルハ己レカ故障ヲ云フヘキノ權利ナキカ故ナリ然ルヲ「明治六年以來該權利ヲ拋棄シタル者ナリト謂フヲ得サルモノトス」トノ裁判ヲ下サレタルニ於テハ事實ニ阻礙シタル誤判ナリト云ハサルヲ得ス大審院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

第一條

上告第一條ヲ按スルニ本訴ハ被上告村ニ於テ淺川水ヲ上告村并ニ岡村ト同等ノ引用權アルヤ否ヤヲ爭フ者ニシテ始審裁判官ハ實地臨檢ノ上其實況ニ據リ被上告村ニ於テモ上告村并ニ岡村ト同等ノ引用權アルモノト認メ三箇村三分シテ各其一分ヲ引用スヘキモノト裁判ヲ下シタルモノナルカ故ニ原裁判所ニ於テモ之ヲ相當ノ判定ト認メ其判文第一條ニ本訴被告村ニ於テ淺川水ヲ原告村及岡村ト同等引用スルノ權利アルヤ否ヲ爭フ者ナレハ云々ト始審裁判カ越權ニアラサル理由ヲ示シ言渡シタルモノニシテ固ヨリ被上告者カ無證ノ口述ヲ採

リタルモノニアラサルナリ依テ上告者カ所論ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得ス

第二條

同第二條ヲ按スルニ上告者ハ丙第一號證ハ上告村ト岡村トノ契約ニシテ被上告村ハ直接ニ關係ナキモ被上告甲第一號證中ニ（永井村ヨリ申立候通り岡村ニテ米倉村へ新規五分通リ此度分水差遣シ候云々）ト記載アルヲ以テ見レハ業已ニ被上告村ニ於テ上告村ト岡村カ分水ヲ約シタルコトヲ認知セシ者ト云ハサルヲ得ス然ル以上ハ丙第一號證ハ被上告村ニ對シ有効ナリト云ヒ恰モ被上告村ニ於テモ丙第一號證ノ契約アルヲ認諾シタルモノ、如ク申立候ト雖モ甲第一號證ニ（永井村ノ義田方養水路淺川通岡村地内ニテ打場張立通水致來候處米倉村ヨリ岡村へ相掛候水論ヨリ右通水差止リ養水ハ勿論呑用水等迄差支候ニ付云々岡村打場ヨリ永井村へ水路實見候處云々殊ニ當年ノ旱魃一般ノ涸水ニテ實ハ永井村ヨリ申立候通り岡村ニテ米倉村へ新規五分通此度分水差遣候ヨリ永井村旱魃一害ヲ釀シ候義ニ立至云々）トアル文詞ニ據レハ該證ハ固ヨリ上告丙第一號證ノ契約ヲ認諾シタル證ト爲スヘカラズ啻ニ其認諾ノ證ト爲スヘカラサルノミナラス却テ當時被上告村ハ之ニ故障ヲ述ヘ紛議ヲ生セシコトヲ知ルニ足ル由是觀之上告者カ援ク所ノ甲第一號證中ノ（永井村ヨリ申立候通云々）ノ文詞ハ畢竟當時被上告村カ渴水ノ害ヲ被ムリタル原由ヲ示シタルニ過キサルモノト視認サルヲ得ス然ハ則上告者カ論旨ハ原裁判所カ上告丙第一二號證ハ被上告村ニ對シ効力ナシトノ判定ヲ破毀ス可キノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス

第三條



同第三條ヲ按スルニ原裁判所ハ上告者カ被上告村ニ在テハ分水權ナク唯餘瀝ノ水ヲ受用スルニ過キストノ論辨ニ對シ實地臨檢ノ圖面ニ照シ水路流通ノ實況ニ據リ被上告村ニ於テモ上告村并ニ岡村ト同等ノ引用權アリト認定セシモノニシテ其認定タル理由ノ不法ナルニアラサル以上ハ原裁判官ノ主權ニ任スヘキモノニシテ本院ノ鑑査スヘキ限ニアラス

第四條

同第四條ヲ按スルニ原裁判所カ說明ノ如ク被上告村モ從來引用權アルモノナルニ明治六年中上告村カ岡村ト分水契約後紛議ヲ生シ明治十四年中裁判確定シ其執行ノ爲メ始テ被上告村ノ權利ヲ妨害シタルヨリ本訴ヲ提起スルニ至リシモノナレハ此時ニ至ル迄被上告村カ故障セサリシハ却テ上告村及岡村ト共ニ引用シ來リシヲ推知スルニ足ルモ之ヲ以テ明治六年以來權利ヲ拋棄セシモノトハ斷了スヘカラサル筋合ナレハ之ヲ不當ナリト爲スヲ得ス

右ノ筋合ナルカ故ニ上告者カ所論ハ以テ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキモノトス但上告入費ハ上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百六十六號

地請證書調印請求一件上告ノ判文(明治十七年六月廿二日上告  
年十一月廿八日申渡)

東京府荏原郡北品川宿廿四番

地平民平井進七代言人

東京府京橋區炭町五番地士族

黑岩鐵之助

上告人

東京府荏原郡品川步行新宿九

十三番地平民

福島良助

被上告人

本件ハ上告人ノ起訴ニ係リ東京控訴裁判所ノ裁判ニ對シ上告スルモノナリ  
上告人平井進七起訴ノ要領ハ荏原郡北品川宿百八十番地ハ飯田三郎カ所有地ナリシカ男全  
佐代該地所ヲ讓受ケタルニ依リ被上告人ニ對シ總坪八拾七坪ノ貸賃月々四圓九拾五錢壹厘  
ニ改正シ其地請證書<sup>甲第一</sup>ニ調印ヲ得度ト云ニアリ被上告人福島良助抗辨ノ旨趣タル該地  
ハ前地主飯田三郎ヨリ月々金三圓ニテ借受ケ來リタレハ今地主變換セリトテ斯ク地代金ヲ  
増加スル謂レナキヲ以テ之ニ應スルヲ得ス尤モ從前ノ通壹ケ月三圓宛ナレハ地請證書ヲ交有  
ス可シト答辨セリ

上告人ハ始審ニ勝訴トナリ終審ニ敗訴シタリ東京控訴裁判所終審ノ裁判左ノ如シ

地請證書調印請求ノ詞訟東京始審裁判所ノ裁判ニ對スル控訴遂審問處本訴ハ飯田三郎ナ  
ル者ノ所有セシ荏原郡品川步行新宿九十三番ノ地所ヲ原告福島良助毎月三圓ノ地代ヲ以  
テ借受ケ居タリ然ル處今般男全佐代ナル者ノ有スル所トナル乃チ其差配人平井進七舊地  
主ト原告トノ間ニ約シタル地代金ハ廉ニ過キ比隣一般ノ例ニ合ハス且恩惠上ニ成立タル  
約束ナレハ舊約ヲ一變シ更ニ四圓九拾五錢壹厘ノ地代ニテ地受證ヲ求ム原告之ヲ肯セス  
其事終ニ訴訟トナリ被告ハ甲第三四號即チ九十四番地内ノ地所ニ就キ地代ヲ比較シ舊地  
代ノ廉ナルヲ證シ原告モ亦乙第二三四號即チ九十二三番地ヲ比較シ相當ナリト抗辨ス審



理ノ末舊地主タル飯田三郎ヲ喚問スルニ嘗テ原告ヨリ借金ノ爲メ其報酬トシテ比隣不相應ノ低額ヲ以テ貸渡シ且地受證ヲモ取置カサリシト證言セリ於是乎舊地主三郎ト原告トノ約束ハ地受證モナク且恩惠ニ成立タルモノ又原告ノ三圓カ相當ナリト比證スルハ惟論地ニ隣ル最モ地代ノ低キ九十二番ノ地所ニシテ比較標準ヲ過テリ之ニ反シテ被告カ請求ハ甲第三四號即チ九十四番地二個ノ地代ト隣地ヲ比較シ得タルモノニ付是レ相當ノ地代ナリト裁判セリ

是レ此案始審ノ大要ナリ

原告此ノ裁判ニ服セス今度控訴シ來リ論證ノ要旨左ノ如シ

- 一本訴地所ハ素ト七拾八坪ニシテ此地代壹坪一ヶ月三錢八厘五毛即チ一ヶ月三圓ナリキ今ヤ七拾六坪ニ減シタレハ一ヶ月金貳圓九拾貳錢六厘カ相當ナリトノ事
- 一凡ソ地代金ヲ變更スルニハ地租諸賦課ノ支辨増加スル歟若クハ止ムヲ得サル原因ナカハハカラス唯地主ノ移轉ニヨリ恣ニ増加スルノ道理ナシトノ事
- 一被告カ比隣比較ノ證ニ供スル甲第三四號九十四番地二個ノ地所ハ尤モ本道ニ接近シ繁榮ノ地位ヲ占メ隨テ商業ニ便ナリ論地ノ如キ裏通り地ト同一視スヘキモノニ非ストノ事
- 一乙第三號證評價表第一項本道ノ中心ニシテ尤モ繁榮ノ地スラ壹坪六錢八厘五毛ニシテ被告カ本訴ニ求ムル地代トハ僅カニ壹錢壹厘五毛ノ差アルノミ而シテ本訴ノ地ハ寂寥ニシテ地位ノ尊卑同シカラス論地ニ隣ル明地拾坪ニシテ此地代壹坪貳錢五厘ナルヲ以

テモ知ルヘシトノ事

- 一舊地主三郎ノ證言ハ地受證ヲ隱匿シ提出セサルモノナレハ其言信スルニ足ラス三郎ト原告トノ間合意ノ契約ハ新地主ナル被告モ動カスヘカラサルモノナリトノ事
- 被告答辨ノ要旨左ノ如シ
- 一舊地主ナル三郎ニ於テ三圓ノ地代ハ恩惠ニ出タリト云ヒ又一片ノ借地證タモ乞受ケサリシ證跡トニ照應スレハ果シテ恩惠上ニ出タルヲ信スルニ足ルトノ事
- 一甲第三四號即チ九十四番地ノ内二個其一ハ壹坪七錢六厘又其一ハ六錢八厘ナリ此ノ地代ト論地ニ隣ル九十二番地ノ壹坪六錢八厘五毛等即チ南北左右隣地ニ比較シ尙壹坪五錢六厘九毛ノ低額ニ定メタル地受證ヲ請求スルニ何ノ不當カ之レアラントノ事

裁判

始審引合人即チ舊地主飯田三郎ニ於テ三圓ノ地代ハ恩惠ニ成立且地受證ヲモ取置カサリシトノ申供ハ其證據無之ニ付貴重ナル不動産ヲ貸與スルニ一片ノ地借證タモ取置カサリシトハ習慣ニ違ヒタル申狀ナルヲ以テ寔ニ信ヲ措キ難シ而シテ被告カ増額ヲ求ムル地代ノ當否ヲ審按スルニ其證據ハ彼ノ甲第三四號即チ九十四番地二個地代ノ比較是レナリ然レ此ノ地所ハ原告申立ノ通り尤モ繁榮ナル海道ニ近ク本訴ノ如キ裏通りノ地所ト同一視スル能ハス唯々論地ト比照センニハ之ニ隣ル地位同等ナル即チ九十二番地ノ外他ニ覓ム可カラズ則該地ハ壹坪三錢八厘六毛ニシテ論地ハ三錢八厘五毛僅カニ一毛ノ差アルノミ然則論地ハ舊ノ如ク壹坪一ヶ月三錢八厘五毛ヲ以テ相當ノ地代ナリトス仍テ被告ノ請



求ハ相立サルモノナリ

上告人ハ右裁判ニ服セス上告シタリ其要點左ノ如シ

第一點

原裁判狀ノ前文ニ(前後)舊地主ト原告トノ間ニ約シタル地代金ハ廉ニ過キ比隣一般ノ例ニ合ハス且恩惠上ニ成立タル約束ナレハ舊約ヲ一變ス云々)トアリ個ハ原裁判所カ本件爭訟ノ理由ヲ誤解セラレタル者トス奈何トナレハ舊地主ト原告即チ被上告者トノ間ニハ上告番外第一號證ノ如キ事故アリテ地所賃借リノ結約ハ毫モ無之ヲ以テ上告者ハ更ニ普通ノ契約證書調印ヲ請求スル者ニアリ然ルニ原裁判所ハ其舊地主ト被上告者ノ間ハ既ニ契約ヲ結了シアル者ト茲ニ明記セラレタルハ頗ル理由ノ齟齬ト思考セリ

第二點

原裁判狀判決ノ初項ニ(始審引合人即チ舊地主飯田三郎ニ於テ三圓ノ地代ハ恩惠ニ成立且地受證ヲモ取置カサリシトノ申供ハ其證據無之ニ付貴重ナル不動産ヲ貸與スルニ一片ノ地借證ヲモ取置カサリシトハ習慣ニ違ヒタル申狀ナルヲ以テ寔ニ信ヲ措キ難シ云々)トアルハ實ニ不當ト謂ハサル可カラス抑始審廳カ飯田三郎ヲ引合證人トシテ要セラレタルハ原被兩造カ爭訟ニ當リ其被上告者カ舊地主トノ間既ニ地受ケ證書ハ成立チアリト口頭無證ノ陳述ヲナスニ至リ舊地主三郎ヲシテ之レカ眞僞ヲ證明セシメラレタルニ果シテ契約ハ無キ者ト決シタリ今ヤ原裁判所カ其三郎ノ證言ヲ信シ難シトセハ去テ被上告者カ言フ地受ケ證書ヲ差入レタリトノ口頭モ亦無證ノ片言ニシテ採ルニ足ラサル者ナリ夫レ

然リ然ラハ舊地主ト被上告者ノ間賃借ノ契約ハ無キ者ト判斷スルノ外ナカル可シ蓋シ其契約ナキ者ハ又之レヲ繼續スルノ義務ナシ故ニ新地主カ固有ノ權理ヲ以テ更ニ地受ケ證書ヲ請求スルハ最モ當然ノ事ナルニ其三郎ノ言ヲ信シ難シトテ地受ケ證書アル者ノ如ク判決セラレタルハ寔ニ服シ難キ所以ナリ

第三點

又其次項ニ(前後)本訴ノ如キ裏通りノ地所ト同一視スル能ハス唯タ論地ト比照セシハ之ニ隣ル地位同等ナル即チ九十二番地ノ外覓ト可カラス云々)トノ裁下モ亦頗ル不當トセリ即チ本訴ノ地所ハ裏通りトアルモ上告者繪圖面ノ如ク表裏兩道ニ接シタル最便利ノ地ナリ而シテ被上告者カ家屋ヲ裏ニ作リタルハ己レカ商業質渡世ナルヲ以テ來客ノ便利ヲ圖リ故サヲニ與ニ引入表裏ニ通行門ヲ設ケ充分ニ營業シ居ル者ナレハ焉ソ之レニ隣リセル九十二番地ノ如キ表裏ヲ區別シテ別人ニ貸與セシ其裏坪ナル眞ニ箱中ノ如キ不便ナル土地ノ代價ト同一視ス可カラス又原裁判所ハ九十二番地ハ論地ト地位同等ナル旨ヲ明記セルモ彼ノ等級表ト稱セル者ハ被上告カ擅ノ調製ニ罹ル者ニ付宜シク之レカ審理ヲ遂ケラレタル上ニ非サレハ果シテ同等ナリトノ裁斷ハナシ得ラル可キ者ニ非ス然ルニ之レヲ同等トセラレタルハ審理不盡越權ノ裁判ト云フ可キ者ニテ上告者ハ決シテ同等トセス況ンヤ上告者繪圖面ノ如ク論地ノ左右隣地ニ於テ九十一番地裏地ノ如キ廉價ナル地所ハ無之者ニ於テヲヤ是レ原裁判所カ頗ル條理ニ背キタル審理不盡ノ裁判ヲナシタル者ト思考セリ



第四點

又其末文ニ(仍テ被告ノ請求ハ相立サルモノナリ)ト個ハ大甚不當ノ裁判ナリ何ントナレハ本訴ハ地受ケ證書調印請求ノ訴訟ナルニ其地代價ノ争ヒアルトテ地主カ地受ケ證書ヲ請求スルノ權理ナキ者ノ如ク單ニ被告ノ請求相立スト裁下セラレシハ最モ不當ト思考セ

大審院ニ於テ辨明判決ヲ與フル左ノ如シ

上告第一點ヲ按スルニ上告人カ不當ナリトスル原裁判狀ノ前文舊地主ト原告即被告トノ間ニ約シタル地代金云々トアルハ原裁判官カ本件控訴スル筋合ヲ簡明ニセンカ爲メ始審裁判所ノ判意ヲ略説シタルモノニシテ原裁判所ノ判語ニアラス加之現ニ上告人ハ被告上告人カ舊地主ニ對シ月々三圓ヲ納ムルハ其當ニ非スト論辨スルモノナリ其三圓ヲ納ムルニ何等ノ約束ヲナサハ道理ナキハ無論ナレハ右上告ハ謂レナキ上告ナリトス

第二點ノ主旨ハ原判官カ前地主飯田三郎カ始審ノ際申立テタル證言ヲ採用セサルハ不當ナリ云々ト云フニ在レトモ原判官ハ其證言ノ採用スヘカラサル理由ヲ示シ其職權上取捨ノ處分ヲナセシモノナレハ其理由ノ不當ナル證ヲ擧スシテ只自己ノ意見ヲ述ヘ上告ノ理由トナスヲ得サルモノトス

第三點ハ原判官カ地位比照ノ事ニ對シ非難スレモ原被告ノ繪圖面ヲ閱スルニ本訴地所ハ其表通ニ接スル部分ハ左右ニ他人ノ家屋アリ其兩家屋ノ間即チ俗ニ云路地ナリ然レハ表通ニ向テ居宅ヲ建ント欲スルモ得ヘカラスシテ即チ原判官カ裏通リト云シ地ナリトス又被告カ

呈供セシ等級表ヲ審理セサリシヲ不當ナリト申立ルモ上告人ニ於テ其不正ナル適證ヲ擧クルニ非ス左スレハ原判官カ同シク裏通ニアル其隣地ト本訴地所トヲ比較セシトテ不當ト云フ得サルモノトス

其第四點ハ原判官カ被告<sup>上告</sup>人ノ請求不相立ト申渡セシニ對シ上告人即地主カ地受證書ヲ請求スルノ權ナシトサレタリト論難スレモ本訴ハ上告人ニ於テ舊地主ト被告上告借地人トノ間ニ授受シ來リシ地代ヨリ高額ノ地代ヲ納ムヘシトノ地受證ヲ需メ被告上告人ハ其高額ノ地代受證ハ之ヲ差入難シト拒ムモノナリ而シテ被告上告人ノ申立適理ナリシニ依リ上告人ノ高額ノ地受證ヲ請求スルハ不相立ト申渡セシモノナレハ不當ノ廉無之モノトス依テ本上告ハ受理スヘキ件ニ非スト判決ス

○第五百六十七號

敷金取戻一件上告ノ判文(明治十七年九月廿日上告 年十一月廿八日申渡)

大坂府西區江戸堀南通壹丁目

廿番地寄留岡山縣平民小西定

治代言人東京府京橋區日吉町

十八番地寄留靜岡縣士族

畔 柳 時 行

上告人

大坂府北區堂島裏通貳丁目四

十三番地寄留京都府士族



被告上告人

岩鼻敏

本件ハ始審ニ於テ被告上告者ヨリ鷺尾英七ニ係リ起訴シタリ其ノ訴旨ハ明治十六年七月中英七ノ所有ニ係ル家屋ヲ借受ケ敷金トシテ金七百圓ヲ渡シ置タルニ該家屋ハ明渡サ、ル場合ナルヲ以テ右敷金ノ返却ヲ請求スト云フニアリ始審被告英七ハ該家屋ハ借財ノ爲メ公賣トナリ小西定次ナル者ノ所有トナリタリ左スレハ其敷金ノ家屋ニ付着スルモノナルニ付今ニ至リ自分ヨリ返戻スヘキ譯無之旨拒ミタリ

始審引合人即上告者ノ拒辨ハ家屋舊所有者鷺尾英七ト被告上告人ノ間ニ契約シアル敷金ノ事タル該家屋公賣ノ時ニ於テモ鷺尾英七ヨリモ被告上告人ヨリモ一言ノ申聞之ナキニ依リ自分ハ毫モ知得タルモノニ非サレハ其實ヲ受クヘキ道理ナシト云フニアリ

大阪始審裁判所ニ於テ該敷金ハ引合人<sup>上告</sup>ニ於テ辨償スヘキ旨ノ裁判ヲ受タリ上告人ハ右裁判ヲ不服ナリトシ被告上告人ヲ相手取り控訴シ是亦敗訴シタリ

大阪控訴裁判所終審裁判ノ要旨左ノ如シ

一被控訴人<sup>被告上告者</sup>ノ認求セシ敷金ハ明治十七年二月公賣前明治十六年七月控訴人<sup>上告者</sup>カ借住セシ當初ニ在リテ引合人即チ其家屋ノ舊所有者主ヘ差入タルモノナル事判然タル上ハ其家屋ノ公賣ニ先タチ控訴人ハ其家屋ノ敷金ノアリシ事ヲ承知セサリシモノトスルモ敷金ノ性質タル素ヨリ借家ニ附着スルモノナレハ之ヲ辨償スルノ義務ヲ負ハサルヲ得ヌ殊ニ實際上ヨリ考察ヲ下スモ公賣入札ニ際シテ現住者ニ向テ其ノ家屋貸借上ノ關係ヲ尋問セス輕易ニ入札スヘキ情由ハ萬々アルヘキト思ハレサレハ之ヲ承知セサリ

シトノ口實ハ確信ヲ置キ難シ而シテ被控訴人ニ於テ勸解及出訴ノ起頭舊所有者主今般引合人ヲ被告トセシモ直チニ控訴人ヘ所有權ノ移リタルヲ確認シテ始審ニ參加セシメ正當ニ控訴人ヨリ辨償ヲ受クヘキ始審裁判ヲ受ケタル今日ニ至リ單ニ最初ヨリ被告トセサリシ手續ノ不注意ヲ奇貨トシテ控訴人ハ本訴被控訴人ノ請求ヲ拒ムノ理由ナケレハ結局始審裁判ノ通り相心得被控訴人ノ請求スル敷金七百圓ヲ辨償スヘシトノ事

上告人ハ右終審裁判ヲ不當トシ上告スル要旨左ノ如シ

第一條

凡ソ家屋敷金ナル者ハ其所有主家屋ヲ他人ニ貸貸スルニ當リ賃借主ヲシテ若干ノ金圓ヲ入置カシムルノ習慣ヲ云フモノニシテ賃借主ニ於テ其家賃ヲ拂フヘキ義務ヲ盡サ、ル時ノ爲メ豫メ差入レ置カシムルノ保證金ニ過キサレハ乃チ賃貸主ニ對シ賃借主ノ信用ヲ鞏固ナラシムルモノナリ故ニ本按敷金ノ性質ヲ探究セハ賃貸主ト賃借主トノ間ニ成立チタル純然タル對人權ノ契約ト云ハサル可ラス且契約ノ本義ヲ尋ヌルニ契約ノ結果即チ義務ナルモノハ契約者互相間ニ有効ナルモ他人ニ對シ其効力ヲ及スヘキモノニ非サレハ本按敷金擔保ノ責任ハ買受人即チ上告者ニ非スシテ賣渡人即チ舊所有者主其人ニ存スルヤ明晰タリ況ンヤ本按家屋ハ公賣法ニ因テ第六號證ノ如ク今回ノ上告者及ヒ被告上告者ト俱ニ其當時所轄戸長役場ニ於テ公然入札ヲ爲シタルニ上告者カ入札ハ最高ニ位スルヲ以テ第七號證ノ如ク公然所有權ヲ得タルニ於テヲヤ是知ル上告者ハ責任者ニ非スシテ却テ舊所有者主ニ存スルヲ然ルニ原裁判所ハ(其家屋ノ公賣ニ先キ立チ控訴人ハ其家屋ノ右敷金ノア



リシト承知セサリシモノトスルモ敷金ノ性質タル素ヨリ借家ニ附着スルモノナレハ之ヲ辨償スル義務ヲ負ハサルヲ得ス)ト判定ヲ下サレタリ之レ上告者カ不當ノ裁判ト思考スル所以ナリトノ事

第二條

本件ノ家屋ニ對シ賃借主カ敷金ノ差入レアルアレハ公賣ノ當時賃借主ト共ニ其敷金ノ差入レアルコトヲ公告セサルヘカラス然ルヲ其賃借主及賃借主ニ於テ之等ノ事實ヲ公告セサルニ於テハ爭テカ入札人タル上告者カ之ヲ知り得ルノ道理アラフヤ故ニ當時其敷金ノ差入アリシヤ否必スヘカラス其敷金ノ差入アルモノトスルモ之ヲ公告スルノ義務ハ賃借主<sup>即チ賣</sup>及賃借主<sup>被上</sup>告者<sup>其人</sup>ノ責任ニ非スシテ誰ヤ公然タル糶賣ニ於テヲヤ之ヲシモ原裁判所ハ舉證ノ責任ヲ倒置シ(現住者ニ向テ其家屋賃借上ノ關係ヲ尋問セス輕易ニ入札スヘキ情由ハ萬々アルヘキ事ト思ハレサレハ云々)ト裁定セラレタルハ誤判ナリトノ事大審院ニ於テ之カ辨明及判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

上告第一條ヲ按スルニ本條ニ對シテハ敷金ノ性質ハ對人權ナルヤ物上權ナルヤヲ辨明スルヲ緊要ナリトス抑モ敷金ナルモノハ貸主カ其ノ家屋ヲ賃借スルニ方リテ借主ヲシテ之ヲ差入レシムルノ權利ヲ有シ明渡シノ時ニ於テ之ヲ返還スヘキノ義務ヲ生スルモノニシテ其賃借ニ供スル家屋有ルヲ以テ其敷金ノ權義アルモノナレハ敷金ハ家屋即チ物權ニ屬スヘキモノト論セサルヲ得ス故ニ上告人カ該家屋ヲ買得セシ上ハ敷金ヲ請求シ得ル權モ之ヲ返戻ス

ヘキ義務モ併セテ之ヲ有スルモノトス左スレハ原判官カ控訴人<sup>上告</sup>カ敷金ノアリシコトヲ承知セサリシモノトスルモ敷金ノ性質ハ家屋ニ附着スルモノナレハ之ヲ辨償スルノ義務ヲ負ハサルヲ得スト申渡シタルハ不當ニ非ストス

上告第二條ハ原判官カ(實際上ヨリ考察ヲ下スモ公賣入札ニ際シテ現住者ニ向テ其家屋賃借上ノ關係ヲ尋問セス輕易ニ入札スヘキ情由ハ萬々アルヘキコトト思ハレサレハ云々)ト裁定セシニ對シ公賣ノ當時賃借主ト共ニ其敷金ノ差入アルコトヲ公告セサルヘカラサルニ其之ヲ知ルノ責ハ上告人ニアリトサレシハ誤判ナリト辨難スレハ原判官ハ敷金アリシコトヲ被上告人等カ告知スヘキ歟上告人カ知得ヘキ歟ノ點ヲ裁決セシニ非スシテ只上告人カ敷金アリシコトヲ知ラサリシト云シ口實ハ實際上ニ於テアルヘカラサルノ理由ヲ示シタル迄ニシテ其職權上ノ認定ナレハ之ニ對シ被上告人等ノ告知セサリシト云フ揭ケ來テ辨償ノ義務ヲ免ントスルモ原判官ト思想ヲ異ニスト云ニ過サレハ破毀ノ資料ト爲スヲ得サルモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百六十八號

地所取戻一件上告ノ判文(明治十七年八月廿五日上告  
全 年十一月廿八日申渡)

新潟縣越後國中蒲原郡白根町

百九番地平民

上告人

廣野 甚内







モ上告者ハ地代ヲ拂フタルコトナク又被上告カ受ケ取りタルト謂フ確證ナシ然ラハ此レ該判語ハ不法ヲ免レサル裁判ナリトノ事

六 引合人月山孫四郎カ陳供ハ單ニ口頭ニ止リ上告第一號證ヲ塗抹スルニ足ラサルトノ事

一上告人ハ尙ホ上告繼書ヲ以テ上告ノ主意ヲ敷衍シタリ

大審院ニ於テ辨明判決ヲ與ル左ノ如シ

右上告狀ト上告繼書ト照之審按スルニ上告要領第一項ハ上告第一號證ノ解釋ニ付原判官ト見解ヲ異ニスト云ニ過サレハ上告ノ原由トナスヲ得サルモノトス

第二項ニ付原裁判書類ヲ徵スルニ被上告人ハ論地ヲ飛地ナリト申立ル事ナシ又上告人ハ被上告第四號證ノ地五十歩ノ事ニ付其現存等ノ事原裁判所ニ申立タルコトナシ右様申立サルコトヲ以テ破毀ヲ求ルノ材料トナスヲ得サルモノトス加之上告人ハ本訴ヲ起シナカラ其證左即チ上告第一號證中論所ノ地坪マテ組入レアルトノ廉見ルヘキモノナキニ依リ原裁判官ハ其賣主タル團吉月山孫四郎ヲ引合人トシ其陳供ヲ執リ其裁判ヲ與ヘシモノナルニ上告者ハ自カラ擧ク可キ證ヲ擧ケスシテ被上告者ノミヲ駁セントスルモ只前説ヲ主張スルニ過サルモノトス

第三項ヲ按スルニ原判官カ被上告七八號證ヲ採ルニ付被上告自家帳簿タルモ之ヲ信スヘキ所以アリト其理由ヲ示シテ之ヲ採リシモノニシテ全ク事實判官ノ職權ヲ行シモノナレハ其理由ノ不當ヲ擧クルニ非スシテ之ニ對シ論難スルヲ得サルモノトス

第四項ヲ按スルニ被上告人ハ其七八號ヲ以テ孫四郎ヨリ引繼キ上告人ニ論地ヲ貸渡置タル證據ヲ立タルニ上告人ハ之ニ對シ其然ラサル所以ノ反證ヲ擧タルコトナクシテ只論地ヲ進退シタリ地代ヲ拂タルコトナシト云モ口頭ノ陳辨ニ止ルモノナレハ上告ノ原由トナスヲ得サルモノトス

第五項論地内ニ小屋建設ノ事タル原判官カ論地所有ノ證トナスヘカラサル理由ヲ示シタルニ對シ何等ノ反證ヲ擧ルニ非サレハ只意見ヲ異ニスト云ニ過サルモノトス

第六項ハ原判官ハ其職權上ニ於テ月山孫四郎ノ陳述ハ眞實ノ申立ナリト認メ之ヲ採用セシニ對シ論難スレモ其不眞實ナル適證ヲ擧タルニ非サレハ右陳述ニ付原判官ト其感觸ヲ異ニスト云ニ過サレハ上告ノ原由トナラス  
右ノ理由ナルニヨリ本上告ヲ受理セス

○第五百六十九號

貸金催促裁判執行附帶一件上告ノ判文(明治十六年十二月十七日上告)

全 十七年十一月廿九日申渡  
茨城縣下總國西葛飾郡古河町

二丁目二百四十四番地平民

篠崎 周之助

東京府日本橋區上楨町四番地

寄留茨城縣平民

岡野 寛

右代言人



沃城縣下總國西葛飾郡古河町

二丁目二百七十八番地平民

被告上告人

石山 金次郎

同縣同國同郡同町二百六十五

番地平民

被告上告人

五家 萬次郎

埼玉縣武藏國北埼玉郡麥倉村

平民

被告上告人

相良 源兵衛

上告ノ要領

一本按ハ甲第一二號證ノ効力ニ依リ抵當ノ不動産モ共ニ効力アル者ナル事ハ法律ニ於テ許ス所ナルニ原裁判所カ被告上告者等ノ賣却ヲシテ却テ効力アリト判定セラレタルハ不法ナリトノ事

凡ソ契約ノ組成スルヤ其原因目的完備シタル者ニアラサレハ効力ナキ事識者ヲ俟タス而シテ不動産抵當ノ如キハ其返還ノ目的ヲ約シタル者ニシテ若シ義務者滯ルアラハ該證ヲ以テ強制所謂公力ヲ籍リテ之カ執行ヲ求ムルノ權利アル事ハ又辯ヲ俟タサルヘシ故ニ原因目的完備シタル場合ニ至テハ就中抵當不動産モ亦有効ト爲スヘキナリ本按甲一二號證ノ如キ被告上告金次郎カ借金抵當ニ供シタル者ナレハ爭訟中之ヲ賣買スヘキ自

由アルコトナシ何トナレハ爭訟中ト雖モ戸長役場ノ公證尙ホ存在スレハナリ然ルニ被告上告者等ハ上告者カ戸長役場ニ請願シ賣買ノ公證差留メヲ爲シ置キ役場モ之ヲ容レテ公證ヲ拒ミタルニモ係ラス甲八九號證ノ如ク強テ公證ヲ請ヒタルノ實證ニ依レハ之ヲ不正ト云フモ亦餘アリトス何トナレハ萬次郎ト源兵衛ハ親族ニシテ該物件ハ上告者ノ抵當タルヲ知テ爲シタルモノナレハナリ況ンヤ金次郎ノ如キハ甲七號證ノ如ク宅地書入證ヲ小室潜之介ニ宛テ強テ公證ヲ經タル事アルモ潜之介ハ金圓貸シ與ヘスト保證セシ如キ所爲アルニ於テオヤ是等ノ所爲タル全ク甲一二號證ノ抵當ヲ他ニ賣却或ハ書入等ノ體裁ヲ爲シ單ニ一身ノミノ身代限りニ止メ上告者ヲ害セントシタルノ實明白タリ加之已ニ開陳スル如ク甲五號證ノ確定裁判ニ據リ甲一二號證カ完全無缺ノ効力ヲ有スル以上ハ何ソ被告上告者等カ賣買ニ効ヲ奏スヘケンヤ被告上告者或ハ言ハシ甲第四號證ノ判定ニ依リ賣却ノ効アリト此論採ルニ足ラサルナリ何トナレハ甲四號證ハ取りモ直サス裁判ニ及ハサルトノ主意ニシテ即チ甲一二號ノ抵當ヲ賣却スヘシトノ命令ヲ宣告セラレタルモノニアラサレハナリ且甲四號證ハ法律上錯誤ニ出テタルコトハ甲五號證ヲ以テ知ル果シテ然ラハ甲四號證アリトテ賣却シタルモ錯誤ト云ハスシテ何ソヤ已ニ錯誤故ヲ以テ賣買シタル物件ニ對シ焉ンソ効ヲ奏スヘケンヤ素ヨリ上告者カ權利ノ回復ヲ要ムルノ權アルヲ以テナリ夫レ然リ甲一二號證即チ該契約返金ノ目的タル不動産抵當ハ共ニ有効ニシテ法律上公力ヲ籍リ執行スルノ權利アルモノナルニ原裁判所ハ抑終審裁判ハ執行ヲ中止セサル制規ナルカ故乙丙號證ノ如ク被告萬次郎及ヒ源兵衛カ金次



郎ヨリ買受タルハ不當ノ所爲ト云フヲ得ヘカラス云々原告ハ被告金次郎ニ對シ甲一號證ノ金額ヲ要ムルハ論ヲ俟タサル者ナレト萬次郎源兵衛ニ對シテノ訟求ハ不當ナリトス」ト裁判セラレタルハ不法ノ裁判ト思考ス

上告追伸書要領

一被上告者等ハ甲四號證即チ控訴裁判ニヨリ甲一二號證公正ノ抵當物件ヲ賣却シタリト謂フモ甲五號證即チ大審院ニ於テ甲四號ナル終審裁判ヲ破毀セラレ依然甲一二號證ノ効力明確ニ歸セシメラレタルハ蓋シ抵當物件アルハ義務改新ト爲シ甲一二號證ヲ有効トセラレタルヲハ右甲五號證判文ニ明カナリ果シテ然ラハ縱令甲一二號抵當ノ不動産ヲ被上告者等賣買セシニモセヨ甲一二號成立ノ當時抵當タリシ不動産ハ依然抵當ニシテ未タ抵當ニアラスト云フヲ得サルニ因リ被上告萬次郎源兵衛等カ現有セシハ故ラニ抵當物件ノ相續人タルニ過キサレハ其賣主タル金次郎カ盡スヘキ抵當物件ノ義務ヲ負擔スヘキハ法理ノ然ラシムル所ナリ何ナレハ萬次郎等ハ金次郎ノ義務ニ超過セシ任ヲ帶ヒスシテ單ニ抵當物件ニ耳止マル義務ヲ執行ス可キモノナレハナリ又甲一二號證ノ効力アル事ヲ證セン爲メ茲ニ一例ヲ擧ケンニ物件ニ對シタル敷金ノ如キ第三得者ノ人假令知ラスト云フモ法理ハ先キノ敷金者ヲシテ物上ノ權利ヲ動カス可カラストスヘキ也之ニ依テ考ルモ法律ハ被上告者等ノ賣買ハ真正ノ効力アリトハ看做シ難カルヘシ故ニ甲一二號證抵當不動産ハ被上告者カ義務ノ順序ニ依リ公賣スル乎或ハ被上告者與カツテ借金償却スル乎ノ義務アルモノト確信ス

被上告者石山金次郎ハ明治十七年六月廿五日迄五家萬次郎ハ明治十七年六月十三日迄出頭答辨ノ猶豫ヲ願置期日答辨ヲ爲サス相良源兵衛ハ召喚期日ニ出頭答辨セサルニ因リ更ニ明治十七年十月廿三日付ヲ以テ明治十七年十一月一日迄ニ出頭答辨セサルニ於テハ答辨ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ闕席ノ儘可及裁判旨ノ召喚狀ヲ送達セシメタル處尙ホ期日ヲ經過スルモ出頭答辨ヲ爲サス

仍テ大審院ハ被上告者闕席ノ儘判決スル左ノ如シ

抑終審裁判ナルモノハ只其執行ヲ中止セザルトノ成規ニ止リ直ニ動カスヘカラサル確定裁判ト云フヲ得ス何トナレハ上告シテ破毀ヲ求ムルノ途アレハナリ今上告者ハ上告甲第四號證ノ如ク上告甲第一二號證ノ權利ハ訟求シ得ヘカラサルモノトノ終審裁判ヲ受ケタルモ之ヲ不法トシテ本院ニ上告シ上告甲第五號證ノ如ク右甲第四號證終審裁判ノ破毀ヲ得タル上右甲第一二號證ノ權利ハ訟求シ得ヘキモノトノ終審裁判即チ動カスヘカラサル確定裁判ヲ受ケタル限りハ依然上告甲第一二號證ノ抵當物件ニ付特權ヲ有スルハ勿論ナリ而シテ其特權ニ於ケル其抵當物件ニ對スルモノナル而已ナラス買主ナルモノハ其買得シタル物件ニ就テ其義務ヲ繼襲シタルモノナレハ被上告者ノ内五家萬次郎相良源兵衛ニ於テハ右甲第四號證ノ終審裁判ニ據リ戸長ノ公證ヲ經テ上告甲第一二號證ノ抵當物件ヲ石山金次郎ヨリ買得シタルモ上告者カ上告甲第一二號證ニ據リ訟求スル義務ヲ執行スヘキ賣アルモノニシテ決シテ上告者ノ要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス然ルニ原裁判所カ原告ハ被告金次郎ニ對シ甲第一號證ノ金額ヲ求ムルハ論ヲ俟タサルモノナレト萬次郎源兵衛ニ對シテノ訟求ハ不當ナ



リトス云々ト判決シタルハ不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所カ本案ニ對シ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受ケシメンカ爲メ宮城控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百七十號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十七年二月廿日上告  
全 年十一月廿九日申渡)

秋田縣羽後國平鹿郡横手榮町  
平民

上告人

中西八郎右衛門

東京府京橋區北槇町十四番地

寄留新潟縣士族

右代言人

池田 有恒

秋田縣羽後國平鹿郡横手四日

町下丁平民

被上告人

坂本 ナカ

同縣同國仙北郡金澤村平民

坂本 キノ

被上告人

同縣同國同郡同村平民

右代人

福田 久右衛門

東京府京橋區南鍋町一丁目一

番地寄留佐賀縣平民

右代言人

秀島 虎二郎

上告ノ要領

一 夫宮城控訴裁判所ノ裁判ハ聽斷ノ定規ニ反キタリ何トナレハ本訴ハ秋田始審裁判所  
カ判決シタル如ク引合人坂本仁三郎ト上告者ノ間ニ起ルノ訴訟ナレハ假令被上告者ヨ  
リ起訴シタル控訴ナリトテ本案ヲ終結スルニ方リテハ坂本仁三郎ヲ關與セシメ本訴ノ  
主要ナル貸金返濟ノ手續ヲ判決セサルヘカラス然ルニ單ニ(第一號乃至第四號證)ノ抵  
當ハ仁三郎カ所有ノ建家ニ對シ其効力ヲ有スルニ止ルモノト)ノミ判決シテ上告者カ  
請求ノ貸金催促ノ事ハ裁判ヲナサヌ即坂本仁三郎ニ對シ裁判ヲ宣告セサレハナリ

二 抑菊池兵左衛門ノ申供ハ一モ證據アルコトナシ然リ而シテ被上告者カ拒辨ノ主眼トス  
ル公證差止ノ一事モ亦曾テ確的ノ證據アルナシ然ルニ(本論ノ證書ニ公證セシ所以ハ  
當時坂本仁三郎及ヒ被告等戸長役場ニ出頭シ仁三郎カ原告トノ訴訟敗訴セハ其抵當無  
効ヲラントノ請願アルヨリ公證セシモノナリト引合人舊戸長菊池兵左衛門ニ於テ證言  
シ此證言ハ曾テ坂本仁三郎カ始審ニ對シナシタル陳述ト符合スルヲ以テ之ヲ觀レハ被  
告ハ當時其事實ヲ知リテ抵當トナサシメタルモノト認視セサルヲ得ヌ)ト判決ヲナシ  
タリ嗚呼不條理ノ極ナラス哉兵左衛門ノ口上ト仁三郎ノ口上ハ同一ニ出テタレハトテ



被告ハ公證ノ無効ニナルモ不苦ト請願シテ虛偽ノ公證ヲ得タルモノナリト推測スルハ無根ノ妄誕ト云フノ外ナキナリ夫レ兵左衛門仁三郎等カ如何ニ言フモ其ハ兩人等カ隨意ノ口ニ出ルモノニシテ彼等ト利害ヲ同シクセサル上告者ノ權利ヲ奪フノ證據トスルニ足ラサルモノナリ若夫レ民事上如此事柄ヲ以テ確的ノ證據即チ甲第一號證乃至第五號證ノ權利ヲシテ無効ニ屬セシムルモノナラハ則チ吾人ノ權利ノ安固ハ將ニ絶ヘナントス嗟亦悲シカラスヤ是即原裁判ハ不條理ナリト云フ所以ナリ

追伸書ノ要領

乙第一二號證ニ據レハ亡仁三郎所有ノ不動産ハ建家ヲ除クノ外相續ノ權恰モ被上告者ニ在ルモノ、如シ然リト雖モ父仁三郎ノ没後被上告者等ハ之ヲ相續スルコトヲ爲サスシテ引合人ニ相續セシメタリ之レ即チ社會ニ對シ引合人ノ所有主タルコトヲ明許シタルモノナリ爾後上告者等ニ於テ如何ナル内情如何ナル都合ナルカハ知ラサレモ先キ引合人ニ相續セシメタル物件ヲ取戻サンカ爲メ引合人ニ對シ遺書物引渡ノ訴訟ヲ起シ尋テ該件收局前引合人ノ物件ヲ他ニ消失センコトヲ恐レ戶長役場ニ對シ公證差留願ヲ爲セリ知ルヘシ當時引合人ハ被上告者等ノ訴狀ヲ拒ミ承諾セサリシコトヲ亦知ルヘシ戶長ニ於テモ亦公證差留願ヲ受タリト雖モ職權上探理スヘキニアラサレハ之ヲ認行セサリシコト而シテ上告者ノ引合人ヨリ抵當ニ取受ケシハ該訴判決ノ以前第三番ノ抵當ハ判決後ニ係ルモ被上告者ニ於テ戶長役場ニ届出サス又引合人ニモ執行ヲ求メサレハ上告者ハ得テ即引合人ノ公然タル所有主中戶長ノ公證ヲ經タル公正ノ取引ニシテ上告者ニ一變ノ惡意ナク又瑕瑾ナキナリ然ラハ即チ被上告者ニ於テ引合人ニ勝テ物件

所有ノ權ヲ回復シタレハトテ既ニ上告者ニ抵當トナレル上ハ引合人ハ勿論被上告者ト雖モ爭テカ負債ヲ完済セス直ニ抵償物ヲ奪ヒ得ヘケンヤ究竟被上告者等ハ引合人ニ對シ損害ヲ要ムルノ一途アルノミカ

菊池兵左衛門ハ原裁判所ニ上申シテ曰ク一番二番ノ公證ハ債主ニ於テ仁三郎敗訴セシ時ハ自然無効ニ屬スヘシト申立タルニ由ル又第三番ノ公證ハ債主ニ於テ仁三郎カ敗訴シタレモ尙ホ上告スヘシトノ事ナレハ未タ確定ノ裁判トハ云ヒ難シト申立タルニ由ルト豈ニ管ニ一再ノミナラス既ニ仁三郎ノ敗訴セシコトヲ聞知セシモノナラハ何物ノ愚カ猶ホ且是ニ公證ヲ爲スモノアラン妄誕無稽ノ言固ヨリ信スルニ足ラサルノミナラス却テ兵左衛門ノ公證差留願ヲ認行セサリシコトヲ觀ルヘキナリ

以上ノ論辨ハ今ニシテ始メタルニアラス抑モ始審以來ノ主論ナルニモ拘ハラヌ原裁判所カ曾テ開カサルモノ、如ク之ヲ抛擲セラレタルノミナラス却テ引合人及菊池兵左衛門等カ無根ノ妄誕ヲ採容セラレタルハ採證其法ヲ失フタル裁判ト謂フヘキナリ

辨論書ノ要領

一被上告者ニ於テ片岡惣助ヨリ公證申受ノ際ハ舊戶長菊池兵左衛門ヨリ乙第四號證ノ如ク通知アリタルニ付公證不承知ノ義ヲ申斷候處舊戶長ハ之ヲ承諾シテ同人ノ公證ヲ拒絶シナカラ翌日即明治十四年六月八日ニ於テ上告者ノ申込ニ對シテ公證セルハ奇恠ナリ云々申立レトモ抑モ十四年頃ハ未タ戶長ノ職權中公證差止願ヲ許容シテ法律上ノ權即所有權書入質權等ノ諸權ヲ停止シ得ヘキ制規ナキノ昔ナレハ假令ヒ戶長カ許容スル



モ法律ノ範圍外即一私人ノ許容ニ過キサルナリ況ンヤ被上告者ノ申立ニ依ルモ被上告者ノ不承知ヲ申立タルハ戸長ノ通知ヨリ七八日モ經過セル以後タルノミナラス此不承知モ亦タ果シテ申立タルヤ否ヤ證據ノ以テ徵スヘキ者ナキニ於テヲヤ

一被上告者ニ於テ上告者ト引合人トハ皆ナ横手村ニ居住スル者ニシテ接近ノ間柄ナリ明治十四年六月頃ハ最早上告者ト引合人トノ間ニ遺書物引渡ノ訴訟ヲ起シ明治十五年九月頃ハ該訴ノ裁判モ確定シ被上告者ト引合人トノ紛争ハ上告者モ萬々熟知ノ筈ナレハ道義上引合人ノ抵當ハ取ルヘカラス原裁判所ノ此事實ニ依リ甲第一二三號證ノ公證無効ナリト判定セラレタルハ動カスヘカラサル認定ナリト云フ者ノ如シト雖モ上告者ト引合人トハ共ニ横手村ニ居住スルモ榮通町ト四日町トハ數丁ヲ隔テ接近ノ地ナラサルノミナラス被上告者ト引合人トノ訴訟ハ曾テ聞知シタルコトナシ然ルニ原裁判所ハ斯ル不確實ナル情實ヲ執リ以テ法律上ノ公證ヲ無効トセラレタルハ法律ヲ藐視シタル不法ノ裁判ニシテ法律ノ假借スル所ニアラサルナリ若シ夫レ斯ノ裁判ニシテ事實ノ認定ハ承審官ノ權内ナリトシ不問ニ付シ去ルカ如キコトアラハ凡ソ一國ノ法律ハ裁判官ノ妄推ニ左右セラレ社會ハ一日モ法律ノ下ニ安ンヌル能ハサルナリト

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

上告前項ノ旨趣ヲ審案スルニ本訴ハ元上告人ヨリ坂本仁三郎ニ對スル貸金催促ナレ共其貸金辨償ノ事ニ付テハ仁三郎ニ於テ既ニ始審ノ裁判ニ服從シテ曾テ控訴ヲ爲シタルコトナク唯ニ抵當ノ効力ニ付被上告人カ不服ヲ唱ヘ控訴シタルモノナリ故ニ原裁判所ハ素ヨリ争訟ナ

キ事柄ニ對シ裁判ヲ與フ可キ條理ナキヲ以テ抵當ノ効力而已ニ就テ裁判ヲ與ヘ貸金辨償ノ事ニ及ハサリシハ當然ノ事ニシテ敢テ不法ノ廉ナシトス

上告後項ノ旨趣ヲ審案スルニ原裁判所ハ單ニ菊池兵左衛門ノ證言ト坂本仁三郎ノ陳述ト符合スル而已ヲ以テ認定ヲ爲シタルニ非ス即チ上告乙第一號<sup>原證據番號</sup>乙第二號<sup>同上番號</sup>乙第三號<sup>同上番號</sup>乙第五號<sup>同上番號</sup>ニ因リ當時戸長カ本訴物件ニ對シ容易ニ許諾シテ正當ノ公證ヲ與フ可キ筈ナキ事實ヲ看認タルコトハ原判決明文上ニ於テ判然タリ然レハ其不正當ノ公證ハ故意ニ出タルモノトセンカ其證據ナシ又錯誤ニ出タルモノトセンカ乙第五號證ノ處置ニ照シ之ヲ信シ難シ仍テ兵左衛門ノ證言ト仁三郎ノ口供符合スルヲ採テ認定シタルハ其原由アル相當ノ認定ナリトス

但上告人ハ追伸書辨論書等ヲ呈出スルモ前兩項ノ趣旨ヲ敷衍論述スルニ止ルヲ以テ別ニ辨明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルニ因リ宮城控訴裁判所カ與ヘタル終審ノ裁判ハ破毀ス可キ筋之ナキモノナリ但上告入費ハ上告人ノ負擔タル可シ

○第五百七十一號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十七年七月十七日上告  
全 年十一月廿九日申渡)

山梨縣甲斐國中巨摩郡南湖村

二百三十番地平民

上告人

宮田 仙藏



全縣全國全郡全村二百廿六番

地平民保坂文左衛門二男

被告上告人

保坂市造

全縣全國全郡全村二百番地平民

民

引合人

内池作次郎

本件ハ上告人ノ起訴ニシテ明治十六年一月十八日被上告者ニ貸渡シタル元利金貳拾貳圓七拾九錢九厘返濟ノ請求ヲ爲シ始審ニ於テ被告上告人ヨリ完済スヘキモノト言渡サレ被告上告人ハ之ニ服セス控訴ニ及ヒタル處上告者敗訴ノ裁判ヲ受ケ之ヲ上告スルモノナリ

甲府始審裁判所終審判文ハ左ノ如シ

被告ニ於テ明治十六年一月十八日ニ在テ原告ハ内池作次郎ト俱ニ自宅ニ來リ金圓借受ケ度トテ甲號證差出シタルニ付其依頼ニ應シ金拾九圓原告ヘ貸渡シタリ尤其證券中原告ノ名前ハ原告カ自カラ書認メシヤ又其名下ニ押捺シアル印影ハ果シテ原告ノ印影ナルヤ否ヤハ相分ラサルモ事實前件ノ如ク貸渡シタルニ相違無之ニ依リ速カニ返金受ケ度旨申立ルト雖モ原告ニ於テハ其金圓借受ケタルコトナキノミナラス該證券ハ毫モ覺之ナク殊ニ其證中原告ノ名下ニ印影ノ押捺シアルモ原告ハ未タ曾テ印影無之モノニ付其印影ハ原告ノ印影ニハアラサル旨申立而シテ嚮キニ原告カ自ラ其姓名ヲ書認メタリト勸解廷ニ於テ申立タル大木政兵衛ノ手裏ニアル金六拾圓ノ借用證中原告ノ名下ニ押捺シアル印影ト本訴

證券原告名下ノ印影トヲ印判師三名ヲシテ比較鑑定セシメタルニ相違セル旨供述シ且原告ヲシテ其姓名ヲ自書セシメ之ヲ本訴證中ニ記載アル原告ノ姓名ト對照スルニ其筆意字畫ヲ甚タ異ニスルヲ以テ觀レハ該證ハ原告ヨリ差入タル真正ノモノトハ認メ難キニ付該證ニ對シ金圓貸渡シタルヲ以テ返金受ケ度トノ被告申分不相立ト

第一項

終審廳ニ於テハ上告者カ陳述シタル覺ナキ口供則被告上告ヨリ取置タル證券ノ名前ハ自記ナルヤ否ヤ又印影ハ果シテ被告上告ノ印影ナルヤ否ヤ知ラス等ノ語ヲ以テ第一ノ口供トナシ一途ニ被告上告ノ口實ヲ以テ採用セラレ不當ノ裁判セラレタルモ該證券ノ名前ハ被告上告ノ自書ナル事初審廳ニ於テ引合人内池作次郎ノ陳述及ヒ勸解第一萬九千八百五十六號件ニ對シ其證券ノ姓名ハ自筆ナリト陳述シアルノミナラス其際勸解表ヘ自記シタル書體ト筆勢毫モ異ナルコトナキヲ以テ明瞭セリトノ事

第二項

原判文中(大木政兵衛ノ手裏ニアル金六拾圓ノ借用證中原告ノ名下ニ押捺シアル印影ト本訴證券原告名下ノ印影トヲ印判師三名ヲシテ比較鑑定セシメタルニ相違セル旨供述シ云々)トアリテ原裁判所カ本案判定ノ證據トセラレタルモノナリ而シテ被告上告ニ實印ナキトハ被告上告者ノ取テ動カサルモノナレハ大木政兵衛ノ手裏ニアル借用證中被告上告ノ名下ニ押捺シアル印影モ被告上告ノ實印ト見做スヘキ證據アルヘカラス然ルニ原裁判所ニ於テ



之ヲ被上告ノ實印トセラレタルカ上告者ノ請願モナキニ印判師ヲシテ強テ鑑定セシメラレタルハ是亦不當ノ裁判ト云フヘシ云々原裁判所ハ必要ナラサル印判鑑定ヲナサシメ以テ本訴斷定ノ材料トセラレタルハ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス況ンヤ印判鑑定人ノ申立モ皆區々ニシテ一定セサルニ於テハ何レノ箇所カ相違セルヤ得テ知ルヘカラストノ事

第三項

原判文中(被告ヲシテ其姓名ヲ自書セシメ之カ本訴證中ニ記載アル原告ノ姓名ト對照スルニ其筆意字書ヲ甚異ニシタル云々)ノ如キハ甚以テ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス如何トナレハ凡ソ筆勢ノ如キハ自由ニ變更シ得ラルレハ終審廳ニ於テナシタル被上告カ自書ノ如キハ實ニ取ルニ足ラサルナリ加之勸解中被上告ハ甲第一號證ノ自書ナルヲ認メ引合人内池作次郎ニ於テモ亦其自筆ナルヲ認メ又其際自記シタル書體ト甲第一號證ノ書體ト同一ナルハ始審廳ノ認メテ確乎タルモノナリ此三箇ノ動スヘカラサルモノアルニモ拘ハラス原裁判所ハ該廷ニ於テ被上告者カ自書シタルモノト甲號證ト比較セラレ以テ本訴斷定ノ材料トセラレタルハ採證其法ヲ誤リ爲メニ法律ノ錯誤ヲ致シタル不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス況ンヤ原裁判所ニ於テ被上告ヲシテ自書セシメ對照シタル等ノ事ハ原告ニ於テ更ニ見聞セサル所ナリ果シテ然ラハ法官ハ上告者ノ出廷セサル日ニ對照セラレタルカ將々臆斷ヲ以テ異ナルモノトセラレタルカ今之ヲ知ルニ由ナシト雖モ亦不法ノ裁判タルヲ免カレストノ事

本院ニ於テ辨明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

上告要旨第一項ヲ按スルニ上告者ハ曾テ陳述シタル覺ナキ口供ヲ原判文ニ掲ケ一途ニ被上告ノ口實ヲ採用セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云ニ過キサレトモ原書類中明治十七年二月廿三日上告者カ成シタル口供ニ(本訴金拾九圓ノ證券ハ明治十六年一月十八日ニ在テ保坂市造及ヒ内池作次郎ノ兩人自宅ニ罷越シ金拾九圓借受ケ度トテ該證券差出シタルニ付其依頼ニ應シ金圓貸渡シタルニ相違無之候尤モ該證券中保坂市造トハ市造カ自ラ記載セシヤ自分ニ於テ相分不申云々該證券中市造名下ニ押捺セシ印影ハ必ス市造ノ實印ナルヤ否モ自分ニ於テハ確ト相分不申候事)トアレハ原判官ハ上告者ノ實際陳述シタル口供ヲ其判文ニ掲ケタルモノニテ不法ノ裁判ト云ヲ得ス又被上告ノ自書ナルヲハ初審廳ニ於テ引合人内池作次郎ノ陳述及ヒ勸解第一萬九千八百五十六號件ニ對スル證券則大木政兵衛カ手ニアル證券ノ姓名ハ自筆ナリト陳述シタルノミナラス其勸解表へ自記シタル筆勢ト同一ナル旨論告スト雖モ原書類中被上告カ勸解表へ自記シタル證憑之ナク又大木政兵衛カ手ニ現存スル六拾圓ノ證券ハ既ニ原裁判所ニ於テ印判師三名ノ鑑定書ニ因リ其印影相違シ筆跡モ亦被上告ノ自署シタルモノト相違セリト認定シタルハ原判官ノ主權ニ屬スレハ又動カストヲ得サルモノトス

同第二項ヲ按スルニ被上告ハ素ヨリ實印ナシト主張スルニ上告甲號證ト大木政兵衛ノ手裏ニアル證書中被上告名下ノ印影トヲ比照センカ爲メ原判官ハ上告者ノ請願ナキニ印判師三名ヲシテ強テ鑑定セシメ本訴斷定ノ材料トセラレタルモ鑑定人ノ申立區々ニシテ何レノ個所カ相違セルヤ知ルヘカラストモ明治十七年五月十二日付



上告者カ原裁判所ニ差出シタル鑑定人御召喚願ト題スル書面中(保阪市造代理人佐伯安樹ヨリ自分ニ係ル控訴事件ニ付鑑定人御召喚ノ上證書名下エ押印アル印形鑑定被仰付度云々)トアリ又鑑定人小宮山豐平外二人ノ鑑定書ヲ閱スルニ上告甲號證則チ拾九圓ノ證書中被告名下ノ印ヲ指示シテ彼是相符合セサルトノ事孰レモ同一ノ鑑定ナリ然ラハ則チ原裁判所ハ上告者ノ請願ニ因テ大木政兵衛所持ノ證書ト甲號證トノ比照鑑定ヲ命シ而シテ其事實ヲ推究シタルモナレハ不法ノ裁判ト云ヘカラス

同第三項ヲ按スルニ上告甲號證ハ被告上告者ノ自書ナルコトハ被告上告及ヒ引合人始審廳等ノ認メテ動カサルモノナルニモ拘ラヌ原裁判官ハ被告上告ヲシテ自書セシメ本訴<sup>上告</sup>證據モノト對照スルニ其筆意字書ヲ異ニセリト判定セラレタルハ採證其法ヲ誤リ甚不法ノ裁判ナルノミナラス被告上告者カ自書シタルコトヲ見聞セサレハ法官ニ於テ上告者ノ出廷セサル日ニ在テ對照セラレタルカ將タ臆斷ヲ以テ異ナルモノトセラレタルカ知ルヘカラスト論告スレトモ抑モ原被告ヲシテ自書セシメ其筆跡ヲ試ミ之レカ真否ヲ認定スルハ原判官ノ職權内ニシテ又之レヲ秘密ニ舉行セシ證憑ナキヲ以テ是亦不法ノ裁判ト云ヘカラス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本案ノ上告ハ受理セサルモノ也

○第五百七十二號

貸金催促ノ一件上告ノ判文(明治十七年八月十四日上告  
全 年十一月廿九日申渡)

千葉縣印幡郡八街村東京第二

十國立銀行支店取締役前山清  
一郎代理人

東京府京橋區南鍋町一丁目四  
番地寄留佐賀縣士族

土山 虎 四 郎

千葉縣武射郡真行寺村十七番

地平民

鈴木 彌 太 郎

全縣全郡全村五番地平民

小 川 儀 治

被告上告人

本件ハ上告者ノ起訴ニシテ其詞訟ノ要點ハ被告上告人鈴木彌太郎ニ對シ甲第一號<sup>上告者</sup>證ノ貸金元利六百四拾五圓六錢貳厘返濟ヲ受ケ度旨訟求セリ被告上告人鈴木彌太郎ハ之ニ對シ甲第一號<sup>上告者</sup>證ハ差入タルニ相違ナキモ其實金三百五拾圓ヲ借用シ尙ホ該金ハ小川儀治ノ手ヲ經テ數回ニ金二百四拾圓餘ヲ入金シタレハ其請求ニ應シ難シト答辨シ上告人ハ始審ニ勝訴ノ裁判ヲ受ケタル處被告上告人鈴木彌太郎之ニ服セス上告者并ニ被告上告小川儀治ヲ被告トナシ控訴ニ及ヒ上告者敗訴シ之ヲ上告スルモノナリ

東京控訴裁判所判文ノ要領左ノ如シ

本訴ハ要スル所儀治<sup>被告上告人</sup>鈴木彌 へ交付シタル乙第三號<sup>被告上告人</sup>乃至



第八號證ハ被告上告者以ニ對シ効力アルヤ否ヤヲ判決スヘキニアリ案スルニ丙第一號被告上告人磯治委任狀ハ小川磯治ニ於テ紛失シタル旨ヲ以テ其本紙ヲ提供セス且被告銀行ニ於テモ認メサルモノナルカ故採テ證據トナスニ由ナキモノナレトモ第十號證ハ正シク被告銀行ノ認ムルモノニテ又丙第二號證モ明治十七年五月十九日對審ノ節被告銀行代言人ニ於テ其眞偽ヲ本人へ問合セノ上明廿日正午十二時迄ニ答辨スヘク若シ其日時迄ニ何等ノ申立モナサハル時ハ乙第十號證同性質ノモノト看做サルヘシト述ヘ置キ其後尙ホ開廷スルモ此儀ニ就キ一言ノ申出モ之ナキ上ハ是亦眞正ノモノナルヲ疑ヒナシトス又丙第三號乃至第五號證ハ被告銀行ニ於テ磯治へ交付シタル覺ナシト云モ丙第三號證ノ用紙ハ被告銀行ニ用ユル所ノ界紙ニ相違ナキ旨ヲ認メ丙四五號證ニ押捺シアル印影ハ被告銀行ノ印章ニ相違ナキモノ、如ク見受ケタルト云ヒ而シテ右三葉ノ證書ノ詐爲ニ係ルモノタル證據ヲ舉示セサル限りハ是亦眞正ノモノト看做サハルヲ得サルナリ以上五葉ノ證書ニ就テ觀レハ被告銀行ノ貸付掛リ即チ小川磯治ノ職務ハ數口ノ貸付金ニ關スル諸事ヲ掌ルモノニテ單ニ借用人ノ身元ヲ取糺シ其契約書ノ保證人トナルニ止マラサルヲ明断ナリ然ルヲ被告銀行ニ於テ磯治ハ甲第一號證ニ保證人タルカ故同人ニ該金額ノ取立方ヲ委託スヘキ謂レナシト論スレトモ採用シ難シ如何トナレハ現ニ乙第十號證ノ如ク磯治ニ取立方ヲ委託シタル高橋新右衛門ノ借入金證書ニモ亦磯治カ保證人タリシ旨被告銀行自陳シ居レハナリ夫レ斯ノ如ク磯治ハ公然被告銀行貸付掛リノ名稱ヲ帶ヒ實ニ其事務ヲ擔當シ己レカ保證人タル貸金モ亦自カラ取立タル形迹アルニ依レバ甲第一號證金額ノ貸付

取立共職務上ニ於テ取扱ヒタルモノト推定セサルヲ得ス然ラハ則チ磯治カ原告ニ交付シタル乙第三號乃至第八號證ハ被告銀行カ自カラ交付シタルニ均シキ効力アルヲ勿論ナリトス依テ被告申分相立タサルヲ以テ原告ニ於テハ當初借用シタル金三百五拾圓ノ内乙第四號乃至第六號證ノ入金三百貳拾貳圓ヲ扣除シタル殘額ト明治十五年七月已降ノ利子トヲ併セテ返済スヘキモノト判決シタリ

右ノ判決ヲ不法ナリトシ上告ニ及要領ハ左ノ四項ナリ

- 第一 被上告人等ハ其丙第一號證委任狀ニヨリ上告甲第一號證ノ内金ヲ授受シタルモノナリトノ申立アレハ其委任狀之ナキ時ハ無論其權利ナキヲ自ラ明瞭ナルニモ拘ハラズ本件ニ關係ナキ被上告丙第二號乙第十號證等ヲ採用セラレ遂ニ貸金取立ハ磯治カ職權ナリトセラレシハ條理ヲ失マリタル不法ノ裁判ナリトノ事
- 第二 被上告磯治ハ貸付金世話掛ニシテ所謂ル口入人若シクハ周旋人ト同様ノモノナリト申立置キタルニ原裁判所ニ於テ貸付掛トセラレシハ聽斷ノ定規ニ乖キタル不法ノ裁判ナリトノ事

第三 假リニ被上告磯治ハ貸付掛トスルモ彼レカ交付シタル乙第四號乃至第六號證ハ上告銀行ノ看認メサルモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ上告銀行カ自カラ交付シタルニ均シキ効力アルモノトセラレシハ銀行條例ニ背馳シタル不法ノ裁判ナリトノ事

第四 上告甲第一號證ノ如ク被上告彌太郎へ金五百五拾圓貸付シタル事ハ該證并銀行帳簿ニヨリ明瞭ナルニ却テ被上告磯治カ擅ニ交付シタル被上告乙第三號證ヲ採用セラレ



シハ銀行條例ニ背馳シタル不法ノ裁判ナリトノ事

本院ニ於テ辨明及ヒ判決ヲ與フル左ノ如シ  
 上告要旨第一項ヲ案スルニ被告上告人等ハ丙第一號委任狀ニ依リ上告甲第一號證ノ内金ヲ授  
 受シタリト申立アリ而シテ其委任狀ナケレハ無論權利ナキト明瞭ナルニモ拘ラス丙第二號  
 及ヒ乙第十號證ヲ採用シ貸金取立ノ權利ナキ職權カ職權ナリトセラレタル原裁判ハ條理ヲ  
 失マリタル不法ノ裁判ナリト云ニアレトモ明治十七年五月十九日上告者代官人カ原裁判所  
 ニ於テ成シタル口供第一項ニ(乙第十號證代人保證願ハ被告上告者以カ差出シタルモノニ  
 相違無之又小川磯治ハ一時貸付金世話掛ノ名稱ヲ附シタレ其世話掛ノ性質タルヤ被告銀  
 行カ金圓ヲ貸出スニ付テ其借用人ノ身元等ヲ取糺シ被告銀行ニ對シテ之カ保證ヲ爲スヘキ  
 職任ニシテ其借主ヘ對シ金圓取立ル權利ハ決シテ付與セサル所ナリ故ニ甲號證ニモ證人ノ  
 資格ヲ以テ連印シ又乙第十號證ニ記載アル高橋新右衛門ノ貸金證書ニモ保證人ノ資格ヲ以  
 テ連印シタルモノナリ然レトモ被告ノ都合ニ因リ高橋新右衛門ヘ對シ金圓取立ル權利ハ磯  
 治ヘ委任シタルヲアレトモ原告<sup>被告上告</sup>彌太郎<sup>彌太郎</sup>ヘ對スル貸金ニ付テハ決シテ然ルヲ無之ナリトス  
 其第四項ニ(丙第二號證ニ對スル申立ハ明廿日正午十二時迄ニ可致若シ右刻限迄申立無之  
 時ハ該證書ハ被告ノ差出シタル乙第十號證ト同性質ノモノト存候)トアリテ其後之ニ對ス  
 ル申立ナケレハ原裁判所ハ丙第二號ヲモ乙第十號證ト等シク上告者自認ノ證トナシ其事實  
 ヲ認定シタルモノニシテ條理ヲ失マリタルモノト爲スヲ得サルノミナラス證據ノ取捨ト事  
 實ノ判定ハ原裁判官ノ主權ニ屬スルヲ以テ之ヲ動カスヲ得サルモノトス

全第二項ハ原裁判所ニ於テ上告者カ磯治ハ貸付金世話掛ニシテ所謂口入人若クハ周旋人ト  
 同様ノモノナリトノ申立ヲ斥ケタルハ聽斷ノ定規ニ乖キタリト云ニ過キサレトモ原裁判所  
 ハ被告丙第一號證ノ本紙ナキヲ以テ假リニ磯治ヲ貸付金世話掛リ又ハ周旋人ノ資格ニテ  
 取立ノ權利ナキモノトスルモ已ニ上告者カ自認スル乙第十號證高橋新右衛門ニ對スル同質  
 ノ貸付金取立方ヲ磯治ニ委任シタル例證ト丙第三四五號證ノ贋造タル舉證ナキトニ據リ是  
 レ等ヲ聚合シ以テ上告者則銀行ハ素ヨリ本件ノ貸金取立ヲモ磯治ニ委任シタルモノト認メ  
 タルモノニ付聽斷ノ定規ニ乖キタル不當ノ裁判ト云ヲ得ス  
 全第三及ヒ第四項ヲ案スルニ上告者カ認メサル乙第四號乃至第六號證ヲ以テ上告者銀行カ  
 自カラ交付シタルニ均シキ効力アルモノト爲シ又貸付金ハ甲第一號證並銀行帳簿ニ記シ明  
 瞭ナルニ被告上告乙第三號證ヲ採用セラレシ原裁判ハ共ニ銀行條例ニ背馳シタル不法ノ裁判  
 ナリト論告スト雖モ前二項ニ對シ辨明ヲ與ヘタル如ク被告上告人小川磯治ハ本件ニ對シ正當  
 ノ銀行代理者ト認定シタル上ハ其代理者タル磯治カ取扱上銀行條例ニ背馳スル所アルモ是  
 上告者則銀行カ自カラ其條例ニ背反スルノ道理ニ歸シ被告上告者彌太郎ニ對シ其實メヲ及ホ  
 スヘキ筋ナキヲ以テ是亦不法ト爲スヲ得ス  
 右辨明ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノ也  
 ○第五百七十三號

名稱所用爭論一件上告ノ判文

(明治十七年七月廿八日上告) 全 年十一月廿九日申渡

長野縣信濃國南安曇郡有明村



耳塚耕地平民角田善十外三十  
四名代言人

東京府京橋區南鍋町一丁目七  
番地寄留和歌山縣平民

植木綱二郎

長野縣信濃國南安曇郡有明村

耳塚耕地平民

草間永三

外四十一名

被告上告人

被告上告人

本件ハ上告者ノ起訴ニシテ其訴旨タル被上告者カ居住セシ部落ハ甲第二號證ニ記セシ如ク  
大海道筋ト稱セシ所ナリシカ適マ甲第一號證ニ郷本ト云ヘル文字アルヲ奇貨トシ原被兩造  
カ氏神タル香取神社境内ニ於テ公然幟燈籠等ニ該郷本ノ名稱ヲ表記スルハ不當ナルヲ以テ  
之ヲ除却セシメントスルニ在リ而シテ上告者ハ始審ニ直者ト爲リ終審ニ曲者ト爲レリ今其  
終審裁判ノ要旨ヲ掲グルト左ノ如シ

控訴者<sup>被告上告者</sup>ノ郷本ト自稱スルハ古來ノ稱呼ナリヤ或ハ新設ノ誇稱ナリヤヲ考フルニ明治  
十二年ニ成立チシ交換契約書ニハ郷本トアリ明治十二年ノモノニハ大海道筋トアリ則チ  
明治十二年ノ交ニ在リテ斯ノ如ク記載スルモ雙方ニ於テ郷本トハ大海道筋ノ事ナリ大  
海道筋トハ郷本ノ事ナリト解釋ヲ誤ラス通用セシコト明白ナリト認得タリトノ事元來本按

ハ郡町村等ノ公稱ニ關スルモノナラス止タ香取神社祭典ニ用ユル一小部落ノ人民稱呼ノ  
爭論ナリ而シテ控訴者<sup>被告上告者</sup>カ其神事執行ニ用フル郷本ノ稱呼ハ前條ノ如ク證據アルノミナ  
ラス苟モ之レヲ用テ答辨者若クハ他人ヲ害スルノ證據ハ勿論其理由アルヲ見サルモノナ  
リ嚮キニ答辨者カ郷本ヲ顛倒シテ新タニ自ラ本郷ト稱サントセシ事柄ニ比スレハ香塚ノ  
差アリトシ被控訴者<sup>被告上告者</sup>ノ請求ヲ排斥セリ

上告者ハ此裁判ヲ不法トシ上告スル要領左ノ如シ

第一條

原判文ニ(元來本按ハ郡町村等ノ公稱ニ關スルモノナラス止タ香取神社祭典ニ用フル一  
小部落ノ人民稱呼ノ爭論ナリ)トアレ現ニ始審判文ニ明示セラレタル如ク郡村及ヒ耕  
地ノ稱呼ニ於ケル行政官ノ許可ヲ得スシテ人民隨意ニ之レヲ改稱スルコトヲ得サルハ被上  
告者ノ明言スル所ナリ而シテ被上告者カ郷本ノ名ヲ香取神社祭典ニ用フルノミナラス公ケ  
ニ之ヲ稱セントスルハ兩造始審ノ論辨書中ニ明瞭ナリ故ニ始審裁判モ亦此ニ及タル者ナ  
リ是ヲ以テ上告者ハ始審答書第三條ニ於テ神事執行ノミニ用フルニアラサルコトヲ陳供シ  
置キタルニ原裁判所ハ始審ノ申供ヲ擱ヤ單ニ被上告者ノ申立ノミヲ偏信シ本按ノ爭點ヲ  
取違ヒ裁判セシハ不法ノ裁判ト謂フヘシ何トナレハ終審ノ際被上告者ハ神事祭禮ニノミ  
關スル名稱ト云ヒ上告者ハ神事祭禮ノミナラス公稱ニ用フルト爭フニ於テ能ク始審以來  
ノ爭點ヲ取調フヘキハ當然ナルニ之レヲ不問ニ措キ其爭點ヲ取違ヒ終ニ上告者ニ不利ノ  
裁判ヲ與ヘタレハナリ